

博士学位申請論文

待遇表現に関する日本語と韓国語の対照研究

2019年11月

関西外国語大学大学院

外国語学研究科

言語文化専攻

韓 恵盛

# 目次

## 第1章 序論

- 1.1 本研究の背景と目的 1
- 1.2 研究方法 3
- 1.3 本論文の構成 3

## 第2章 先行研究と検討課題

- 2.1 日本語における敬語体系 7
- 2.2 韓国語における敬語体系 14
- 2.3 日本語と韓国語における敬語の類似点と相違点 27
- 2.4 先行研究における検討課題 33

## 第3章 「ポライトネス理論」と日韓両言語の待遇表現

- 3.1 「ポライトネス理論」の概要と追究 34
- 3.2 日本語と韓国語から見た「ポライトネス理論」 41
  - 3.2.1 日本語の場合 41
  - 3.2.2 韓国語の場合 51
- 3.3 日本語と韓国語におけるポライトネス理論の限界 58

## 第4章 「なわ張り・私的領域の理論」と「わきまえ理論」から見た日韓両言語

- 4.1 本章の目的と使用するデータ 64

4.2	「なわ張り・私的領域の理論」の概要	68
4.3	「なわ張り・私的領域の理論」による分析	80
4.3.1	日本語の場合	80
4.3.2	韓国語から見たなわ張り・私的領域の理論の有効性	81
4.3.3	日韓両言語におけるなわ張り・私的領域の理論の扱い	84
4.4	「わきまえ理論」の概要	86
4.5	「わきまえ理論」による分析	88
4.5.1	日本語の場合	88
4.5.2	韓国語から見たわきまえ理論の有効性	89
4.5.3	日韓両言語におけるわきまえ理論の扱い	95
<b>第5章 敬語使用における相対敬語・絶対敬語</b>		
5.1	二人称の主体敬語	98
5.1.1	日韓両言語の実例	98
5.1.2	その分析	103
5.2	三人称の主体敬語	104
5.2.1	日韓両言語の実例	104
5.2.2	その分析	106
5.3	二人称と三人称の両方を配慮する場合	107
5.3.1	日韓両言語の実例	107
5.3.2	その分析	110
5.4	分析のまとめ	110

<b>第6章 韓国語の対者敬語法</b>	
6.1 韓国語における「対者敬語法」の定義	113
6.2 「対者敬語法」から見たポライトネス理論の限界	117
6.3 「対者敬語法」における「非格式形」の特徴	122
6.4 日本語との対照	123
<b>第7章 結論と展望</b>	
7.1 本論文のまとめ	126
7.2 残された課題	134
参考文献	135
参考資料	151
付録 I	152
付録 II	154
図目次	157
表目次	158

# 第1章 序論

## 1.1 本研究の背景と目的

日本語と韓国語は語順から表現方法まで様々なところで類似している。その中でも筆者が最も両言語の美しい表現方法だと考えているのが敬語を含めた「待遇表現」である。相手の気持ちを考慮しながら話そうとする気持ちは世界中のどの言語にも存在すると考えられるものの、日本語と韓国語のように明示的な「形」とシステムを持った言語は滅多にないと考えられる。

しかしながら、日本語と韓国語の敬語を含めた待遇表現が全て一致しているわけではない。二つの言語は明確に敬語の枠組みを持っていながらも、それを用いる場面やどれほどの丁寧さで相手への気持ちを表すかについてはかなりの違いが出てくる。

- (1) 【場面設定：衣服店でお客さんがお洋服を買ってお店を出ようとしている】

店員： 감사합니다. 또 오세요.

(ありがとうございます。またお越しくください。)

客： 네, 많이 파세요.

(はい、たくさん売ってください。)

例 (1) の場面が韓国語の場合、違和感なくごく自然な対話になっており相手への配慮も確保している。一方、日本語の場合になると、「店員」の発話には問題ないと考えられるが、「店員」の発話につづく「客」の返事に不自然さを感じるだろ

う。

例（1）における両言語の共通点は、等しく敬語が用いられており、場面に登場する人物の間で互いに配慮していることである。しかし、相違点を述べようとすると文のレベルでは両言語において何の問題もないものの、談話レベルに広がっていくと日本語と韓国語の間で違いが生じてくる。

上記のように、日本語と韓国語はそれぞれ敬語体系を有する言語でありながらも、その敬語を用いることで人間関係を形成する際は言葉遣いで違いが生まれる。言い換えれば、韓国語では丁寧な待遇形式だと思われ、使っていた表現が日本語にそのまま直訳すると不自然で失礼な表現になる可能性もある。

その理由としてはいろいろ考えられるがまず一つ目は、日本語の敬語は「ウチとソト」つまり「領域」を意識して言葉にするからである。元より、日本人は相手の「領域」を侵害することを好まれていないため、特に鈴木（1997）によれば、聞き手の行動・聞き手に所属する物や聞き手と近い関係にある人、情報など、聞き手にかかわる全ての事柄が含まれているのが「聞き手の領域」であり、その中で一番制限の強いのは、聞き手の欲求・願望・意志・能力・感情・感覚など個人のアイデンティティーに深くかかわる、「聞き手の私的領域」である。そして、「聞き手の私的領域」に踏み込んだ発話は丁寧さという点からいづれも不適切な発話となるという。<sup>3</sup>

次に考えられる二つ目の理由は、相手との「距離」を話し手が判断し、その距離の遠近によって違う待遇表現をとるからである。井出（1999）によると、韓国社会ではたとえ相手が目上であっても自分の考えははっきりと伝えることに価値が置かれている。そのため韓国語母語話者は、実にオープンに自分の感想や感情を言葉に

---

<sup>3</sup> 詳細は第4章で述べる。

することがある。すなわち、韓国語では上下関係にそれほど大差がなければ、率直な発話が必ずしも失礼には当たらない。むしろ、相手への関心を示す積極的な姿勢は親しみを表し、コミュニケーションを円滑にするとされていると指摘している。<sup>4</sup>

本論文では、Brown&Levinson (1987) が主張した普遍性の高いポライトネス理論から日本語と韓国語における待遇表現を分析し、日本語と韓国語の敬語を含めた待遇表現のどこまでが説明できるかを検討する。その上で、不十分と見られる部分を日本語研究から生まれた神尾、鈴木、井出が提唱した理論で補うことによって、日本語と韓国語における待遇表現の特徴を明らかにできることを示す。

## 1.2 研究方法

本研究では、各理論の観点から日韓両言語における待遇表現を分析することを目的とする。そのため、まず先行研究に基づいて日本語と韓国語における敬語体系を踏まえた後、例文やドラマの台本のデータを用いて研究を行う<sup>5</sup>。

そして、第4章で日本語研究から生まれた「なわ張り・私的領域の理論」と「わきまえ理論」を日本語と類似している韓国語に照らした際、そのような相違が現れるかを見るため、アンケート調査を行うこととする。

## 1.3 本論文の構成

本論文は、第1章「序論」、第2章「先行研究と検討課題」、第3章「「ポライトネス理論」と日韓両言語の待遇表現」、第4章「「なわ張り・私的領域の理論」と「わきまえ理論」から見た日韓両言語」、第5章「敬語使用における相対敬語・絶

---

<sup>4</sup> 井出 (1999) を含め、「距離」に関する詳しいことは第4章で述べることにする。

<sup>5</sup> 先行研究においては菊地 (1997)、蒲谷 (2009)、李その他 (2004) を中心に整理し、Brown&Levinson (1987)、神尾 (1990)、鈴木 (1997)、井出 (2006) を各章で追究する。

対敬語」、第6章「韓国語の対者敬語法」、第7章「結論と展望」の7つの章から構成される。

まず第1章では、本論文の出発点である研究の背景、目的、研究方法、本論文の構成について説明する。

第2章では、日本語と韓国語における敬語体系に関する先行研究を概観する。その上で、日韓両言語の敬語体系をめぐって類似点と相違点を指摘し、検討すべき問題を提示する。菊地（1997）と蒲谷（2009）を中心に日本語における敬語体系（尊敬語・謙讓語・丁寧語）を整理する。それに続いて、李・蔡・李・梅田（監修）（2004）に基づいて韓国語における敬語体系（主体敬語法・客体敬語法・対者敬語法）を整理する。併せて、日韓両言語の敬語体系と敬語使用における類似点と相違点を論じる。

第3章では、普遍性を主張する「ポライトネス理論」の観点から、敬語体系を有する日本語と韓国語を考察することにする。Brown&Levinsonが理論化した「ポライトネス」は、ネガティブな方向性だけではなく、それとは反対のポジティブな方向性も持った二面的な概念である。敬語のように相手を立て自分を下げる表現様式は、相手の領域に踏み込まない間接性において遠隔化表現の典型であり、ポライトネスの表現様式で言えばネガティブな方向性において機能するものである。この章では、Brown&Levinsonが提案しているストラテジーが日韓両言語でどのような働きを持ち得るかを検討する。

第4章では、ポライトネス理論では説明しきれない部分（敬語を保ったまま親しみを表す表現様式、韓国語における文末敬語、日本語と韓国語における改まった場面での決まり文句、など）をどう扱うべきかを論じる。この章ではアンケート調査を行い、日本語話者と韓国語話者のあいだでどのような表現様式の相違が現れるか



を指摘する。そして、そのアンケート調査から得た結果を「なわ張り・私的領域の理論」と「わきまえの理論」に基づいて分析する。

このうち、「なわ張り・私的領域の理論」については、ウチとソト（すなわち、領域）の扱い方が日韓両言語のあいだでどのような異なりを見せるのかを考察する。他方、「わきまえ理論」については、日本語における「だ・です・ます」を普段無意識に使い分ける日本語話者の敬語使用は、相手や場面に応じて自動的にセットされるものであるという井出（2006）の指摘をもとに、筆者の韓国語の待遇表現における作例とドラマの台本を用いて対照研究を行う。

第5章では、実例の具体的な観察を通じて、日本語話者・韓国語話者が同じ場面でどのような敬語使用を行うかを見ていく。具体的には、まず聞き手に関わる敬語使用を検討するため、「私（話し手）—親／祖父母／先生／先輩／上司（聞き手）」など二人のあいだで行われる場面を設定して、日韓両言語の敬語使用を対照する。次に、話題の人物に向けての敬語使用を検討するため、「私（話し手）—先輩／先生／親／社長（話題の人物）—友達／後輩／兄弟／部下（聞き手）」が関わる場面における日韓両言語の敬語使用を見る。最後に、聞き手と話題の人物の両方を配慮する敬語使用を検討するため、「私（話し手）—先輩／先生／親／社長（話題の人物）—先生／祖父母／部長（聞き手）」など、話題の人物が話し手・聞き手の目上の場合に日本語と韓国語のあいだでどのような敬語使用が行われるかを考察する。

第6章では、日本語の「です・ます」に相当する韓国語の文末体敬語について詳細に検討する。この章では、서울대학교 국어교육연구소（2002）、박영목（2014a）、이관규 외（2014）、한철우 외（2014）などが定義した対者敬語法を整理した上で、これらの先行研究が主張した、対者敬語法は心的な距離感の違いや改まっ

た場面か否かによって話し手の判断に任せるものであるという指摘をもとに、対者敬語法から見たポライトネス理論の限界についてドラマの台本と例文を用いて論じる。

韓国語における敬語は、絶対敬語と言われているとおり、その影響が会社内で行われている言葉遣いにも影響を与えている。例えば、日本の社会では社内の人と社外の人をウチとソトの概念（すなわち、領域）を考えた上で言葉を選び区別している。それに対して、韓国社会では年齢や職位が優先され、領域の概念よりも上下関係や心的距離が重視されていると考えられる。ソトの人(社外の人)に対して、ウチの人(社内の人)を表すときに尊敬語が用いられることや、敬語を使いながらも自分の考えを積極的に主張することは、韓国語における社内敬語の大きな特徴である。この現象をもとに対者敬語法の特徴と日本語との相違点を明らかにしたい。

最後の第7章では、第3章から第6章で論じた問題を整理した上で、これらの章において考察してきたことを本論文の結論としてまとめる。今後は、個人差・地域差・性差などにも目を向け、具体的な言語調査を行うことにより本研究で明らかになった知見をより深めていきたいと考える。

## 第2章 先行研究と検討課題

### 2.1 日本語における敬語体系

菊地（1994）と蒲谷（2009）を中心にして分析を行うと、菊地（1994）は敬語を尊敬語・謙讓語・丁寧語に分け区別をしており、蒲谷（2009）はその広く用いられる整理を「敬語の方針」に基づいて 5 種類+1 で詳細に分け、それらを尊敬語・謙讓語Ⅰ・謙讓語Ⅱ（丁重語）・美化語・丁寧語・謙讓語Ⅰ+Ⅱと整理をしている。

筆者は先行研究の中、蒲谷（2009）をもとにして日本語における敬語体系をまとめて整理することにする。

ここで日本語の敬語を詳しく述べ、理解を深めていきたい。

#### 2.1.1 尊重語

##### 2.1.1.1 直接尊重語

5 種類+1 の分別の尊敬語に相当し、人物そのものや、その人物の直接の動作・状態・所有に関する。いらっしゃる、おっしゃる、お書きになる、書かれる、田中様などといった敬語がこのグループに入る敬語で、このほかにも、お名前、ご住所、お忙しい、ご立派だ、令夫人などがある。蒲谷（2009）によると、必ずしもその人物を尊敬するから尊敬語を使うわけではないということで、「尊敬」ではなく、「尊重」という用語を使っている。

(2) ABC ネットワークの佐藤ですが、田中部長はいらっしゃいますか。

例 (2) を見てみると、「いらっしゃる」は、「行く・来る・いる」の意味を表すとともに「行く・来る・いる人物を高くする」という敬語的性質を持っている敬語である。その動作を行う、あるいは、その状態にある人物ということなので、説明のためには「動作・状態の主体」という用語を使う。

「(ある) 動作の主体を高める」ために「お(ご) ~なる」「~(ら)れる」という敬語形式を使っているが、このような敬語形式はすべての動詞に使えるわけではなく、制約がある。

#### 2.1.1.2 恩恵直接尊重語

くださる、書いてくださる、お書きくださる、ご記入くださる、などといった敬語がこのグループに入る敬語である。

恩恵直接尊重語の核となる敬語は、「くださる」である。「くださる」は、「くれる」という意味と「だれがくれる」の「だれ」を「高くする」という敬語的性質を持っている。「だれ(が)」を高くすることと共にその「だれ」に「恩恵を与える」という敬語的性質が加わる。

菊地 (1994) はこれを「<恩恵の与え手>を高める敬語」と定義した。

- (3) a. A 先生がこの本をくださいました。
- b. この本は、A 先生がくださったものです。

(3) の例をみると、「くださる」という敬語は、「くれる」という動作の主体である A 先生を高めるとともに、その A 先生から恩恵を受けるということを表している。

次は、「～てくださる」「お・ご～くださる」である。敬語的性質は「くださる」と同じである。

- (4) a. 「先生が（ご）説明なさいました。／先生が説明されました。」
- b. 「先生が説明していただきました。」

直接尊重語は、客観的であるが、その分「他人ごと」のように表すことになり、恩恵直接尊重語は「我がこと」として感謝を表すように伝えられるという違いがある。また、恩恵直接尊重語は、動作の主体からの「恩恵」も表す。

#### 2.1.1.3 相手尊重語（御社、貴社）

相手と相手に関する事物に対して直接使い、それらを「高くする」という敬語的性質があるので、直接尊重語としての敬語的性質を持っていると言える。しかしながら、直接尊重語は話題の人物に対しても使える敬語であるが、相手尊重語は相手に対してのみ使える敬語である。例えば、「御社」は相手の会社+相手と相手の会社を高くする敬語であり、相手の会社だけに限られて使われる。

#### 2.1.2 謙譲語 I

##### 2.1.2.1 間接尊重語

伺う、申し上げる、お会いする、ご案内する、お知らせ申し上げる、ご説明申しあげる、拝見する、などといった敬語がこのグループに入る敬語である。

- (5) （わたしが）これから田中先生のお宅に伺います。

例えば、例の(5)の「伺う」は、「聞く・尋ねる・訪れる」の意味を表すともに「だれに(だれから)聞く・尋ねる・訪れる」の、「だれ」を「高くする」という敬語的性質を持っている敬語である。動作の主体を直接高くするのではなく、その動作に関係する人物を高くするという点から、間接的に尊重する。

#### 2.1.2.2 恩恵間接尊重語

このグループの敬語は「いただく系」と「さしあげる系」に分けられる。

まず、「いただく」は、「だれに/だれから(もらう)」の「だれ」を「高くする」という敬語的性質が加わった敬語である。そして、「だれがもらう」の「だれ(が)」を「高くしない」という敬語的性質がある。さらに、「だれに/だれから」の「だれ」から「恩恵を受ける」という敬語的性質が加わる。

(6) わたしはA先生に推薦状を書いていただいた/お書きいただいた。

「～ていただく」と「お・ご～いただく」も同様に考えることができる。これらの敬語では動作の主体と動作に関係する人物が異なるという点に注意しなければならない。恩恵間接尊重語は「だれが」ではなく、「だれに」を高くする敬語で、その高くする人物から恩恵を表しているということがポイントである。

- (7) a. あなたにこの本をさしあげます。  
b. わたしを書いてさしあげます。

次は例 (7) のような「さしあげる系」の敬語である。「さしあげる」は「あなたを高くする」+「わたしを高くしない」+「わたしから恩恵を与える」という敬語的性質がある。(7b) も (7a) と同じだが、(7a) より (わたしがあなたに) 恩恵を与えるということがつよく感じられる。このように、さしあげる系は、恩恵の与え手が動作に関係する人物であるという違いがある。しかし、(7a) と (7b) の両方は間接尊重語であり、恩恵の授受という敬語的性質を持つため恩恵尊重語に相当する。

#### 2.1.3.1 謙讓語Ⅱ－丁重語

ここに当たる敬語は数が少なく、主に使われる動詞とその意味が以下の通りである。

- (8) a. いたす (する)
- b. おる (いる)
- c. ござる (ある)
- d. 存じる (思う・知る)
- e. まいる (行く・来る)
- f. 申す (言う・話す)

丁重語は、「動作の主体を高くしない+改まり」のような敬語的性質を持っている。混同しやすい間接尊重語と比べてみるとよりその性質がわかりやすい。

- (9) a. 私がこれから A 先生のお宅に伺います。 (○)

- b. 私がこれから A 先生のお宅に参ります。 (○)
- (10) a. 私がこれから妹の家に伺います。 (×)
- b. 私がこれから妹の家に参ります。 (○)

例 (9a) の「伺う」は、動作の主体である私を高くしたいプラス動作に関わる人物である A 先生を高くするという敬語的性質を持つ間接尊重語である。

しかし例 (9b) の「参る」は、動作の主体である私を高くしないという敬語的性質は (9a) と同様であるが、動作に関わる人物である A 先生を高くするという性質は持っていない。つまり、(9b) は A 先生を高くしてはいいないことになる。

このように丁重語が間接尊重語と明らかに異なる点は、「動作に関係する人物を高くしない」ということである。この点から (10b) のほうが正しい文になるわけである。

#### 2.1.3.2 謙讓語Ⅱ－自己卑下語

弊社、小社、拙稿、愚息などがこのグループに相当する。自己卑下語の特徴は、「妹が書いた拙稿」などのように話題の人物には使えない敬語で、あくまでも自分に対して使う敬語である。

#### 2.1.4 謙讓語Ⅰ＋謙讓語Ⅱ－尊重丁重語

このグループの敬語は、間接尊重語（謙讓語Ⅰ）と丁重語（謙讓語Ⅱ）の性質を併せ持つ特徴がある。「お・ご～いたす」、「拝～いたす」のような形式に限定されている。



- (11) a. 田中さん、この件について鈴木さんにご説明しました。  
b. 田中さん、この件について鈴木さんに説明いたしました。  
c. 田中さん、この件について鈴木さんにご説明いたしました。

例(11a)は間接尊重語の「ご説明する」が用いられているため、話題の人物である鈴木さんを高める気持ちが強く働いている。そして、(11b)では「説明いたす」が用いられているため、話題の人物である鈴木さんを高めようとする気持ちはない。しかし、相手である田中さんに丁寧語(=説明いたす)が使われているため丁寧に改まって伝えようとする気持ちが現れる。

最後に(11c)は尊重丁寧語(=ご説明いたす)が用いられているため、動作に関係する人物である鈴木さんと高くする同時に相手に田中さんに対しては改まって伝える効果がある。

#### 2.1.5 美化語

お天気、うどん、ご飯、ご褒美、お花、などの敬語は、事物をきれいにする、つまり「美化する」敬語である。この敬語は自分の言葉や言葉遣いに対してきれいに表現しようとする気持ちが内包されている。主に名詞に「お」や「ご」をつけて作り、「お」は和語や日常的によく使う漢語・字音語(お料理、お電話など)に、「ご」は漢字につく。

##### 2.1.6.1 丁寧語—丁寧文体語

「です・ます」がこのグループに相当し、文話全体を丁寧にするという敬語的性質を持っている。また、丁寧文体語はその内容(中身)とは直接関係せず、主に相

手に対して丁寧な感じを与えたり、丁寧な気持ちを伝えたりする敬語である。つまり、誰かを高くしたり、誰かの恩恵を表したりする敬語ではなく、コミュニケーションにおける相手に配慮して用いられる敬語である。

#### 2.1.6.2 丁寧語—丁重文体語

「であります」、「でございます」がこのグループに入る敬語であり、文話全体を丁重にする役割を持っている。つまり、ここに出てくる「丁重」とは、丁寧（です・ます）にプラス改まりが加わられた敬語である。形式的で硬いイメージがあることも特徴であって、敬語にする内容（中身）が丁重にするのに相応しいものである必要がある。

- (12) 只今、ご紹介に預かりました A でございます。よろしく願いいたします。

## 2.2 韓国語における敬語体系

李その他（2004）によれば、韓国語における敬語体系は主に三つに分けることができる。主体敬語法、客体敬語法、対者敬語法がこれに相当する。

### 2.2.1 主体敬語法

韓国語の文に使用される全ての名詞は、まず話者（＝話し手）によってそれが尊敬すべき対象であるのかどうかで二分することができる。そして、ある名詞が尊貴な対象、すなわち尊称の対象だと話者（＝話し手）が判別すれば、そこに適合する特定の形式を取らなければならない。

もし尊称の対象の名詞が主語の位置に現れれば、その述語に先語末語尾「- 시si - (語幹末音が子音の場合は - 으si eusi -)」を取らなければならない。<sup>6</sup>

(13) a. 아버지가 오시다/웃으신다.

(お父さんがおいでになる／お笑いになる)

b. 동생이 온다/웃는다. (弟／妹が来る／笑う)

(13a)はこの「- 시si -」によって話し手が 아버지 (父) に対して尊敬心を持っていることが表現されたもので、(13b)は「- 시si -」がないために 동생 (= 弟／妹) に対して尊敬心が特にないということを表すことになる。

<sup>6</sup> 「先語末語尾 - 시si -」は動詞の語幹に尊待 (= 존대말) の接尾辞 ‘- (으) 시’ を付けて文の主体を高める役割をする。‘- (으) 시’ の用法は、相当に制約を受ける。多少複雑であるが、いくつか例を挙げる。

- ① 聞き手が文の主体より年齢や社会的地位などが高い人物である場合  
日本語と同じように、主体が話し手より高い人物であっても（すなわち、尊待の関係が聞き手>文の主体>話し手>である場合）‘- (으) 시’ は用いられない。
  - (1) 할아버지, 아버지가 지금 왔습니다. [おじいさん、父が今来ました。]
  - (2) 교수님, 김 선배가 논문을 발표했대요. [教授、金先輩が論文を発表したそうです]
  - (3) 선생님, 이 사람이 제 형인데요. [先生、この人が兄ですが。]
- ② 情報伝達  
主体が地位の高い人物であっても、ニュース報道や知識の伝達のための教科書などの公式的な表現では ‘- (으) 시’ は用いられない。
  - (4) 대통령이 미국을 방문한다. [大統領がアメリカを訪問する。]
  - (5) 졸업식에서 총장이 격려사를 했다. [卒業式で総長が激励の辞を述べた。]
  - (6) 군 책임자가 일선을 시찰했다지요. [軍の責任者が一線を視察したそうです。]
- ③ 聞き手=文の主体  
高めるべき対象の身体の部分や個人的な所有物に関する語には、‘- (으) 시’ を付けて間接的に高める。
  - (7) 차가 없으셔서 불편하시겠어요. [お車が無くてご不便でしょう。]
  - (8) 감기가 드셨습니다. [先生は風邪を引かれました。]
  - (9) 김 선생님께서는 연세가 많으십니다. [金先生はご高齢です。]
  - (10) 이 선생님께서는 얼굴이 예쁘십니다. [李先生はお顔がきれいでいらっしやいます。]
  - (11) 박 사장님께서 돈이 많으십니다. [朴社長はお金持ちでいらっしやいます。]

「아버지 (父)」はたいていの場合 [+尊貴] の性質を持つ名詞だと言え、したがって (13a) のように言うことは原則であるが、もし話し手が「아버지 (父)」の友達だったり、先輩だったりすれば、次の (14a) のように言うことができる。尊貴ではないという基準はその対象と話し手が判断するものであり、この場合「아버지 (父)」という単語は自分の父親ではないでの尊貴な人物ではないのである。ただ、この時にも (14b) のように言うこともできる。それはその「아버지 (父)」が話し手である自分との対比では尊貴な人物ではないが、聞き手であるその「아버지 (父)」の息子の前でその父親の体面を立ててやらなければならないという配慮をしたのである。

- (14) a. (너의) 아버지 언제 오니?  
( (お前の) お父さんはいつ来るの?)
- b. (너의) 아버지 언제 오시니?  
( (お前の) お父さんはいついらっしゃるの?)

また、尊貴な人物に対する尊待を極大化するためには、「- 시si -」の添加のみならず、主語に結合する主格助詞「이/가 (～が)」を「- 께서kkeseo (～におかれましては)」に替えなければならない。次の例文の (15a) に比べ、(15b) は「아버지 (父)」をさらに少し高める効果があるが、これは「- 께서 (～におかれましては)」のためである。<sup>7</sup>

---

<sup>7</sup> 「尊待」とは、尊敬心、尊敬の態度を表す。日本語では、尊待という用語がないが、尊敬心、尊敬の態度としての意味で韓国語の原文をそのまま採用したものである。

(15) a. 아버지가 무슨 말씀하셨니?

(お父さんが何とおっしゃったの?)

b. 아버지께서 무슨 말씀하셨니?

(お父様におかれましては何とおっしゃったの?)

「- 시si -」によって尊待される程度の人物ならば、自動的に主格助詞として「- 께서 (～におかれましては)」をとるのが原則であり、「이/가 (～が)」を取ることはその原則から外れたものと言わねばならないかも知れない。実際に、ある公式の席上で聴衆に知らせる次のような文章で「- 께서 (～におかれましては)」を「이/가 (～が)」と替えることはありえない。

(16) 대통령께서 입장하시겠습니다.

(大統領におかれましてはご入場なさいます。)

しかし、現実的には「- 께서 (～におかれましては)」まで使えば、尊待の程度があまりにも大きすぎる感じを与える面があって、多くの場合、「이/가 (～が)」がむしろ自然に使われている。それゆえ、「- 시si -」と「- 께서 (～におかれましては)」は自動的に呼応をなす関係だと言うよりは、(17)のように「- 시si -」はどちらの主格助詞とも合うが、「- 께서 (～におかれましては)」が主語に対する話し手の尊待をもう少し積極的に表現する機能を持っていると理解するのが事実に近いであろう。この事情は次の例文でのように「이/가 (～が)」の位置に特殊助詞が使われるときも同じである。

(17) a. 할머니께서는 이쪽으로 오세요.

(おばあさんにおかれましてはこちらにおいでください。)

b. 할머니은 이쪽으로 오세요.

(おばあさんはこちらにおいでください。)

c. 회장님께서도 오셨습니다.

(会長様におかれてもいらっしゃいました。)

d. 회장님도 오셨습니다.

(会長様もいらっしゃいました。)

尊待を表示する先語末語尾「-시si-」は、全ての動詞の語幹に自由に結合することができる。しかし、一部の語幹は「-시si-」を取るときにだけ現れる特殊な形をとるものもある。「잡수-시-다(召し上がる)」、「계-시-다(いらっしゃる)」、「편찮-으시-다(お加減が悪い)」、「돌아가-시-다(お亡くなりになる)」などがその例である。「잡수-시-다(召し上がる)」を例に挙げると、これは「먹- (「食べる」の語幹)」に「-시si-」が結合した形態だと言えるが、「먹으시-」という形態では使うことがなく、また「-시si-」がなく、「잡수-다」、「잡수-고」、「잡수-면」のような形態も使われることはない。「먹- (「食べる」の語幹)」に「-시si-」を結合させれば、「먹으시-」にはならず、「잡수시-」になるのである。

(18) a. 민호는 뭘 먹-니?

(ミンホは何を食べるの?)

b. 할아버지는 뭘 잡수-시-니?

(おじいさんは何を召し上がるの?)

さらに、尊貴な人物を尊待するときには、その人物に関係する名詞を特殊な語形で使わねばならない場合もある。代表的な例としては、「진지 (お食事)」を挙げることができる。(18)で目的語に「뭐 (←무엇) (何)」を取るときや、また、「국수 (うどん、そば)」、「사과 (リンゴ)」などを目的語として使用するときには、どんな場合でも同じ語形で現れるが、もしその位置に「밥 (飯)」を使うならば、尊貴な人物に対して「진지 (お食事)」を使わなければならない。また、밥 / 진지 (飯 / お食事) と同様の対立ペアとしては、말 / 말씀 (言葉 / お言葉)、나이 / 연세 (年 / ご年齢)、집 / 덕 (家 / お宅)、아들딸 (아이들) / 자제분 (子供たち / お子様たち) などがある。これらの用法を代表的な例文で見ると次のようになる。

(19) a. 민호는 밥을 잘 먹니?

(ミンホはご飯をよく食べるか?)

b. 할아버지는 진지를 잘 잡수시니?

(おじいさんはよくお食事を召し上がるか?)

(20) a. 내 동생은 말을 참 재미있게 한다.

(私の弟(妹)は話を実に面白くしゃべる。)

b. 우리 선생님은 말씀을 참 재미있게 하신다.

(私たちの先生は話を実に面白くなさる。)

## 2.2.2 客体敬語法

主客敬語法は、ある行為（および状態）の主体に対して尊待をするかしないかを表現する敬語法であるのに対し、客体敬語法はその行為が及ぶ対象に対して尊待をするかしないかを表現する敬語法である。客体敬語法の命脈を最も確実に引き継いでいる一つの要素は与格助詞「-께kke」である。これは「에게や한테」の尊待形で、主格助詞の「-께서（～におかれましては）」が「이/가（～が）」の尊待形として機能することとよく似ている。次の(21)で見れば与格助詞「-께kke」は、話し手が「할머님（おばあさん）」に対して尊待を表現していることを表す唯一の要素である。

(21) a. 저 아이를 할머님께 보냅니다.

(あの子共をおばあさんのところにお送りしましょう。)

b. 저 아이를 제 형에게（/형한테） 보냅니다.

(あの子供を私の兄のところへ送りましょう。)

与格助詞「-께kke」と共にいくつかの語彙も客体敬語法の命脈を維持することに大きな役割を果たしている。主客敬語法において「주무시다（お休みになる）」、「잡수시다（召し上がる）」など、その敬語法のための特殊な語形の語彙が別に準備されているものがあるように、客体敬語法にもそのような特殊な役割を帯びた語彙がいくつかある。これらをその平称動詞と対比して見れば次のようになる。

(22) a. 드리다/주다 （差し上げる/与える）

b. 여쭙다/묻다, 말하다 （申し上げる/尋ねる、言う）



- c. 뵈다／보다 (お目にかかる／見る)
- d. 모시다／데리다 (おつかえする／おつれする・つれる)

これらは常に客体を尊待するときだけに使われる特殊な語彙であるが、代表的な例文を見れば、次のようになる。

- (23) a. 이 만년필은 선생님께 드려라.  
(この万年筆は先生に差し上げなさい。)
- b. 이 장난감은 민호한테 주어라.  
(このおもちゃはミンホにやれ。)
- (24) a. 그런 일은 할아버지께 여쭙어 보아라.  
(そのようなことはおじいさんにお尋ねしてみなさい。)
- b. 그런 일은 나한테 물어 보아라.  
(そのようなことは私に聞いてごらん。)
- (25) a. 우리 언제 선생님 한번 뵈러 가자.  
(私たちはいつか先生に一度お目にかかりに行こう。)
- b. 우리 언제 순희 한번 보러 가자.  
(私たちはいつかスニに一度会いに行こう。)
- (26) a. 이 동물원에는 노부모님을 모시고 온 사람들이 많구나.  
(この動物園には年とった両親をお連れして来た人が多いな。)
- b. 이 동물원에는 아이들을 데리고 온 사람들이 많구나.  
(この動物園には子供たちを連れて来た人が多いな。)

以上の例文で特殊形と一般形の語彙が表している意味の差は明瞭であり、したがってこれらの使用範囲もまた厳格に区分できる。このようにいくつかの語彙においてかろうじてその命脈を保っている程度にすぎないが、客体敬語法が厳然として存在することは明確である。

客体敬語法の対象になる尊貴な人物は、主客敬語法のよきと同じで、いくつかの付随助詞を従う。尊待の接尾辞「- 님nim」をとり、その人物に関連するものは「밥 (飯) も 진지 (お食事)」であり、「말 (言葉) も 말씀 (お言葉)」であり、「집 (家) も 덕 (お宅)」となるなどがそれである。

- (27) a. 할아버지께서 진지를 잘 잡수셨구나.  
(おじい様におかれてはお食事をちゃんと召し上がりになったなあ。)
- b. 할아버지께 진지를 때 맞추어 드려라.  
(おじい様にお食事を時間に合わせて差し上げなさい。)
- (28) a. 선생님께서는 덕으로 가셨어요.  
(先生におかれてお宅にお帰りになりました。)
- b. 네가 선생님을 덕으로 모셔 드려라.  
(お前が先生をお宅まで送って差し上げなさい。)

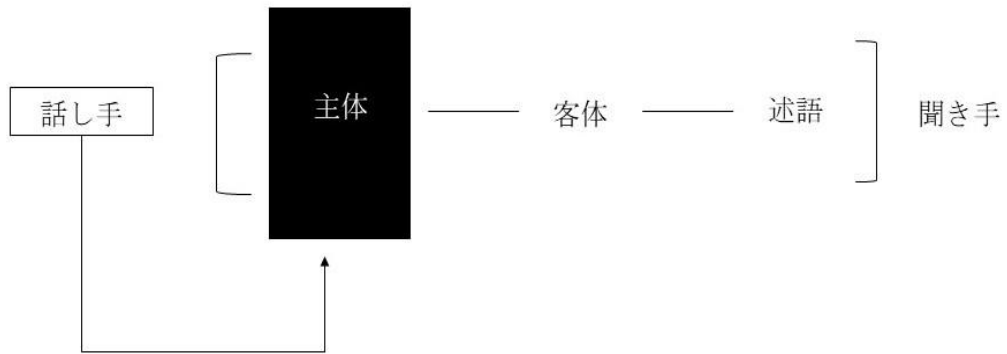
このように見れば、主体敬語法と客体敬語法は尊待対象が文中でどんな機能を果たす位置に置かれているかという差があるだけで、結局文中に登場する人物に対する話し手の尊待意志の表現という点では一致すると見ることができる。しかし、これらを一つの種類で括ることができないのは言うまでもない。厳然と区分された尊待方式をそれぞれ別個に持っているためである。尊待の接尾辞「- 님nim」を付け、

それらに関する事項を「진지 (お食事) や택 (お宅)」という尊待語で表現する方式では一致するところがあるが、一方「주시다 (おやりになる)」、「보시다 (ご覧になる)」のような方式を採るのに対し、もう一方は、「드리다 (差し上げる)」、「뵙다 (お目にかかる)」のような全く異なる方式を採るのである。

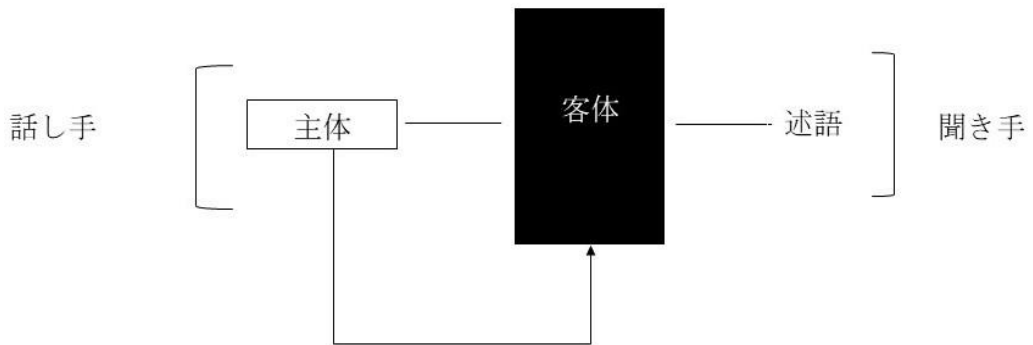
主体敬語法と客体敬語法は、尊待対象が誰との対比で尊貴な人物と判定を受けるかということでも差異が出る。主客敬語法は尊待対象話し手より尊貴だという理由のために尊待を受ける。話し手の判断によって、その人物は自分より尊貴な人物だから「- 시si -」を付けて表現しなければならないという決定がなされるのである。すなわち、話者自らと尊待対象の間の対比で成り立つ敬語法である。

しかし、客体敬語法は対比の対象が話者自身というより尊待対象に行為をする主体に当たる。一例として、(26a)で「노부모들 (年とった両親たち)」が尊待されるのは、その老父母たちと話し手との対比からではなく、彼らを世話してきた「사람들 (人たち)」、すなわち彼らの子供たちとの対比からである。繰り返せば、このときの客体敬語法は子供たちが父母に対してする行為において、父母は尊待を受ける位置にあるとの判断に従って成立しているのであって、その父母たちが話者自らにとって尊待を受ける対象であると考えて成立したのではない。これを図にすれば、次のようになるだろう。例文の中、四角の大きさは尊貴の程度を表し、その四角を結ぶ線はその二つの項目が比較の対象であることを示す。

(29) 主体敬語法



(30) 客体敬語法



このように見れば、客体敬語法はたとえその規模が少なくてもはっきりと独立の領域を持っていることを確認することができる。中世韓国語で主客敬語法と同様に大規模に用いられた客体敬語法が今のように退歩したのは、おそらく話し手の介入の程度が主客敬語法ほど積極的でなかったためであろう。

2.2.3 対者敬語法

韓国語の敬語において、最後は対者敬語法である。前の二つの敬語法はある行為の主体に対して尊待するかないかを表現したり、目的語に置かれる話題の人物に

対して尊待するかしらないかを決めたりする敬語体系である。しかし、対者敬語法は場面が登場し、その中で誰かを尊待するが、少しするのか、もう少したくさんするのか、さらに大きくするのか、などに細分化されることが大きな特徴である。

滝浦（2008:39）の図を引用する。



図1 現代韓国標準語の対者待遇法

韓（1982）は格式形の上称についてあらたまった言い方で目上の人によく使うものであり、大人同士は疎遠な関係でよく使い、女性はあらたまった場面ではないとあまり使わない敬語体であると述べている。

また格式形の中称は、中年以上の男性が使うのであるが、公的な場面で用いると形式的な命令形に聞こえるし、固い言い方になってしまうと指摘している。

そして等称に関しては、中年以上の男性が目下の人に使うのであるが、子供には使わず、むしろ子供扱いできない年代の人に使う。親戚の間では男女とも目下の人にある程度敬意を払う必要がある時に使う。しかし、若い人にはあまり馴染んでいない語形であると述べている。

格式形の最後のタイプ、下称については、相手に全く敬意を払わない場合に使う。子供に対して用いるほか、大人でもごく親しい友達間では使う。学校の先生も高校以下の学生には使うが、大学生ぐらいの学生には使わないと指摘している。

韓（1982）はこの四段階が従来の身分の上下によって言葉遣いを決めていた時の語形であるが、現代語においてよく用いられているのは上称と下称であり、ことに若い人は中称と等称はほとんど使わないようである。その代わりに、非格式形の略待丁寧形と略待普通形がよく使われていると述べている。

次に、非格式形の略待丁寧形については現代のソウル語では男女とも目上の人に話す時に幅広く用いられており、特に女性はほとんど格式形の上称より非格式形の略待丁寧形を使う。なお、この略待丁寧形は相手に心理的な距離を感じる時や距離を保ちたい時には目下の人にも使える。また、改まった場面には格式形の上称を使い、和らいだ雰囲気では非格式形の略待丁寧形を使うのである。この略待丁寧形は、他の対者敬語の段階より社会的な意味を持つのかも知れないと韓（1982）は主張している。

最後の略待普通形について、このタイプは使われる範囲が広くて目上の人には心理的な距離感がない場合に親しみをこめて使う。子供が親に甘えるときにも使えるし、目上の兄弟にも使う。形式ばらない場合には誰かに対して甘えるときにも使えるような語形である。一方、目下の人や対等な関係で心理的に距離を感じる時は格式形の下称を使わず、非格式形の略待普通形を使う。社会人として付き合う場合は親しくなっても格式形の下称は使いにくく、非格式形の略待普通形を通すことが多いと述べている。

### 2.3 日本語と韓国語における敬語の類似点と相違点

日本語と韓国語の敬語使用で最も異なる点は、前述したように日本語の敬語がいわゆる相対敬語であるのに対し、韓国語の敬語は絶対敬語であるということである。

韓国語では昔ながらの儒教が強いため、敬語法は特に家庭内での敬語が発達している。また、日本語の敬語のようにソトとウチの関係を優先するより、年齢つまり上下関係が敬語を選択する際に最も大事な判断基準になる。

まず、よく言われてきたのが近代日本語は相対敬語であり、韓国語は絶対敬語であるという話からその先行研究について触れておきたい。

外山（1977）によると、「古代敬語の特徴は社会的階層的序列関係への配慮が、敬語表現の選択の仕方に大きく影響して、敬語使用の対象となる人物の身分・家柄・地位などといった社会的序列構成に関する条件についての上下関係に対する話し手の配慮が、敬意の度合いを決める基準として強力に作用していた」とされている。これに対し近代敬語の特徴は、「場面や相手（敬語使用の対象や聞き手）との関係などへの話し手の配慮が、敬語表現の仕方に大きく影響して、恩恵、利害、親疎あるいは社交上の必要など、いわば話し手側の意識が優先するようになった」と述べている。古代敬語が身分・地位という客観的な条件による外側からの規制が強いものに対し、近代敬語は話し手の主観的・心理的要因による。いわゆる相対敬語的性格の強いものだといえるところをまとめている。一方、荻野（1989）では「絶対敬語」とは、敬語の使い分けが、話し手が「表現対象の人間」をどうみるかによってのみ決定されるシステムであり、「相対敬語」とは、敬語の使い分けが「表現対象の人間」そのものだけでなく、それ以外の人間や様々な場面との関係によって決定されるシステムであると定義している。以上をまとめると、いわゆる「絶対敬語」は話し手からの視点によってのみ高めるべき第三者が決定され、その待遇は聞き手が

誰であるかにかかわらず常に一定である敬語法で、「相対敬語」とは常に高められるべき第三者は存在せず、「話し手—聞き手—第三者」の相互関係によって、第三者の待遇が変化する敬語法であるといえることができる。

梅田（1977）は、「韓国語は古代からの階級制度が近代に至るまで敬語使用に影響を及ぼしており、現代においても聞き手として高める人物が第三者になる場合も必ず敬語を用い、さらに第三者が身内であっても目上の人であれば必ず敬語を使わなければならないという『絶対敬語』の性格が強い」と述べている。しかし、この絶対敬語の中に相対敬語的な面があることを指摘した先行研究も多い（韓美卿（1982）、申惠環（1993）、이정복（1994）など）。

さて、絶対敬語法とは、素材敬語の選択が素材の人物と話し手との関係だけに基づいて行われ、それ以外の観点が一切関与しない敬語法のことをいう。例えば、韓国語で自分の父親を素材として話すときは、いかなる場合にも敬語を用いなければならない。少なくとも規範としてはそういうことになっていた。話し手と聞き手の関係や発話している場面は一切関係しない。素材の人物（父）と話し手（子供）の関係だけで、絶対的に敬語の選択が決定されるのである。次の例は敬意を表すべき聞き手（例えば学校の先生）に向かって父親のことを話す場合の表現である。

(32) 저희 아버지가 안부 전해드리라고 말씀하셨습니다.

（私のお父様がよろしくとおっしゃっていらっしゃいました。）

（白1993：197）

下線部の部分が話題の人物に対する敬語表現である。原文では「아버님（お父様）」を用いられているもののより自然な会話にするため筆者가 아버지（お父様）



に訂正したものである。しかしながら、用言の敬語形「말씀하셨습니다（おっしゃいました）」は義務的であり、普通話形の「말했습니다（言いました）」を使うことは許され難い。同様に、職場の場面でも社員が社長を素材として話すときも常に絶対敬語法で言わなければならない。たとえ、会社外部の人に向かって話す場面であっても次のように絶対敬語法で言わなければならない。<sup>8</sup>

(33) 사장님은 지금 자리에 안 계십니다.

(社長様は今席にいらっしゃいません。)

この場合は、主語の「사장님（社長様）」と述語の「안 계십니다（いらっしゃいません）」はペアとして社長に対して絶対敬語法を用いなければならない。このように、話し手と素材の人物の関係だけで敬語使用の有無が決められる方法を絶対敬語法という。このような用法が韓国語の敬語が絶対敬語であるといわれる最大の根拠になっている。一方、相対敬語法とは、素材敬語の選択に当たって、素材の人物と話し手との関係ばかりでなく、聞き手と素材の人物との関係、話し手と聞き

---

<sup>8</sup> ‘아버님’은 다양한 의미로 쓰인다. ‘아버님’은 자기를 낳아 준 남자를 이르거나 부르는 말인 ‘아버지’의 높임말로도 쓰이는데, 이때는 주로 돌아가신 아버지를 이르거나 편지 글 따위에서 쓴다. 그 외 자녀를 둔 남자를 자식에 대한 관계로 이르거나 부르는 말/자기를 낳아 준 남자처럼 삼은 이를 이르거나 부르는 말/자기의 아버지와 나이가 비슷한 남자를 친근하게 이르거나 부르는 말인 ‘아버지’의 높임말로 ‘아버님’을 쓰기도 한다.

「아버님（お父様）」は多様な意味をもつ。「아버님（お父様）」は実の父親を呼ぶ呼称である「아버지（お父様）」の尊敬語であるものの、この時は主に亡くなられた「아버지（お父様）」のことを意味し、または手紙などでの書き言葉で用いられる。その他、子供のいる男性を子供に対する関係から呼ぶか、実の父親のような存在に対して呼ぶか、自分のお父様の世代の男性に対して親しみを込めて呼ぶとき「아버지（お父様）」の尊敬語である「아버님（お父様）」が用いられる。（筆者訳）  
（国立国語院：[https://www.korean.go.kr/front/onlineQna/onlineQnaView.do?mn\\_id=216&qna\\_seq=206241&pageIndex=1](https://www.korean.go.kr/front/onlineQna/onlineQnaView.do?mn_id=216&qna_seq=206241&pageIndex=1)）

手との関係、あるいは話し手・聞き手・素材の人物の三者関係が関与するような敬語法のことである。例えば日本語では上記の(32)の場合、韓国語の直訳として示したような表現を使うことはできない。「お父様」の部分で「お父さん」も使えず「父」と言わなければならない。述語動詞についても敬語形の「おっしゃる」は使えず、普通形の「言う」か、謙譲語の「申す」を用いなければならない。つまり、次のどちらかのように表現しなければならない。

- (34) a) (私の)父がよろしくと言っていました。  
b) (私の)父がよろしくと申しておりました。

(白1993 : 198)

例文(33)についても同様に社員が社長について会社内部の人間に対して話す場合には、例(33)の直訳として示した表現のように敬語を用いて話す。ただし、日本語では職位を表す表現が敬意を持ち得るので、単に「社長」だけでいい。しかし、会社外部の人に同じことを話す場合には話が違ふ。

- (35) 社長は只今席を外しております。

例(35)のように謙譲語形を用いなければならない。このように人間関係の相対的な関係を考慮して敬語使用の選択が決められるのが相対敬語法である。つまり、韓国語では素材敬語を用いる場合に話し手自身と話題の人物との関係だけを考慮しているのに対して、日本語では誰に向かって話しているかということも意識しなければならない。これを図で示すと次のようになる。

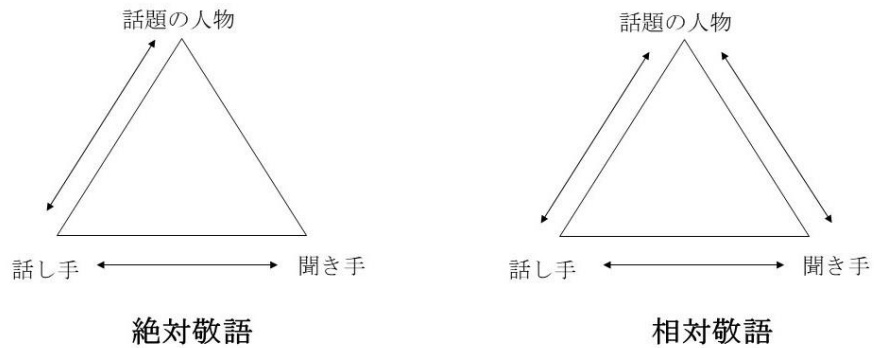


図2 絶対敬語と相対敬語

(白1993 : 199)

このような絶対敬語法と相対敬語法の違いは確かに日韓敬語法の大きな相違点であり、日本語学習者と韓国語学習者の両者が苦勞している部分である。

上記のことを基にして、日韓両言語における敬語体系を表でまとめてみると、次のページのようにあって絶対敬語と言われている韓国語の敬語体系は尊敬語が非常に発達しており、それと比べ謙讓語の数が少ないことが分かる。

5分類 (敬語の指針)		日本語	例文	韓国語	例文
尊敬語 (相手側又は、第3者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるもの)	直接尊重語 (動作の主体を高くする)	おっしゃる ・ お書きになる	(仕事のミーティングで)Bさんがおっしゃったやり方で、一回やってみたらどうでしょうか。	드시다/잡수시다 (召し上がる) ・ 게시다 (いらっしゃる)	아버지께서 진지를 잡수시고 계신다. (お父さんがご飯を召し上がっていらっしゃいます)
	恩恵直接尊重語 (動作の主体を高くする+恩恵)	くださる	せっかく誘ってくださったのに、申し訳ありません。	(目上の人が私に)くださる	사장님께서 나에게 펜을 주셨습니다. (社長が私にペンをくださいました)
謙譲語Ⅰ (自分側から相手側又は、第3者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるもの)	間接尊重語 (動作に関係する人物を高くする+動作の主体を高くしない)	伺う ・ お会いにする	改めてうかがいます。	뵙다(お目にかか る)	다시 찾아 뵙겠습니다. (改めてうかがいます)
	恩恵間接尊重語 (動作に関係する人物を高くする+動作の主体を高くしない+恩恵)	いただく ・ お書きいただく	私はA先生に推薦状を書いていただきました。	드리다(私が目上の人に対して)差し上げる	나는 선생님께 와인 을 드립니다. (私は先生にワインを差し上げました)
謙譲語Ⅱ (丁重語) (自分側も行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁重に述べるもの)	丁重語 (動作の主体を高くしない+改まり)	いたす ・ まいる	今後ともよろしくお願いたします。		
謙譲語Ⅰ + 謙譲語Ⅱ (丁重語)	尊重丁重語 (動作に関係する人物を高くする+動作の主体を高くしない+改まり)	ご説明いたす ・ 拝見いたす			
丁寧語	丁寧文体語 (文章・談話文体を丁寧にする)	です・ます	(デパートの店員が客に商品を勧める時に)こちらはいかがですか。	입니다(です) ・ 습니다(ます)	제가 하겠습니다. (私が致します)
	丁重文体語 (文章・談話文体を丁重にする)	でございます ・ であります	こちらでございます。		

表1 日韓両言語の敬語体系における比較

(韓2015:16-18)

## 2.4 先行研究における検討課題

日本語に比べ、韓国語の敬語には様々な文末による敬語が存在し、その使い分けが明確ではない。また、敬語体系から見て分かるよう日本語には謙譲語が非常に発達し、その反対に韓国語にはいわゆる尊敬語のほうが発達している。実際の言語使用でも韓国語では尊敬語しか使われていないと言っても過言ではないだろう。

すなわち、同じ敬語という仕組みを持っているにも関わらず、日韓両言語のあいだには細かい部分で違いが出てくる。その敬語体系をめぐって日韓両言語における待遇表現を様々な理論に照らし合わせて、特に韓国語の待遇表現について日本語からの観点から明らかにしたい。

まず、次の第3章で普遍性の高いBrown&Levinson (1987) のポライトネス理論から日韓両言語における待遇表現を分析し、不十分と見られる部分を日本語研究から生まれた神尾、鈴木、井出が提唱した理論で補うことによって、日本語と韓国語における待遇表現の特徴を明らかにできることを示す。 (第4章)

引き続き第5章で、事例の具体的な事例を通して、日本語話者・韓国語話者が同じ場面でどのような敬語使用を行うかを見ていく。

最後に、先行研究で取り上げた韓国語の「対者敬語法」が日本語学習者にとってはややこしく理解しにくいパートであるため、第6章で詳細に検討する。この章では、서정수 (1972)、서울대학교 국어교육연구소 (2002)、박영목 (2014) などが定義した対者敬語法を整理した上で、対者敬語法から見たポライトネス理論の限界についてドラマの台本と例文を用いて論じる。

## 第3章 「ポライトネス理論」と日韓両言語の待遇表現

### 3.1 「ポライトネス理論」の概要と追究

- (36) a. Did you want me? (何か用事ですか)  
b. Yes, I hoped you would give me a hand with the painting.  
(はい、ペンキを塗るのを手伝ってほしいのですが・・・)

(Leech2011:15)

例(36)は現在の事柄について述べているにも関わらず、なぜか過去形が用いられている。仮に、例(36b)で過去形の「hoped」を使わず、現在形「I hope you will...」を用いて話すと、ぶっきら棒な言葉遣いになり、相手に強制することになってしまう。しかし、(36b)のように過去形で頼むことによって相手の負担を減らす効果が生み出される。また、(36a)でも過去形が用いられて話しかけることによって威圧的な態度ではなく、(36b)の人が話しやすくするムードを作る効果を生み出すことがわかる。

本章では、このようなポライトネスに応じた言語使用を普遍的な高い理論で提唱したBrown&Levinson(1987)のポライトネス理論について詳しく見ていきたい。

まず、Brown&Levinsonのポライトネス理論が成り立つためにはいくつかの土台が必要であってその一つ目は、人間がだれでも共通に持っている衝動的欲求つまり消極的欲求(negative wants)と積極的欲求(positive wants)である。前者は人から邪魔されたくないというものであり、後者は人から認められたいという衝動的欲求である。人間は邪魔されたくない、また認められたいという二つの欲求を共通に

持っているとするならば、この欲求を満足させるように行動することがポライトネスに適っている、つまり、摩擦を起こさない円滑な人間のやりとりとなるというのがこの理論の土台となっている。

二つ目の土台は、フェイスである。人間はフェイスを持った行為者 (actor) であるという観点で社会を説明しようとした社会学者ゴフマンの理論を採用することでポライトネスに応じた言語行動を捉えている。

三つ目の土台は、人間が生まれながらにして共通に持つ理性である。理性は脳の中に備わったものであり、世界中どこへ行っても $1+1=2$ とだれにも分かるように、普遍的に通じるものである。そのため、理性を持って人が計算した戦略に則した言語使用をすることが、普遍的な言語使用の原理となると考えられる。

次に前提を簡単に述べると、第一の前提は、人間はだれでも消極的フェイスと積極的フェイスの両面を持った行為者であるというものである。

第二の前提は、人間がことばを発するという事は、相手のフェイスを脅かす行為と考えることである。ここでいうフェイスとは何かを踏まえていきたいが、

- (i) 'face', the public self-image that every member wants to claim for himself, consisting in two related aspects:
  - (a) negative face: the basic claim to territories, personal preserves, rights to non-distraction - i.e. to freedom of action and freedom from imposition.
  - (b) positive face: the positive consistent self-image or 'personality' (crucially including the desire that this self-image be appreciated and approved of) claimed by interactants.

(Brown&Levinson1987:61)

(ii) 「フェイス」 (face) : すべての構成員が自分のために要求したいと願う公的な自己イメージで、以下の二つの関連する側面に存在する。

(a) ネガティブ・フェイス: 縄張り、個人的領分、邪魔されない権利—つまり、行動の自由と負担からの自由—に対する基本的な要求

(b) ポジティブ・フェイス: 相互行為者が求める肯定的な、一貫した自己イメージ、つまり「人格」(重要なのは、この自己イメージが評価され、好ましく思われたいという欲求を含んでいることである。)

(田中2011:79)

Brown&Levinsonによれば、すべての話し手と聞き手(=MP)はポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイスを持ち、合理的な行為者(rational agents)である<sup>9</sup>。

フェイスは他者の行為(欲求の表現も含む)によってのみ満たすことのできる一組の欲求からなると仮定すると、通常、互いのフェイスを保つことは、二人のMPの相互利益にかなう。ゆえに、強制やごまかしなどにより、補償行為なしで、相手に自分のフェイスを保たせることができる場合を除き、SはHのフェイスを保持したいと望むだろう。

行為によっては本質的にフェイスを脅かすものがある。こちらの「フェイスを脅かす行為」(face-threatening acts)を、以後、FTAと呼ぶ。

FTAを最大限効率的に行うこと(「オン・レコードであからさまに」(bald on r

---

<sup>9</sup> ブラウン&レビンソンは話し手をSで表し、話し手が対象とする聞き手のことをHで表記した。また、SとHを併せてMP(モデル的人物)と呼ぶことにした。



ecord) と規定する) に対するSの欲求が、Hの (あるいはSの) フェイスをある程度守りたいという欲求よりも大きくなければ、SはそのFTAのフェイスに対する脅威<sup>きょうい</sup>を最小限にしたいと欲するだろう。

Brown&Levinsonは欲求を二つに分け、それがポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイスである。ほとんど言語行動には多かれ少なかれFTAが生じると考え、FTAの危険度の見積概算公式を提案し、次のように「 $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ 」と構成されている。

- $W_x$  : 行為  $x$  が相手のフェイスを脅かす度合い
- $R$  : 相手にかかる負荷度
- $D$  : 話し手と聞き手の社会的距離
- $P$  : 聞き手の話し手に対する相対的力

この公式で算定された $W_x$  値が大きいほど程度の高い「ポライト」な言語行動、すなわちポライトネス・ストラテジーを必要とする。ポジティブ・ポライトネスのストラテジーとネガティブ・ポライトネスのストラテジーにおけるメカニズムをまとめて挙げている田中 (監) (2011) を引用し、その後ポジティブ・ポライトネスのストラテジーとネガティブ・ポライトネスのストラテジーをもとに日本語と韓国語における言語行動をデータと作例を用いて検討を行う。

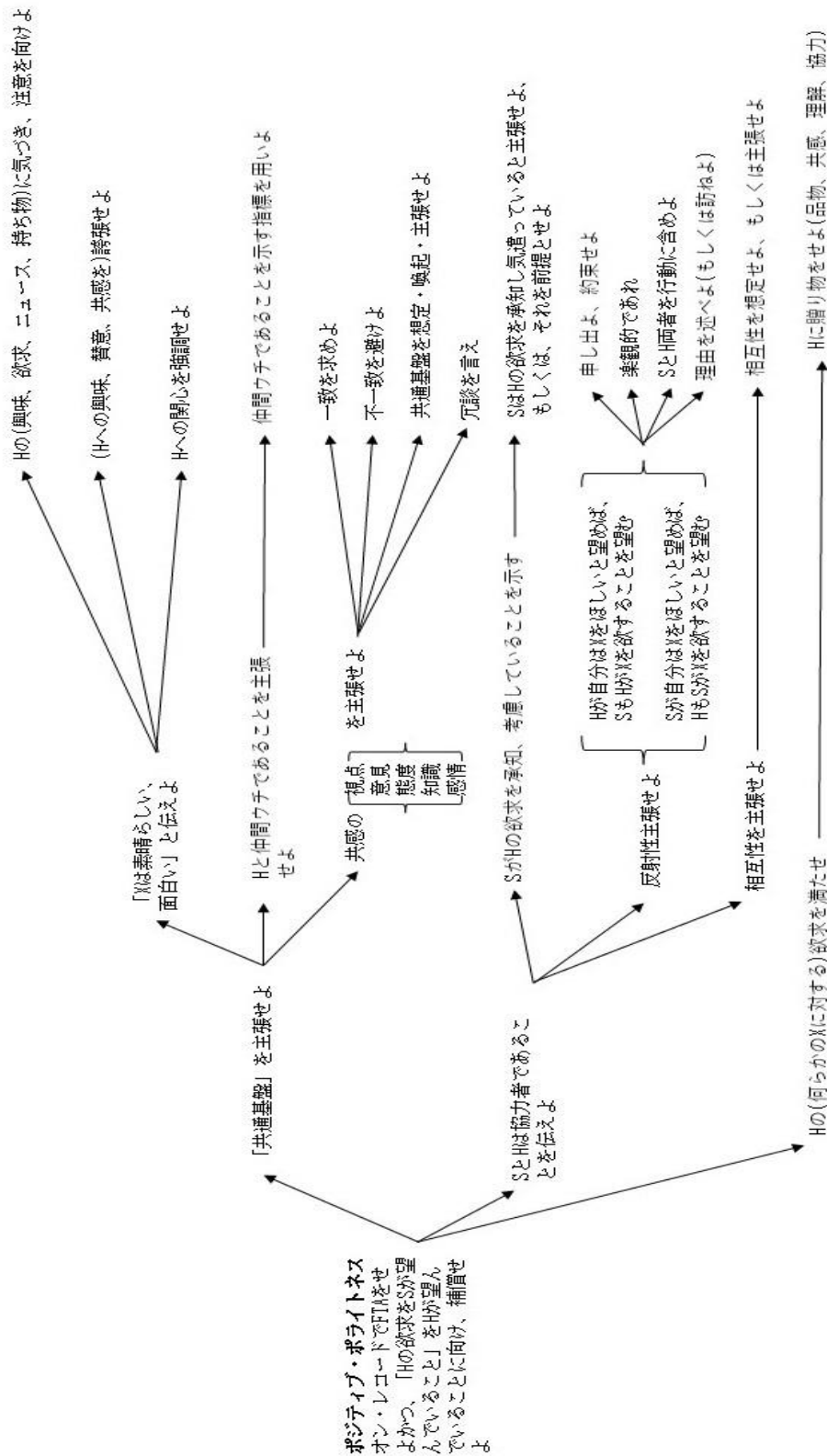


図 3 ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー

(田中 (監) 2011 : 136)

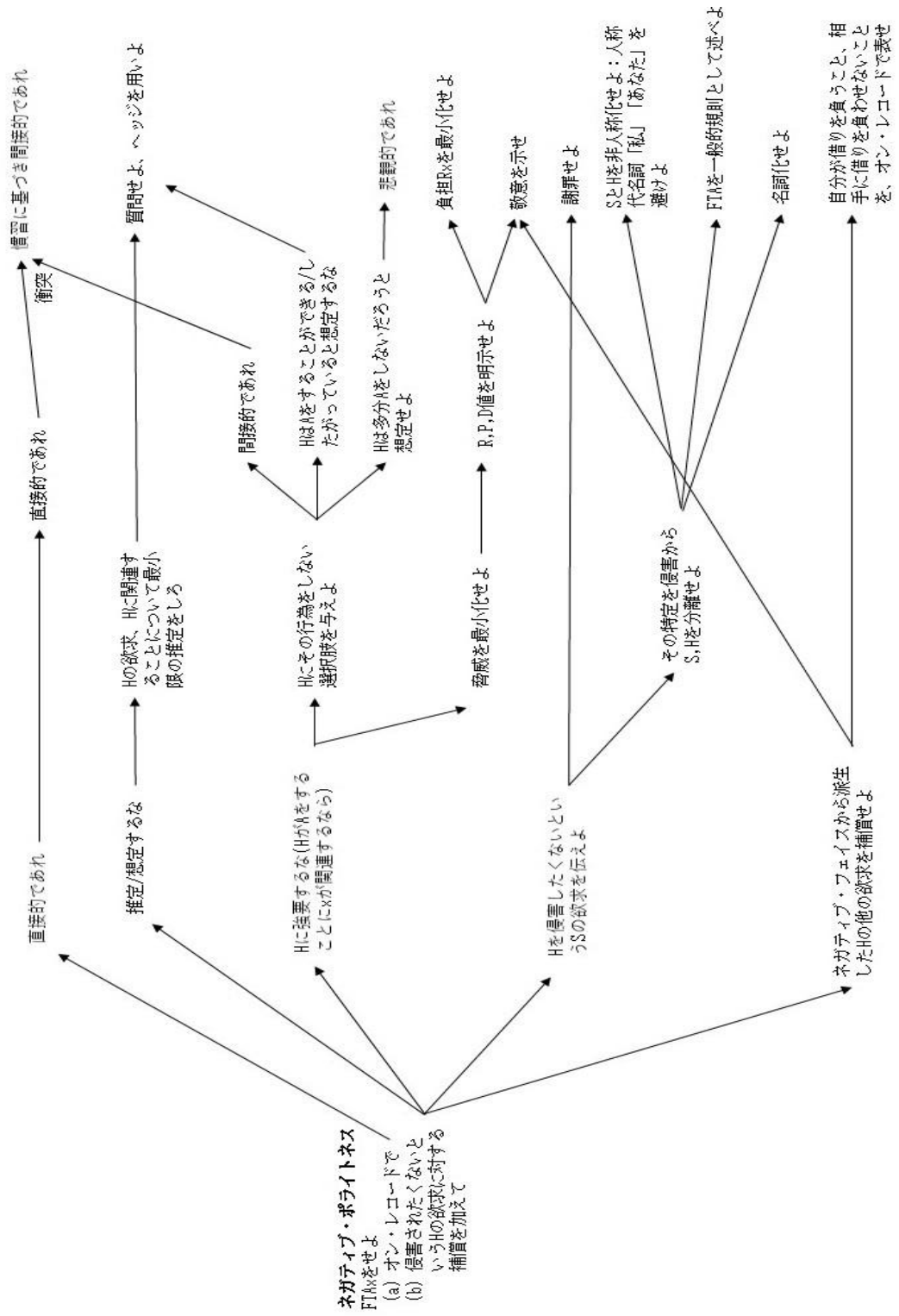


図4 ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー

(田中 (監) 2011 : 180)

<ポジティブ・ポライトネスのストラテジー>

- ・ 相手（の関心・欲求・ニーズ・ニーズ）に気づき、注意を向ける。
- ・ （相手への興味・同意・共感を）誇張する。
- ・ 相手への関心をより強いものにする。
- ・ 内輪である標しを用いる。
- ・ 一致を求める。
- ・ 不一致を避ける。
- ・ 共通基盤を仮定する・喚起する・主張する。
- ・ 冗談を言う。
- ・ 相手の欲求についての知識と気遣いを主張しまた仮定する。
- ・ 申し出・約束をする。
- ・ 楽観視する。
- ・ 自分と相手の両者を行動に取り込む。
- ・ 理由を言う（また尋ねる）。
- ・ 相互的であると見なした主張する。
- ・ （物・共感・理解・協力を）相手に贈与する。

(滝浦 2013:110-111)

<ネガティブ・ポライトネスのストラテジー>

- ・ 慣習的な間接性を訴える。
- ・ 質問する・曖昧化する
- ・ 悲観視する。
- ・ 負荷Rxを最小化する。
- ・ 敬意を示す。

- ・ 謝罪する。
- ・ 自分と相手を非人称化、非個人化、非人格化する。
- ・ FTAを一般側として述べる。
- ・ 名詞化する。
- ・ 自分が借りを負うこと、相手に借りを負わせないことを明言する

(滝浦2008:40-41)

### 3.2 日本語と韓国語から見た「ポライトネス理論」

#### 3.2.1 日本語の場合

Brown&Levinson (1987:101) によると、ポジティブ・ポライトネスは聞き手の積極的フェイスに向けられた補償である。そのフェイスは自らの欲求あるいは行為、獲得物、またそれらから生じる価値などが望ましいものだと思われたいという聞き手の恒常的な願望である。

3.2は上の先行研究をもとにポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとネガティブ・ポライトネス・ストラテジーに相応しい例を順番に沿って筆者がアレンジしたものである。

ポジティブ・ポライトネスの1番目のストラテジーは、相手（の関心・欲求・ニーズ・所有物）に気づき、注意を向けることである。

(37) 髪の毛切った？よく似合っている～。

(37)では相手の変化に気づき、注意を向け、会話の話題にすることによってポジティブ性を表している。

ポジティブ・ポライトネスの2番目のストラテジーは、相手への興味・同意・共感を誇張することである。

- (38) a. 髪の毛切ったんだ。  
b. めっちゃ可愛い。モデルみたい。

(38) の例は、aの発話に対して、bが大袈裟に反応することによって興味・共感を誇張する場面である。

次に、3番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーとは、相手への関心をより強いものにすることである。

- (39) なるほど、なるほど、ほんとね。

英語の You know、Guess what、そして付加疑問の isn' t it?などが代表な例であって、ポジティブ・ポライトネスのストラテジーには相手の興味を引く要素が含まれているため、(39) のような日本語の相づちなどがここに相当するだろう。

4番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、内輪である標しを用いることである。

- (40) 【場面設定：姉妹が部屋でおしゃべりしている場面】
- a. タトゥーいいな。入れたいな。  
b. ふーん。  
a. bが入れたらいいやん。

b. なんでやねん。

お互いに仲間だという標識的表現を使うことによって相手との距離を縮めることができるだろう。

福田（2013）によると、発話の直後にさまざまな呼びかけ表現を用いるのは、日本語より英語のほうがはるかに多いと述べている。また、呼びかけ表現ではなく、方言やスラング、省略表現などが含まれている。

そして5番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、一致を求めることである。

(41) a. マジであの人嫌い。

b. 分かる。マジで嫌だよね。

相手の発話の一部を繰り返すと相手との一致的態度を示す効果があり、上の例のように相手が言ったことを繰り返して言うことによって一致性を表している。

6番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、不一致性を避けることである。

(42) a: 12月15日が誕生日だったけ？

b: うん、近いよ。12月の17！

このストラテジーは、相手の発話に頭から反対するのではなく、いったん形だけは同意してから、その後で不一致の部分を少し明示するというやり方である。つま

り、不一致を際立たないようにしながら、なるべく一致性を求めて同意することである。

7番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、共通基盤を仮定する・喚起する。主張することである。

(43) これまずくない？

共通基盤を前提として、お互いに共感するストラテジーである。

8番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、冗談を言うことである。

(44) a. 今度、ここに旅行に行かない？一人3万円なんだけど。

b. うーん、財布と相談するね。<sup>10</sup>

(45) a. (家を出たが、忘れ物に気づき家に戻る)

b. おかえり～もう帰ってきたん。

a. ただいま、今日は一瞬で終わったわ～。

ジョークを言う文化は世界共通しているもので、アメリカ人や英語圏ではごく自然な言語使用を行うため頻繁に用いるストラテジーの一つでもある。また、日本語も状況によってジョークを用い、場の雰囲気をやわらげ、親しさを表す効果がある。

9番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、相手の欲求についての知識と気遣いを主張し、また仮定することである。

---

<sup>10</sup> 提示された金額がbにとって、予算的あるいは金銭状況的に簡単に受け入れられないものではなく、少し考える必要があるということ。



(46) こないだ、ホビット見たいって言ったよね。やっぱり、見たい映画は見ておくほうがいいよね。見逃すのはもったいないからね。

相手の欲求をあらかじめ理解しているように、あるいはそれに関心を持っているように、断定する、もしくはそのように前提することである。

相手の欲求や、やりたいことを覚えているように、あるいはそれに関心を持っているように話すことはポジティブな発話行為である。

10番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、申し出・約束をすることである。Brown&Levinsonは申し出をすることと約束をすることをポジティブ・ポライトネスのストラテジーだと述べている。英語の‘See you later!’もこのストラテジーに相当する。

(47) また、遊ぼうね～。

(48) では、仮に嘘の約束であってもそれをいうことによってポジティブに相手とコミュニケーションをとる手段になる。

11番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、楽観視することである。

(49) 大丈夫、何とかなるさ。

12番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、自分と相手の両者の行動に取り込むことである。

(50) そろそろ行きましょうか。

話し手と聞き手の両者が同じ活動に共に従事しているように言う。このストラテジーの代表的な言語形式は‘let’s’という「包含のwe」を使った言い方である。

自分と相手が同じ行動をしているように取り込むことで積極的に会話を進めていく効果がある。

13番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、理由を言う・尋ねることである。

理由を述べたり求めたりする。これら‘why’を用いる表現は、「理由」を求める形を取っているが、話し手は実際、「理由」を求めているのではなく、提案や申し出や要求の妥当性について当然yesであるとの確認を聞き手との間で共有しようとしている意図が含まれている。

(51) 今度カラオケ行こう。一緒にBTSの曲歌いたいから。

理由を述べたり尋ねたりするのはポジティブ・ポライトネスに属する。

14番目のポジティブ・ポライトネスのストラテジーは、相互的にあると見なし、また主張することである。

(52) この間のお料理おいしかったです。

今度はぜひ私をご馳走しますよ。

どちらの例も対人的距離の縮減志向を感じさせる。会話当事者の相互性を強調し

ている。相手と自分が相互的な関係にあることを示している。

最後は、言葉ではなく聞き手に品物・共感・理解・協力を与えることである。つまり、Brown&Levinsonは行為も一つのストラテジーとして考えたことが分かる。

他方、ネガティブ・ポライトネスは聞き手の消極的フェイスへ向けられた補償的行為である。そのフェイスとは、自分の自由と自分の注意を妨げたくないという聞き手の欲求である。

Brown&Levinsonはネガティブ・ポライトネスを選択するような状況では、FTAをオン・レコードで行うと同時に緩和する（redress）必要があると述べている。そのオン・レコードの側面を生かす最も単純な方法は、あからさまに言う（bald-on-record）、つまりそれを直接伝えることであるが、これは相手のネガティブ・フェイスに配慮して補償を行う必要性和対立してしまうため、現実にはネガティブ・ポライトネスを表現しつつFTAを完全に直接的な仕方で発言するということはできない。しかし冗長さや曖昧さによってかえって相手に負担をかけてしまうのを避け、すぐに要点に至ることによってその負担を最小限にするため、直接的な手段をとるような形のポライトネスを用いる場合もある。

ネガティブ・ポライトネスのもう一つの側面は、ネガティブ・フェイスを守る必要性が介入し、ある妥協が生まれて慣習的間接性という融合的ストラテジーに落ち着くのである。ネガティブ・ポライトネスの二つの側面が衝突することを示しているのが<図3>である。つまり、FTAをオン・レコードで行おうとするところから発生する「直接的であれ（BE DIRECT）」という欲求と「Hに強要するな（DON' T COERCE H）」から出てくる「間接的であれ（BE INDIRECT）」という欲求である。

次は、日本語におけるネガティブ・ポライトネスのメカニズムを詳細に見ていく。

ネガティブ・ポライトネスの1番目のストラテジーは、習慣的な間接性に訴える

ことである。習慣的な間接性に訴える。能力をたずねる疑問文を使って間接的要求をしている。

(53) 塩をとっていただけませんか。

依頼の表現は用いず依頼の前提にだけ言及する。日本語では、このような依頼表現に否定文がよく用いられることがわかる。

2番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、質問する・曖昧化することである。日本語からすると、控え目表現は英語にも日本語にも存在しているものの、相違点を述べると英文ではよくヘッジが用いられ、命令文のニュアンスを和らげているのに対して、日本語では文頭に「ちょっと、少し」などの表現を用いるか、「～みたい、ようだ」などを用いて自分の意見を強く主張せず、控えている。

英語の疑問文で聞き、後ろにhedge(ヘッジ) ‘will you?’ などが用いられ付加疑問形をとると、前の命令文を和らげて、依頼の意味になる。

(54) ちょっとだけいただきます。

3番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、悲観視をすることである。悲観的に述べ、お願いすることによって、相手に押し付けないようにする。

(55) 無理なら全然断ってくれてもいいけど、今ちょっといい？

相手の逃げ道をあらかじめ用意しておき、負担を減らす表現がここに相当する。

4番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、負荷を最小化することである。英語だと文中にjustを入れることによって、相手に負担を少なくする。ここでのjustのように、押し付けの度合いを最小限にすることが大事である。

(56) ほんの少しでよろしいので、ご意見いただけませんか。

5番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、敬意を示すことである。

(57) 今度、お食事でも一緒にできたら嬉しいのですが…

例(57)は敬意を払うことで消極的ポライトネスを表している例である。日本語と韓国語の場合、敬語体系を有する言語であるため、このストラテジーで敬語を用いればよい。福田(2013)によると、英語には文法的に定まったシステムとしての敬語はないが、「食事する」をeatingではなく、diningと言い換えたりする語彙の選択や表現上のバリエーションによって尊敬の態度を表明することができる。

6番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、謝罪することである。

(58) 申し訳ございませんが、土曜日に変更していただくことは可能でしょうか。

日本語では、謝罪をしながら相手に頼みたいことを誘う言い方が頻繁に用いられている。その中には感謝の意味が含まれている場合もあり、「申し訳ない」、「すみません」、カジュアルな場合だと「ごめん」などの表現がここに相当する。

7番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、自分と相手を非人称化・非個人化・非人格化することである。

日本語や韓国語などでよく見られる主語脱落とはまた別のものであるが、福田(2013)では、英語で“I”と“You”などの代名詞を使わないことは独特の客観化効果を生むことになると述べている。ここでの非人称化というのは話し手と聞き手という会話の直接的な参加者が関与しないかのような表現である。

(59) 大変なことになりましたね。

自分と相手を非人称化・非個人化・非人格化するのは、ネガティブ・ポライトネスに属する。日本語では、動作を出来事として表現する場合はここに相当する。

8番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、フェイス侵害を一般側として述べることである。「一般的にみんな～することになっているのです」という言い方がここに相当する。

(60) お座席にお座りの際は、座席ベルトをおしめ下さいませ。

例(60)は、飛行機に乗ると機内アナウンスでよく聞くアナウンスの一部である。特定の人物を指すわけではなく、通常こうすることであると一般化して発話する例である。

9番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、自分が借りを負うこと・相手に借りを負わせないことを明言することである。

(61) 大丈夫です。まったく問題はありません。

相手に借りと負わせないようにする気配りが含まれ、相手の負担を和らげようとする表現である。

10番目のネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、名詞化することである。

(62) 望外の喜びです。

(滝浦2008 : 41)

### 3.2.2 韓国語の場合

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの1番目 :

(63) 와아! 교수님 예쁘세요!

(先生、おきれいですね。)

(64) 교수님 오늘 피곤해 보이세요. 얼굴색이 안 좋아요.

(先生、疲れて見えます。顔色が悪いですよ。)

(井出 1999:48)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの2番目 :

(65) a. 살이 조금 빠졌나...

(少し痩せたかな。)

b. 정말이네요! 얼굴이 반쪽이에요.

(本当ですね! 顔が半分になりましたね。)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの3番目 :

(66) 【백화점에서 옷을 둘러보고 있을 때 점원이 다가와서】

요즘 인기있는 거예요~ 한번 입어보세요.

【百貨店で洋服を見ていると、店員が近づいてきて】

(最近、大人気の商品です。一度試着して見てください。)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの4番目 :

(67) 그가 처음 손짓으로 옮긴 신조어는 ‘TMI(Too Much Information)’  
였다. “예능프로그램을 통역하는데 경제 용어인 줄 알았어요. 그걸  
빼고 통역하고 나중에 뜻을 찾아봤습니다” 신조어를 전달하는 핵심  
은 단어의 뜻을 간결한 동작으로 정리하는 데 있다.

(중앙일보2019/08/31)

彼が初めてジェスチャーで表現したのはTMI (Too Much Information)  
であった。

“バラエティー番組を通して経済用語だと思いましたが、それを除い  
て通訳し、その後意味を調べてみました”。新造語を伝達するポイント  
は単語の意味を簡潔な動作で直すことである。 (筆者訳)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの5番目 :

(68) a. 두분 다 참 예쁘세요.

b. 예, 참 예쁘세요.

a. 二人ともとてもきれいですよね。

b. そうですね。めっちゃきれいですね。

(『아침마당』 1995/02/20放送)



포지티브・포라이트네스의 스토라테지의 6번目 :

(69) 상식 : (당황하고) 어.. 너 족발 이제 안 먹나?

형철 : (코웃음) 먹지, 좋아하지.. 근데 지금은 이게 먹고 싶은 게  
아니지.

산싱크 : (戸惑って)あれ?君もう豚足食べないの?

ヒョン Chol : いや、好きですよ。でも今はちょっと…

(드라마 『미센』 第6話)

포지티브・포라이트네스의 스토라테지의 7번目 :

(70) 이거 맛없지 않아?

(これまずくない?) (筆者訳)

포지티브・포라이트네스의 스토라테지의 8번目 :

(71) 성훈 : 더블 무대 하는데 노출 때문에 한 명이 잡혀가 버리면 뭐가  
돼.

기안 : 사람들이 잡혀가는 것도 약간 퍼포먼스인 줄 알겠네.

송분 : 듀엣으로 무대를 하는 것에 노출의 세いで一人が捕まれた  
らどうすんの。

키안 : 観客さんは捕まれる様子もパフォーマンスだと思うんじゃない?  
い? (筆者訳)

(『나 혼자 산다』 2019/08/23)

포지티브・포라이트네스의 스토라테지의 9번目 :

(72) 【연인사이에서】 a. 저번에 크림 파스타 먹고 싶다 했잖아. 이번 주 일요일에 먹으러 갈래?

b. 진짜? 좋아.

【恋人同士で】 a. この前、クリームパスタ食べたいと言ってたじゃん。今週の日曜日、食べに行かない?

b. 本当?嬉しい。

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの10番目:

(73) 잘가~ 다음 주에 보자.

(バイバイ~また来週。)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの11番目:

(74) 너무 걱정마세요. 다 잘 될 거예요.

(そんなに心配しないでください。全てが順調に進むから。)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの12番目:

(75) 점심시간인데 슬슬 나가실까요?

(ランチの時間ですが、そろそろ出て行きましょう。)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの13番目:

(76) 너는 노란색이 잘 어울리는데, 이 코트는 어때?

(君は黄色がお似合いだから、このコートはどうなの?)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの14番目：

(77) 결혼식에 참석해 주셔서 감사합니다.

식사 한번 모시겠습니다.

(結婚式に参加していただき、感謝します。ご馳走させていただきます。)

ポジティブ・ポライトネスのストラテジーの15番目： 日本語と同様。

韓国語におけるポジティブ・ポライトネスのメカニズムはドラマ、バラエティー番組、などで見つかることが難しくない。同様に、作例も日本語におけるポジティブ・ポライトネスよりも多様なバリエーションで作ることが可能である。

続いて、韓国語におけるネガティブ・ポライトネスの例文を見てみる。

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの1番目：

(78) 창문 좀 열어 주세요?

(窓を開けてもらえますか。)

韓国語においても疑問文を用いることで慣習的間接性を表すことができる。しかし日本語のように、否定文は用いない。

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの2番目：

(79) 오늘 좀 늦을 수도 있는데...

(今日少し帰りが遅くなるかもしれない。)

「～かも知れない、みたい、ようだ、らしい」など自分の発話に対して曖昧に話す傾向がドラマの台本や日常生活の上で若者によく見られる現象である。

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの3番目：

(80) 바쁘면 괜찮은데, 지금 시간 있으세요?

(忙しいなら結構ですが、今時間大丈夫ですか。)

お願いをする前に、「忙しいなら結構ですが」、「大したことではありませんが」など悲観的なことを述べることによって、相手に断りやすいムードを与える効果がある。

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの4番目：

(81) 시간 잠깐 괜찮으세요?

(お時間ちょっといただけますか。)

日本語の「ちょっと、少し」に当たる「조금、잠깐」を文中に入れることによって相手に押し付けない役割を果たす。

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの5番目：

(82) 상식 : 그럼 현장 방문하시는 날에 다시 뵙겠습니다.

헨리 : 그러죠.

산식 : では、現場に来られる日に改めましてお目にかかります。

헨리 : はい。

(筆者訳)

(ドラマ『ミセン』第1話)

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの6番目：

(83) 상식 : 미안해요. 오래 기다리게 해서

헨리 : 오! 괜찮아요. 미스터 장 때문에 지루한 줄 몰랐어요

산싱크 : ごめんなさい。待たせてしまって。

헨리 : 大丈夫です。ミスターチャンが居て楽しかったです。

(筆者訳)

(ドラマ『ミセン』第1話)

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの7番目 :

(84) 장운영 (상인): 예전 같지가 않아요. 장사가 영 안돼서... 큰일 났어요. 설  
은 다가오는데 불경기라서 정말 큰일이에요.

(過去とは違いますね。大変なことです。お正月は近づいてい  
ますが、不景気なので。(筆者訳) )

(OBS NEWS2019/01/25)

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの8番目 :

(85) 손님 여러분, 오늘도 저희 대한항공 010편을 이용해 주셔서 감사합니  
다. 안전한 여행을 위해 갖고 계신 짐은 앞 좌석 아래나 선반위에 보관  
해 주시기 바랍니다.

출발을 위해 좌석 벨트를 메주시고, 등받이와 테이블을 제자리로 해주  
십시오.

本日もコリアンエアライン010便をご利用くださいませ誠にありがと  
うございます。安全な運航のため、お荷物はお座席の下又は上の棚にお入  
れくださいませ。

出発のため、シートベルトをおしめ下さいませ。

(大韓航空の出発前の機内放送)

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの9番目：

(86) 슬픔에 찬 빈소 (悲しみに満ちた葬式)

(YTN2019/2/15)

ネガティブ・ポライトネスのストラテジーの10番目：

韓国語にも日本語のように、贈り物をする際などにへりくだって述べる表現を用いることによって相手に借りを負わせないことを明言する役割を果たす。「こちら、つまらないものですがどうぞお納めください。」、「ささやかな品ですがお納めください。」などが言える。

以上、ポジティブ・ポライトネスのストラテジーとネガティブ・ポライトネスのストラテジーに関する日韓両言語のメカニズムを例文で考察した。続いては先行研究からの日韓両言語の特徴の中、ポライトネスで説明しきれないと考えることについて述べる。

### 3.3 日本語と韓国語におけるポライトネス理論の限界

李その他(2004)によると、韓国語における敬語使用では何より年齢が敬語法を決定する最も重要な作用をすると指摘している。韓国で年齢は言語だけではなく、全ての生活で極めて大きな影響力を発揮するのである。「長幼の序」の秩序が様々な日常生活をする上で、徹底して守られている。

第2章で既に検討したように、韓国語には三つの敬語法が存在し、本章ではその中から最後の対者敬語法を取り上げることとする。

図1の「現代韓国標準語の対者待遇法」をもう一度見てみると、



図1 現代韓国標準語の対者待遇法

韓国語における対者敬語法は話し手の心的な距離によって、格式形の上称から下称までを分類する。そして、格式形の上称と非格式形の略待丁寧形に関してもその度合いがどう異なるかが明らかではない。

韓国語における待遇形式と言及内容領域の関係がどのように構成されているのかを滝浦(2008: 40-46)は韓国語の挨拶表現から取り上げる。その例文が以下の(87)、(88)である。<sup>11</sup>

(87) 【昼食時に食堂でたまたま会った先生に学生が声をかける】

선생님, 많이 드세요. 먼저 실례하겠습니다.

(先生、たくさん召し上がってください。お先に失礼いたします。)

(88) 【値引き交渉をするような衣料品店で店員が客に、客が店員に】

<sup>11</sup> 滝浦(2008)では、韓国語の例文をローマ字だけで挙げているが、筆者が引用を行いながらハングル文字も加えて書くことにする。

예쁘게 입으세요. 많이 파세요.

(きれいに着てください。たくさん売ってください。)

韓国語の挨拶は、非格式（略待）形の「hejo体」を用いた「～てください(～sejo)」形の言い回しが多い。しかし、「～てください」式の挨拶が「hejo体」でしか言えないというわけでは決してなく、「hapnita体」の命令形、「-sipsio」の形も多く用いられる。たとえば、日本語の「いらっしゃいませ」に相当する韓国語は「어서 오세요 (osoosejo)」と「어서 오십시오 (oso osipsio)」どちらに訳しても容認できる。

滝浦（2008）では例（87）について詳しく説明していなかったため、筆者の意見を述べてみると、＜上下＞的な距離を重視する韓国語の敬語では、目上の先生に対して生徒が声をかける場面で格式形の「hapnita体」を用いることはふさわしくない。元々、格式形の「hapnita体」は格式形の中で上称であっても、一方的にそれを命令形の「-sipsio」にして先生に向けて使うと強圧的なニュアンスを与える可能性が高い。したがって、敬語を保ったまま相互作用が必要な場面では非格式形の「hejo体」が使われることが適切である。また、その反対の例としては相互的な発話が求められず、中立性が求められるニュースでは格式形の「hapnita体」を用いて情報を伝達する。

(89) 문재인 대통령이 어젯밤 10시부터 한 시간 동안 트럼프 미국 대통령과 전화 통화를 하고 북한의 미사일 도발 대응 방안을 논의했습니다.

그제 미사일 발사 후 5시간 만에 통화를 한데 이어 한미 정상회담이 이틀 연속 통화한 것으로 현 정부 들어 처음입니다.



문 대통령은 북한의 대륙간탄도미사일 '화성 15형'이 가장 진전된 것  
임은 분명하지만, 대기권 재진입과 종말단계 유도 분야 기술이 입증되지  
않았고, 핵탄두 소형화 여부도 불분명하다고 말했습니다.

그러면서 우리의 당면 과제는 핵 미사일 기술 진전 저지와 궁극적 폐  
기라고 강조했습니다.

韓国の文(ムン)大統領が昨晚10時から1時間に及んでアメリカのトランプ  
大統領と電話会談を行い、北朝鮮のミサイル挑発に対する対応方を論議  
しました。

一昨日のミサイル発射後に5時間ぶりに通話をしたことに続き、韓米首脳  
が連日電話会談をしたのは、現政府に入って初めてのことであります。

文大統領は、北朝鮮が昨日発射されたミサイルがこれまでのミサイルの  
中で最も進んでいるものであることは明らかですが、大気圏への再突入や  
終末段階誘導分野における技術はまだ証明されておらず、核弾頭小型化技  
術確保の可否も不明だと 述べました。

そう言いながら、文大統領は、私たちの当面課題は核ミサイル技術の進  
展阻止と完全な廃棄だと 強調しました。<sup>12</sup>

(KBS放送局『12時ニュース』2017-12-01)

例 (89) を見てみると、不特定多数に向けて語るニュースでは中立性が強調され  
るため全て格式形の上称「hapnita体」が用いられている。

滝浦 (2008) によると、次の (88) のように相互的な目線で気遣いが表現される

---

<sup>12</sup> 韓国のニュースに対して筆者がその台本を訳したものである。

ときには、「hapnita体」ではなく「hejo体」が相応しかつたり、「hejo体」でないと表現できなかつたりする。他方、上向きの目線で「hapnita体」の挨拶をするとき、話し手は同じ待遇法の挨拶が返ってくることを期待するわけではない。その意味では、「hapnita体」の発話は一方向的であり、「hejo体」の発話は相互性があるゆえに共感的であると書いてある。

日本語の場合は、敬語を用いただけではなくさらに相手の領域を考え、補助動詞「～てくださる」よりは「～ていただく」の使用を好む傾向がある。その理由としては、主語の位置に「話し手（＝自分）」をおいて、相手の領域をなるべく触れたがらない意図がある。

一方、韓国語の場合は言及領域に関して聞き手の領域に立ち入ることの許容度が全般的に高い言語であるため、敬語を用いてさらに相手の領域まで配慮する日本語とは異なっている。敬語を用いたままある程度目上の人であっても、その人の領域に侵害することが許容される。しかし、まったく相手の領域を配慮していないわけではない。

例（87）をもう一度見てみよう。

(87) 【昼食時に食堂でたまたま会った先生に学生が声をかける】

선생님, 많이 드세요. 먼저 실례하겠습니다.

(先生、たくさん召し上がってください。 お先に失礼いたします。)

上の例文をみると、韓国語は自分の意見を積極的に述べながらも「召し上がる」に相当する「드시다tusida」に非格式「hejo体」を合わせた「드세요tusejo」形が用いられ、つまり相手が目上であることと相手との親しさを同時に表している。

ヨコとタテの距離的な概念だけでは、日本語と韓国語を説明するに限界があるかもしれない。日本語においては、上下関係よりは「話し手—(話題の人物)—聞き手」との関係を大事にする言語として私的領域を避けることが特徴である。しかし、それを説明するにはやはり<領域>のことを言及しないと説明しにくい部分がある。

韓国語においても、<図1>を説明するとき、距離だけを論じるとかなり説得力が落ちると考えられる。また、韓国語は敬語形式を維持したまま、日本語より積極的に自分の意志や気持ちを表に表す傾向があるため、形態レベルでは見られなかった積極さが、例(81)と(82)のような談話レベルでは現れてくる。その点で韓国語のほうが日本語より相手の<領域>に侵害しやすい言語であると言えるだろう。

最後にポライトネスにおける<距離>の観点と並行して<領域>の観点をを用い、日本語と韓国語の待遇表現を対照するとお互いの言語をより理解しやすくなると考え、次の章で日本語研究から生まれた「なわ張り・私的領域の理論」と「わきまえ理論」から日本語と韓国語の待遇表現、とりわけ韓国語はあまり研究されていないため慎重に追究してみたい。

## 第4章 「なわ張り・私的領域の理論」と「わきまえ理論」から

### 見た日韓両言語

#### 4.1 本章の目的と使用するデータ

本章では、「なわ張り・私的領域の理論」と「わきまえ理論」の概念を踏まえた上で、ポライトネス理論だけでは説明が不十分であると考えられる日本語と韓国語における待遇表現の理論的な説明を補うことにしたい。

そのため、いくつかの質問を日本語話者と韓国語話者にアンケートとして調査を行うことにする。アンケート調査から得られた結果を用いて「なわ張り・私的領域の理論」と「わきまえ理論」を説明しようとする。まずアンケート調査の結果を述べた上で必要に応じて、改めて以下で内容を用いる。

## 「アンケート調査の質問と回答」

質問1. 下線部を日本語話者と韓国語話者は言えるのか。

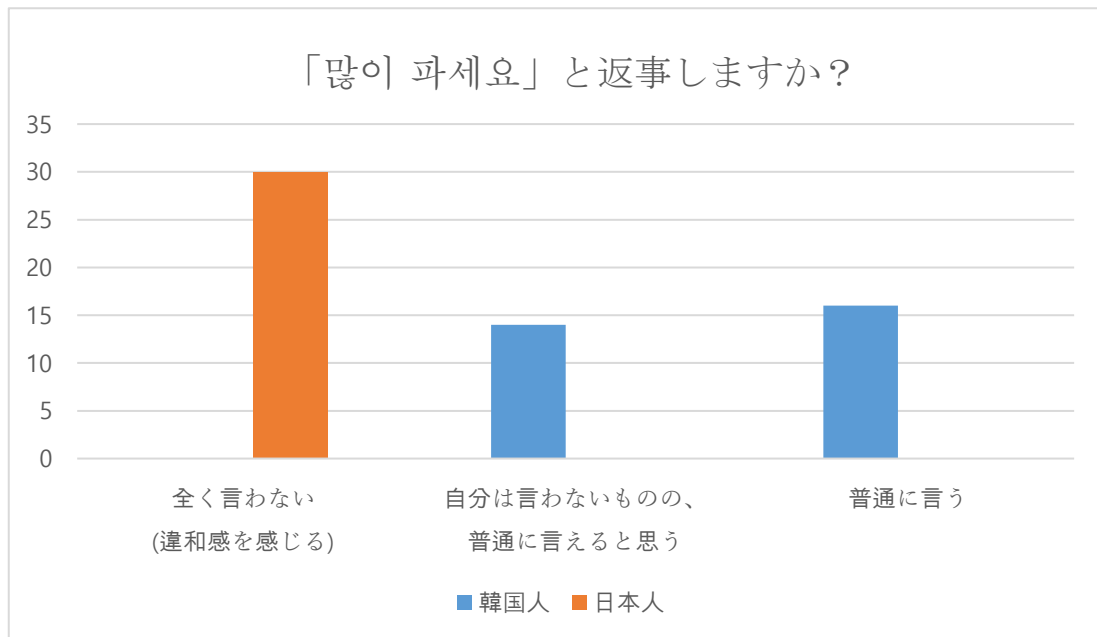
【場面設定：服屋でお洋服を買ってお店を出ようとしている】

店員： ありがとうございます。またお越してください。

私： たくさん売ってください。

- ① 全く言わない
- ② 自分は言わないものの普通に言えそう
- ③ 普通に言う

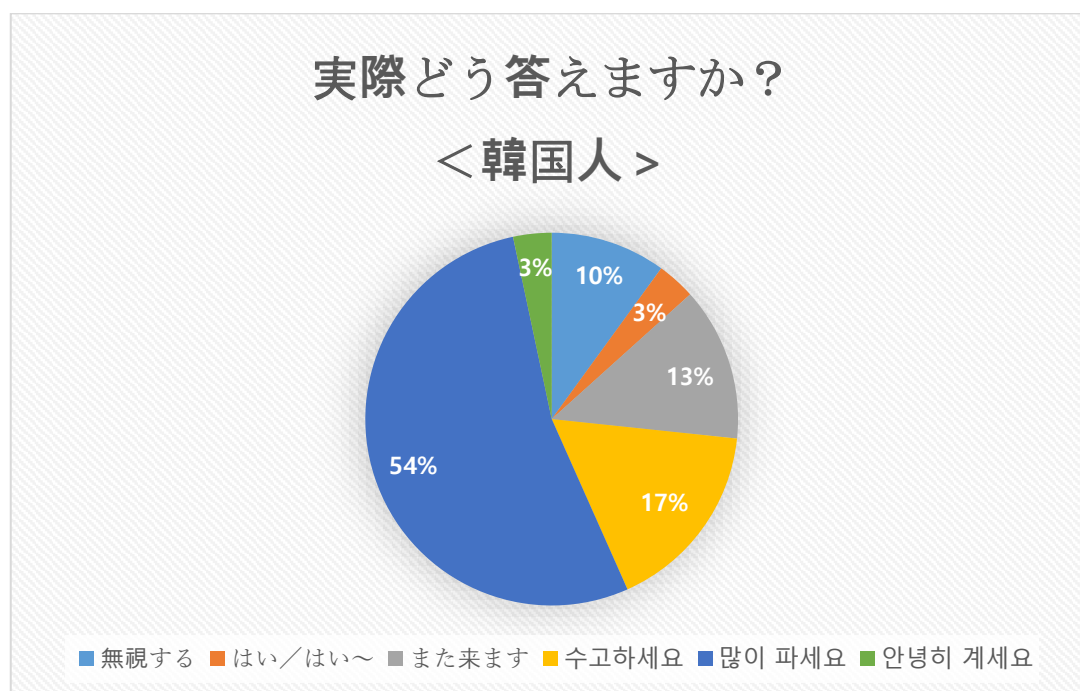
結果1.



日本語話者は30人全員が「많이 파세요」に相当する「たくさん売ってください」とは言わないと回答した。それに対して、韓国語話者は16人が普通に言うと回答し、自分は言わないものの普通に言えると思うと回答した人が14人であった。

質問 2. 「質問 1」で設定した場面を想像しながら、自分の場合だとどう言い返しますか。自由に書いてください。（えしゃく、ジェスチャー、なども含む）

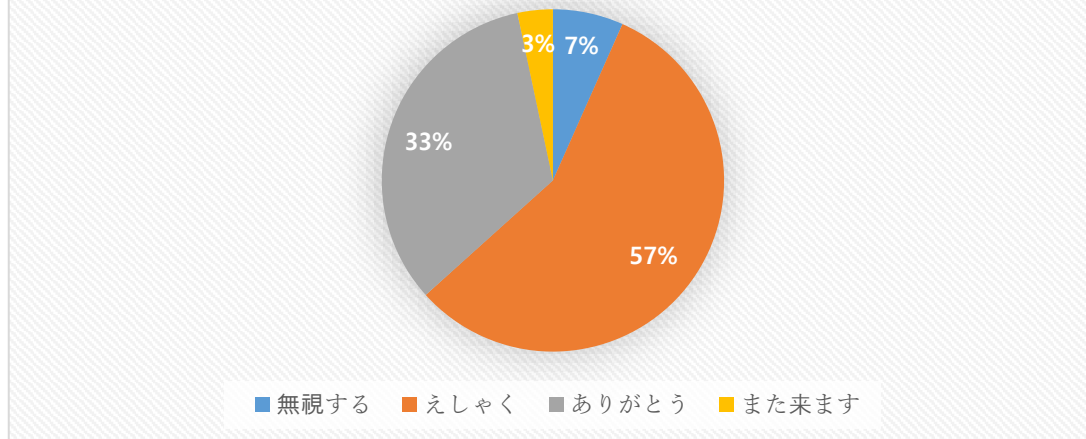
結果2.



まず、韓国語話者からは多様な答えが出ており、無視すると回答した人が3人、はいと簡略に言い返すと回答した人が1人、また来ますねと回答した人が4人、頑張ってください（수고하세요）と回答した人が5人、たくさん売ってくださいと回答した人が16人、さよなら（안녕히 계세요）と回答した人が1人だった。

## 実際どう答えますか？

### <日本人>



続いて、日本語話者は無視すると回答した人が2人、えしゃくなどジェスチャーをする人が17人、ありがとうと回答した人が10人、また来ますと回答した人が1人だった。

質問3. 以下の発話についてどう思いますか。

- ・ 社長、コーヒー召し上がりたいですか。
- ・ うれしいですか。
- ・ 何かありましたか。
- ・ 夏休みは何をしようと思っていますか。
- ・ テニスおできになりますか。

結果3. 日本語話者は敬語を用いても不自然であると回答し、韓国語話者は敬語を用いて相手に丁寧に尋ねているので問題ないと回答した。

## 4.2 「なわ張り・私的領域の理論」の概要

### 4.2.1 なわ張り理論の定義

(90) 話し手または聞き手と文の表す情報の間に一次元の心理的距離が成り立つものとする。この距離は<近>および<遠>の2つの目盛りによって規定される。

神尾（1990）は、（90）のようになわ張り理論全体の根底を成す仮定を立て、（90）に基づいて<情報のなわ張り理論>の概念を定義した。それが次の（91）である。

(91) <Xの情報のなわ張り>とは、（90）によりXに<近>とされる情報の集合である。ここで、Xは話し手または聞き手とする。

### 4.2.2 なわ張り理論の適用

なわ張り理論に基づくと、Xに<近>である情報はXの<情報のなわ張り>に属することが出来、Xに<遠>である情報はXの<情報のなわ張り>に属することが出来ない。

さて、神尾（1990）の定義により、情報はXのなわ張りに属するか否かであり、Xは話し手または聞き手のいずれかである。

情報のなわ張り関係は、<表2>に示すようにA-Dの4つの場合があること、そしてそれぞれの場合に適切な文形が定められていることを表にした。



		話し手のなわ張り	
		内	外
聞き手のなわ張り	外	A 直接形	D 間接形
	内	B 直接ね形	C 間接ね形

表2 なわ張り理論の構成

<表2>は、神尾（1990）の<表16>（p. 22）に書いてあるものと<表32>（p. 32）に書いてあるものを一つにまとめた表である。

神尾（1990）によれば、なわ張り理論が機能するためには、与えられた情報が話し手および聞き手にとって<近>情報であるか<遠>情報であるかを決定する一般的な条件が規定されなければならない。

情報と話し手および聞き手との関係を決定する一般的な条件は不可欠な存在である。したがって、一般に情報の性質が以下の条件のいずれかを満たしていれば、与えられた情報は話し手または聞き手にとって<近>情報となる。話し手にとっての場合と聞き手にとっての場合とは全く同一であるので、以下では話し手にとっての場合のみを述べる。

- (92) a. 話し手自身が直接体験によって得た情報  
b. 話し手自身の過去の生活史や所有物についての個人的事実を表す情報

- c. 話し手自身の確定している行動予定および計画などについての情報
- d. 話し手自身の近親者またはごく身近な人物についての重要な個人的事実を表す情報
- e. 話し手自身の近親者またはごく身近な人物の確定している重要な行動予定、計画などについての情報
- f. 話し手自身の職業的あるいは専門的領域における基本的情報
- g. 話し手自身が深い地理的関係を持つ場所についての情報
- h. その他、話し手自身に何らかの深い関わりを持つ情報

以上の条件において、「話し手」を「聞き手」と置き換えれば、情報が聞き手にとって<近>情報であるための条件となる。また、本章の根本的仮定（90）により、以上の条件が全く当てはまらない場合には、情報は話し手または聞き手にとって<遠>情報となる。

#### 4.2.2.1 <表2>におけるAの場合

- (93) a. 昨日は動物園に行って来ました。
- b. 私、頭が痛い。

例（93a）と（93b）は<表2>のAグループに相当するものである。情報が話し手のなわばりに属するが、聞き手のなわばりには属さないという状況である。

例（93a）は話し手自身の前日の行動を述べたものであり、その情報は明らかに話し手にとって<近>であり、話し手のなわばりに属する。一方、聞き手はその情報に特に関係しているわけではなく、仮に何らかの関係があるとしても、そのこと

は例（93a）においては話し手によって全く考慮されていない。

このようにAグループの情報は直接形で表現される。例（93b）を見ても、話し手自身の身体的状態を表し、話し手のみが直接体験によって得ることの出来る情報を表現している。このような情報は、話し手のなわ張りに属し、聞き手のなわ張りには属さない典型的な情報である。

- (94) ?? a. 昨日は動物園に行って来たらしい。  
?? b. 私、頭が痛いようよ。

例（94）は例（93a, b）を間接形にしたものである。例（94a）は通常、話し手が動物園に行ったのではなく、誰か他の人物が動物園に行ったらしいという解釈しか持たないであろう。もし話し手が動物園に行ったのだとすれば、話し手自身が何らかの理由で異常な心理状態であり、夢遊病者のごとく動物園に行ったと解釈せざるを得ない。

例（94b）は特異な修辭的な表現として、話し手が「頭が痛い」ということを婉曲に表現しようとしていると見なした場合のみ、わずかながら自然な文となる。したがって、例（94a）と（94b）の間接形は許容されないと考えられ、Aのグループが直接形で表現されなければならないことを示している。

#### 4.2.2.2 <表2>におけるBの場合

Bグループは、情報が話し手のなわ張りに属するばかりではなく、聞き手のなわ張りにも属する場合である。すなわち、ある情報が同時に話し手にとっても聞き手にとっても<近>情報である場合である。このような場合の事例としては、次の例

が挙げられる。

- (95) a. いい天気ですねえ。  
b. 君はドイツ語がずいぶんうまいね。

Bグループでは、「ね・ねえ・な」などの終助詞が用いられることに注目したい。

(95) の文が自然に用いられるような状況下で、これらの助詞を取り去るといずれも極めて奇妙な発話となる。

- (96) \* a. いい天気です。  
?? b. 君はドイツ語がずいぶんうまい。

例(90a)は、我々が知人に会った時などに、挨拶代わりに用いる気候についての発話であるが、天気の良い日の路上で会った知人に例(96a)を用いて話している人はいない。同様に、(96b)も「ね」を欠くと奇妙であるか、または用いられる状況が全く変化する。このように、Bグループに用いられる発話には、「ね」もしくはその変異形を必要とする。また「ね」に先行する部分は、Aの場合に用いられる直接形と同形である。

Bグループが成立するのは、話し手が一方的な思考や感情の表現を行う場合ではなく、聞き手に向かって話しかけている場合であると考えられる。つまり、交流的な(interactional)会話の場面を前提とする。

#### 4.2.2.3 <表2>におけるCの場合

CはAと逆の場合であり、情報が聞き手のなわ張りに属し、話し手のなわ張りには属さない場合である。

- (97) a. 君は退屈そうだね。  
b. お姉さん、結婚したそうだね。

(97a) は、聞き手の心理状態を表す情報を述べているので、その情報は直接体験により聞き手のなわ張りに属する。しかし、話し手にとってはこの情報は<近>情報ではあり得ないので、話し手のなわ張りの外にある。このように、Cのなわ張り関係が成立している場合には、文形は間接形に「ね」を加えた形をとる。

- (98) ??君は退屈そうだ。

Cグループは、話し手の一方的判断の表現ではなく、聞き手に向かって語りかける表現であるので「ね」を取り除いた例(98)は不自然である。このことは、Cの場合には「ね」が不可欠であることを示している。

- (99) a. パリの冬は寒いらしいねえ。  
b. パリの冬は寒いらしい。

例(99a)が自然である状況としては、話し手はパリの冬の寒さについて伝聞により情報を持っているのみであり、聞き手はパリに居住していて冬の寒さを直接体

験しているという場合が考えられる。

これに対して、例（97a）について例（98）を用いて述べたようにCの場合には「ね」は不可欠である。実際、（99a）において、Cの状況下で「ね」の欠けた（99b）を用いるのはかなり不自然である。つまり、パリの住人である聞き手に向かって、パリの冬を知らない話し手が（99b）を用いることはないであろう。したがって、Cの場合には「ね」が不可欠であり、Dの場合には「ね」は任意の要素である。

#### 4.2.2.4 <表2>におけるDの場合

Dグループは情報が話し手のなわ張りの外にあるだけでなく、聞き手のなわ張りの外にもある場合である。

- (100) a. 明日も暑いらしいよ。  
b. 吉田君はもう退院したんじゃない。

例（100a）は「明日は暑い」という予測的情報を表している。話し手が特に断定的な態度をとらない限り、未来の自然現象に関する情報は話し手にとって<近>情報ではなく、自己のなわ張りに属するものとは見なされない。そして、聞き手も同様であるので、この情報は両者にとってなわ張り外の情報である。このように情報が話し手、聞き手の両者にとってなわ張りの外にある場合がDである。例（100a）のように間接形で表現されるのが自然である。例（100b）も話し手、聞き手共に「吉田君が既に退院した」という情報をなわ張り外の情報として認識している場合を表している。

#### 4.2.3 私的領域について

鈴木（1997）は、文体練習を行う時と運用練習（ロールプレイ）を行う時に日本語学習者がよく間違える誤用として、文体練習の際には全く問題がなかった文章が、場面や人間関係などが導入される運用練習では不自然な会話になり得ることを指摘した。

次の例を見ながら、その誤用を見ていこう。

(101) 山田さん、これあげます。

(102) 山下さん、これさしあげます。

(103) a. 妹：お姉さん、誕生日おめでとう。これ、あげる。

b. 姉：ありがとう。

(104) 【留学生のジルさんと大家の田中さんの会話】

ジル：田中さん、先週博多に行きましたので、このおみやげをあげます。

田中：いつもすみませんねえ。どうもありがとう。

例（101）、（102）は日本語学習者が文体練習を行う場合の例文であり、構造や規則を学ぶことが目的なので「（動作主）が（動作の対象）に（何か）をあげる/くれる」の構造を習得することが優先される。「あげる」と「くれる」の区別がない言語が多いため、動作主と動作の対象に何が入るかによって「あげる」と「くれる」の中でどちらを選ぶかという練習を文体練習で行う。また、文法に焦点を当てるため、丁寧さの問題に関しては大きな混乱は起きない。

しかし、ロールプレイなど場面が入ってくるといつも正しいわけではなく、例

(103) のように自然にもなり、例 (104) のように不適切にもなり得る。例 (104) でジルが田中さんに対して文末を「さしあげます」に変えても、不自然である。

鈴木 (1997) は、このような誤用が生じる理由を文体練習では問題なく、運用練習では丁寧体世界と普通体世界の違いが現れるのは、文体練習で行われる言語行動と、贈答場面を取りあげた運用練習で行われる言語行動との種類が異なるからであると述べている。

鈴木 (1997) による普通体世界と丁寧体世界について述べてみると、ここで大事なことは、「何を言うべきか、言うべきでないか」である。

普通体世界と丁寧体世界が典型的に表れる場面はやはり、贈答場面でありその例から二つの世界における特徴を見てみると、

▶ 丁寧体世界における贈答場面 (運用練習)

丁寧体世界における典型的な贈答場面では上下関係があり、個人的にそれほど親しくない相手に対して、お中元やお歳暮・あいさつやお礼の印に贈り物をするような場面である。

(105) 先日は大変お世話になりました、ありがとうございます。これはつまらないものですが、お礼の印にと思ひまして・・・

(106) 今後ともよろしくお願ひ致します。これほんのご挨拶がわりにと思ひまして…。お口に合いますかどうか…。

(107) A: はじめまして。お隣に引っ越してきた吉田と申します。

B: あ、これはこれは。山下です。

A: あの、形ばかりですが、これ。



B: いや、どうも、ご丁寧に。

(108) A: 先週出張で博多に行ったんですけど、これ、お菓子なんですが。

B: いや、いつもすみません。

(鈴木1997 : 54)

典型的になればなるほど、「つまらないものですが」「お礼の印に」「ご挨拶がわりに」「お口にあいますかどうか」「形ばかりですが」といった定型表現が多くなるが、(105)～(108)の例は、いずれも「お世話になったこと」「引っ越してきたこと」「博多に行ったこと」など、贈答の理由として、話し手自身に関することから述べられている。他に「これ、お土産です」のように、話し手にも聞き手にも属さない、客観的な事実が述べられることが多い。

▶ 普通体世界における贈答場面（運用練習）

普通体世界における典型的な贈答場面の一つは、親しい友達同士や家族間の個人的な生活の場面で贈り物をするような場合である。

(109) 誕生日おめでとう。

(110) はい、これ誕生日のプレゼント。

(111) 誕生日おめでとう。これ、あげる。

(112) はい、これ、ほしかった本。

(113) あなたが好きそうな色だったから買ってきたの。

(114) 前から、ほしがっていたCD持ってきたよ。

(115) きっと似合うと思って。

普通体世界では、硬い定型表現を除けば、丁寧体世界で使われる内容がそのまま問題なく使える。また、(109)～(115)のように聞き手の好みや欲求などに関する内容が、話し手が聞き手のことを気にかけていたことを示す好意の率直な表現としてそのまま使われる。

贈答場面(運用練習)では、贈答する理由やどんな種類の贈答なのかなどが述べられることが多い。(a)と(b)を比較して「何を言うべきか、言うべきではないか」を考えると、その内容は話し手と聞き手のどちらに近いか、つまりどちらの領域に属しているかで以下の三つに分けることができる。

i. 話し手の領域に属する内容

(116) 出張で博多へ行きましたので

(117) これ、博多で買ったんですが

(118) 珍しいものが手に入りましたので

ii. 話し手の領域にも聞き手の領域にも属さない中立の領域の内容

(119) これ、お土産です。

(120) これ、お菓子なんですが、

(121) 珍しいものを売ってましたので

iii. 聞き手の欲求や個人的な好みなど聞き手の領域に属する内容

(122) はい、これほしかった本

(123) あなたが好きそうな色だったから買ってきたわ。

(124) 前から、ほしがってたCD持ってきたよ。

(125) きっと似合うと思って。

丁寧体世界では、話し手は聞き手との間に一線を引いて、話し手側のことと聞き手側のことをはっきりと分けることが基本となっている。典型的な丁寧体世界の贈答場面（運用練習）において話される内容は、話し手の領域と中立の領域に限られ、聞き手の領域に言及することが注意深く回避される。普通体世界においてはこのような制限はなく、親しさや好意を表す表現として、聞き手の領域に踏み込んだ内容もよく使われる。

以上、丁寧体世界と普通体世界について整理を行い、丁寧体世界は聞き手の領域に言及することが注意深く回避されることが特徴である。続いて、普通体世界においては聞き手の領域に踏み込んだ内容を言及するのに制限なく、用いられることが特徴である。

普通体世界において聞き手の領域に立ち入る発話をする際、最も制限が強い領域を「私的領域」と呼び、その「私的領域」について引き続き検討を行おう。

▶ <聞き手の私的領域>とは？

鈴木（1997）によると、<聞き手の領域>には、聞き手の行動・聞き手に所属する物や聞き手と近い関係にある人、情報など、聞き手にかかわる全ての事柄が含まれている。その中で、一番制限の強いのは、聞き手の欲求・願望・意志・能力・感情・感覚など個人のアイデンティティーに深くかかわる、<聞き手の私的領域>である。また、<聞き手の私的領域>に踏み込んだ発話は丁寧さという点からいずれも不適切な発話となる。

#### 4.2.3.1 <聞き手の私的領域>に踏み込んだ発話となる場合

- a. 聞き手の欲求・願望に関するもの  
(126) 社長、コーヒー召し上がりたいですか。
- b. 聞き手の感情・心理状態・感覚に関するもの  
(127) うれしいですか。  
(128) 何かありましたか。
- c. 聞き手の意志決定に関するもの  
(129) 夏休みは何をしようと思っていますか。
- d. 聞き手の能力・行為の実現可能に関するもの  
(130) テニスおできになりますか。

日本語の場合、「～たい」「～がほしい」や感情形容詞の人称制限は、普通体においても丁寧体においても適用される強い制限である。しかし、丁寧体世界においては、文のレベルでは正しいとされる「たい」や「ほしい」を使った二人称に対する疑問文も例(126)～(130)のように、<聞き手の私的領域>に踏み込んだ不適切な発話となる。

### 4.3 「なわ張り・私的領域の理論」による分析

#### 4.3.1 日本語の場合

日本語の敬語使用で最も重視されている概念は「ウチとソト」、つまり領域に関わることである。

- (131) a. 田中部長いらっしゃいますか。

b. 只今、田中は席を外しております。

例（131）は日本の会社で日常的に行われている場面である。社外の人に電話があつて田中さんに対して聞かれた場合、bは田中さんが自分より上司であってもウチの扱いをとり、aの前で上司であるbのことを高めることはしない。

#### 4.3.2 韓国語から見たなわ張り・私的領域の理論の有効性

韓国のバラエティー番組「미운 우리 새끼」を日本人の友達と一緒に視聴した時に、日本人の友達からある質問を聞かれたことがある<sup>13</sup>。その質問は、なぜ韓国では、買い物した後、お店を出るとき店員さんに「많이 파세요」と挨拶をするのかである。

韓国では頻繁に使う社交辞令を日本語にそのまま直訳すると日本人にとってはかなり違和感を覚える文章になってしまうことがある。筆者はそれに着目し、日本語と韓国語における社交辞令についてアンケート調査を行うことにした。さらに日本語のなわ張り・私的領域の理論を用いた解釈をして理解を深めていきたいと思う。

韓国語話者と日本語話者が同じ場面設定の上で、どのような発話行為を行うかについてアンケート調査を行い、そしてそこから出た結果に基づいて日本語と韓国語における形式的な挨拶の特徴を明らかにすることを目的とする。

研究方法としては、まずベースとなる韓国語話者30人(ソウル在住、20代から30代の男性10人と女性20人)にアンケート調査を行った後、韓国語話者にとったアンケートの結果に基づいて日本語話者30人(関西地方在住、20代から30代の男性10人と女性20人)にアンケート調査を行うことにする。

---

<sup>13</sup> 2018年12月30日に放送された「미운 우리 새끼」の第119話

#### 4.3.2.1 アンケートの結果と共に

まず、調査を行った結果から見てみよう。

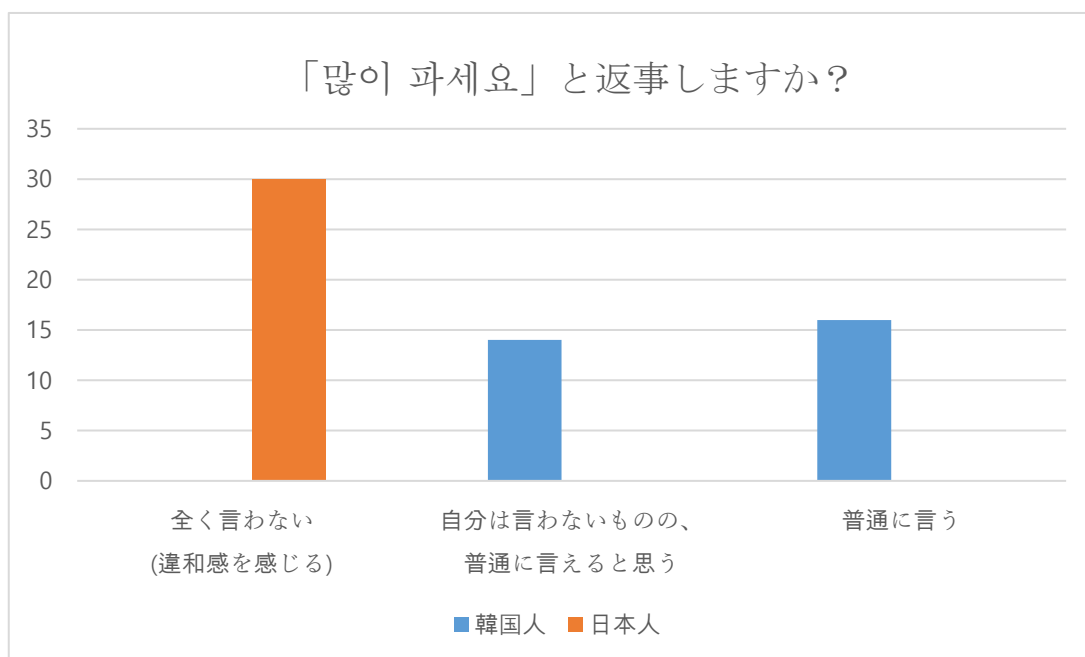


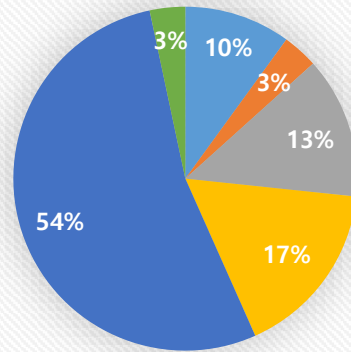
表3 「많이 파세요」 と「たくさん売ってください」

<表3>のように、韓国語話者は店員の発話に引き続き「많이 파세요」と普通に言うた人16人と自分は言わないが普通に言えると思うと答えた人14人、合わせて30人全員が「많이 파세요」に対しての違和感を持っていなかった。

それに対して、日本人は同様の場面で「많이 파세요」、直訳すれば「たくさん売ってください」に対してアンケート調査を行った人全員が全く言わない（相当違和感を覚える）に丸をした。

## 実際どう答えますか？

### < 韓国人 >

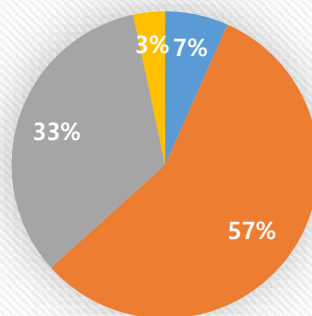


■ 無視する ■ はい/はい~ ■ また来ます ■ 수고하세요 ■ 많이 파세요 ■ 안녕히 계세요

表4 韓国人の回答

## 実際どう答えますか？

### < 日本人 >



■ 無視する ■ えしゃく ■ ありがとう ■ また来ます

表5 日本人の回答

続いて、場面を想像しながら自由に自分なりの答えを書くようにした<表4>と<表5>の調査では、韓国語話者は比較的 to 多様な答えを得ることができ、また興味深い結果として「無視する」と答えた3人はすべて男性であった。

一方、日本語話者は男女の差が出ておらず、「無視する」か、軽く「えしゃく」または「ありがとう」と相手の領域に立ち入らない言語行動をしており、韓国語話者に比べ、比較的 to 消極的な行動を取る人々が過半数を超えた。

#### 4.3.3 日韓両言語におけるなわ張り・私的領域の理論の扱い

なぜ上記のような結果が出たのかを先行研究と共に考察してみたい。

伝統的に日本社会は「親しき中にも礼儀あり」と言われるほど、人間関係の間で距離を置き、出来るだけ相手に負担をかけそうな発話は避ける傾向がある。それに沿って<表3>で行った調査は、「많이 파세요」をそのまま直訳し、「たくさん売ってください」でアンケート調査を行ったため、日本人からすると上から目線で話すようなニュアンスがあるとか、相手にプレッシャーを与えることになってしまうという感想があった。鈴木（1997）による<聞き手の私的領域>に踏み込んだ発話は敬語を用いても丁寧さという点からいずれも不適切な発話となると指摘している。

しかし、韓国語話者に行った調査では、日本語話者より多様な回答があり、語用論的な観点から見ても積極的な表現が多いと考えられる。(많이 파세요, 또 올게요など)

そして、鈴木（1997）に書かれている<聞き手の私的領域>に踏み込んだ発話となる場合の例文である（126）から（130）をそのまま訳して韓国語話者に目上の人に対して言えるかを質問した結果、



- 사장님 커피 드시겠어요?
- 기쁜 일 있으세요?
- 무슨 일 있으세요?
- 여름 휴가 때 뭐 하실 생각이세요?
- 테니스 치실 줄 아세요?

いづれも敬語も用いて目上の人に対して丁寧に尋ねているため、問題ないと考えるという回答が圧倒的であった。

なぜこういう様子が見られているか見受けられるかは井出（1999:49）に書いてあることを以下に引用する。

韓国社会ではたとえ相手が目上でも、自分の考えははっきりと伝えることにプラスの価値観がおかれている。そのため韓国人は、実にオープンに自分の感想や感情を言葉にしていくことがある。

日本語で目上の人に「疲れて見えます」などと言えば、相手の領域に侵入するとなり、礼儀に反することになるだろう。しかし、韓国では上下関係にそれほど大差がなければ、こうした率直な発話は必ずしも失礼にはあたらない。むしろ相手への関心を示す積極的な姿勢は、親しみを表わし、コミュニケーションを円滑にするとされている。

従来、韓国語における待遇表現は距離の観点から研究されたものが多く、相手に対する話し手の心的距離が重視されている。しかし、類似している日本語の研究から生まれた「領域」の概念を韓国語における待遇表現を解釈する際、取り入れるこ

とによって今まで距離の観点からでは見えなかった特徴を明らかにすることができるでしょう。

次は、日本語研究から生まれたわきまえ理論から日本語と共に韓国語における待遇表現を検討しよう。

#### 4.4 「わきまえ理論」の概要

「ポライトネス理論」は相手に働きかけて話し手の意志を伝達したり、距離を縮めたりするストラテジーシステムである。敬語においては、ネガティブ・ポライトネスの一つのストラテジーとして挙げられていて、敬語を持っていない言語圏で作られた理論だという根拠にもなれるだろう。こうした「ポライトネス理論」は、敬語が日常生活に密着している日本語には欠けていると感じた井出（2006）は日本語における敬語を説明するに相応しい「わきまえ理論」を提唱した。

井出（2006）はあいさつでさえ存在する日本の敬語をたった一つのポライトネス理論のストラテジーとして挙げていることは望ましくないと考え、日本の敬語を説明するため「わきまえ理論」を唱えた。井出による「ポライトネス理論」の問題点というのは、敬語がネガティブ・ポライトネス・ストラテジーの中の5番目のストラテジーとして扱われていることである。敬語は、日常の言語行動の中で最も基本的なポライトネスの問題としている日本人母語話者にとり、10もあるネガティブ・ポライトネスのうちの一つとしてしか考えないのは、どう考えも腑に落ちない。また、敬語は話し手の意志を伝える際のストラテジーという感覚は、敬語本来の使用意識とも合わない。

(132) 今日は雨だ。

(133) 今日は雨です。

普段無意識に例(132)と(133)を使い分ける敬語使用は、相手や場面に応じて自動的にセットされる。このような敬語、中でも丁寧語の使い分けをストラテジーと考えることは日本人母語話者には納得がいかないと井出(2006)は述べている。

ブラウン&レビンソンの「ポライトネス理論」の第一の問題点は、話すということが話し手の意思により相手に働きかけて話すものに限られているという点である。実際「今日は雨」のように話し手の意思抜きの命題内容を伝えるものにも、日本語では敬語が関わっている。命題内容を言うにも、コンテキストを無視することはできず「です」を使うか否かの選択を義務的に行わなければならないのが日本語の語用論の基本的な決まりである。これは相手に働きかけるのではなく、場をわかまえるためのポライトネスの配慮であると考えられる。

ブラウン&レビンソンの枠組みのもう一つの問題点は、形式的言語形式によるポライトネスの表現に関するものである。敬語は、敬語そのものにポライトの意味があるわけでもなく、ストラテジーとして働くわけでもない。敬語を使うことが期待されているところで、たとえばあらたまった場面やソトの人間関係で「です」・「ます」を使うことで、自分の位置や場面がどういうものかを正しく認識していることを示す、つまり指標することになり、それがわかまえているという振る舞いになるのであり、それがポライトネスとなるのである。

▶ 「わかまえ」とは？

井出(2006)によれば、わかまえとは自分のフェイス、または相手のフェイスに対してポジティブ・ポライトネスあるいはネガティブ・ポライトネスのス

トラテジーを使って相手に働きかけて話し手の意志によるポライトネスではなく、こういう場ではこのようにするものだという社会的に共通に認識されているものに従って使わねばならないものであると述べている。

## 4.5 「わきまえ理論」による分析

### 4.5.1 日本語の場合

(134) おはようございます。<sup>14</sup>

(135) それでは僭越せんえつですが……

(136) 恐れ入りますが、

わきまへの言語使用の代表的な例としては、あいさつや決まり文句、そして敬語を挙げることができる。

井出(2006)によれば、例(134)は、朝の出会いのあいさつで、その場が求めていけば期待されるままに言うものであり、そうすることがポライトネスに資することになる。そして、例(135)は会議の時に話を始めるときに言う決まり文句である。これも自分の言いたいことを言う時に周囲の状況を配慮して、自分の置かれた位置がその場において必ずしも優れているものではないことを認識しているというわきまを示す時に使われるものであると述べている。最後の例(136)も上記のように改まった表現であり、これも言いたいことを話す前に「前置き」して言うことば遣いである。

敬語、あいさつ、決まり文句などはそのような言語形式を使うことそのものがコ

---

<sup>14</sup> 例(134)と(135)は井出(2006)から引用したものであり、例(136)は筆者が挙げた例文である。

ンテクストを配慮した言語行動ということになり、それがポライトな言語使用となる。

井出（2006）は「わきまえ」とは自分のフェイス、または相手のフェイスに対してポジティブ・ポライトネスあるいはネガティブ・ポライトネスのストラテジーを使って相手に働きかけて話し手の意志によるポライトネスではなく、こういう場ではこのようにするものだという社会的に共通に認識されているものに従って使わねばならないものであると指摘している。

#### 4.5.2 韓国語から見たわきまえ理論の有効性

井出（2006:110）に書いてある自然発話をそのまま以下に引用して、わきまえ理論の観点からはどのような解釈をしているのかを見た後、その自然発話を韓国語で訳し韓国語でも考察してみよう。

(137) 【大学の先生Tと大学生Sという上下関係があり初対面のペアが共同で、

絵カードの並べかえをしてお話を作っている会話】

先生（T1）： て、じゃ、これも、どこかに入れましょうか

学生（S1）： はい

先生（T2）： ちょっと顔つきが、違いますけど

学生（S2）： んー

先生（T3）： えーっと、歩いて行って、えーっとですね

学生（S3）： あなんか

先生（T4）： うん

学生（S4）： ちょっと思いついたんですけど

先生 (T5) : うん

学生 (S5) : 最初、棒を見つけて

先生 (T6) : うん

学生 (S6) : なんだこれ、使えないなあ、って思ってたら

先生 (T7) : うんうん

学生 (S7) : こう崖にさしかかって

先生 (T8) : うん

学生 (S8) : あ、あの棒使えるってひらめいたとか

先生 (T9) : ああそうですね

学生 (S9) : そういうのはどうですか

(井出2006:110)

例(137)は上下関係がはっきりした先生と学生の間で行われる発話であるため、社会のわきまえ、つまり敬語に従って話されている。しかし、途中のT5からS8までは「です・ます」が使われていない。

T5からT8まで先生は「うん」とくだけた言葉を使っている。これはS1で「はい」を使って上下関係を指標しているのと対照的である。先生が「うん」を使うのに誘発され学生の方も敬語の使用をしなくなる。かくして、四角で囲まれた部分の会話はソトの関係であるという会話のコンテキストが何か別のものになっている。その変わり方とは、対話者は共同作業者としてソトの関係であることをほんの少しの間忘れて、盛り上がりの雰囲気を作っている。話に夢中になっている時、すなわち、話の内容に焦点がある時は話の舞台が話し手のいる場より一段上がったところのものになり、場面のわきまを気にする必要がなくなる。年齢差、初対面など心理的

距離を大きく取らねばならない社会言語学的要素を指標せよというルールから解放された談話は新しい有標の意味を創造する。このようなルールが同じ言語共同体の人々に分け持たれている共通認識、つまりわきまえになっているからこそ、それから逸脱した時にはそれなりの意味が創りだされる。

したがって、話し手はそれぞれ場において諸要素を勘案してその瞬間に最も場と組み合わせが良いと思われている、つまり言語共同体で共有されている言語使用の共通認識の範囲から任意の一つの表現を選ぶわきまえに応じた敬語使用を行う。

(井出2006)

次は、例(137)を韓国語に訳し韓国語にもわきまえ理論が適用できるかを考察してみたい。

(138) 【大学の先生Tと大学生Sという上下関係があり初対面のペアが共同で、  
絵カードの並べかえをしてお話を作っている会話】

—韓国語バージョン—

先生 (T1) : 자, 이것도, 어딘가에 넣어볼까요?

学生 (S1) : 네

先生 (T2) : 생긴 게 조금 다릅니다만...

学生 (S2) : 아...

先生 (T3) : 음... 걸어가서, 어떻게 할까요...

学生 (S3) : 저기

先生 (T4) : 응

学生 (S4) : 괜찮은 생각이 떠올랐는데요

先生 (T5) : 응
-------------

学生 (S5) : 맨 처음 봉을 발견하고

先生 (T6) : 응

学生 (S6) : 뭔가 이거 못 쓰겠다고 생각했는데

先生 (T7) : 응응

学生 (S7) : 이런 벼랑에 다다라서

先生 (T8) : 응

学生 (S8) : 아, 이 봉을 쓸 수 있겠구나 라는 생각이 들었는데

先生 (T9) : 아~그렇네요

学生 (S9) : 그렇게 해보면 어떨까요<sup>15</sup>

(筆者訳)

韓国語の場合にも先生と学生の関係だと、通常敬語を用いて(特に学生のほう)会話を続けることが一般的であるが、このような流れでは一部容認されると考えられる。その根拠として、韓国語話者から得られたアンケート調査の結果、話が盛り上がって夢中になり、先生と学生が一部で敬語抜きでコミュニケーションが取れることに対して、あり得ると答えたひとが半分を超えたのである。

また、初対面の発話であるため距離を縮めようとするポライトネス理論のストラテジーを用いた説明よりは、その場で瞬間に敬語使用を選択して話すというわきまえ的な解釈がより分かりやすいかも知れない。

日常会話で行われている言語使用をわきまえ理論の観点から考察してみたいと思い、韓国のドラマの台本から例文を挙げてみることにする。

例(139)で取りあげた台本は『미생 (ミセン)』というドラマで2014年に放送さ

<sup>15</sup> 例(138)は、例(137)をもとにして筆者が韓国語で訳したものである。



れ、商社に入社した同期の仲間が派閥、出世欲の中でもまれ<sup>せつきたくま</sup>切磋琢磨して成長して  
いくものである。

(139) 부장실／오후 (部長室／午後)

【場面設定：보고 서류 들고 들어오는 상식, 김부장이 전화 하고 있는 걸 보  
곤 잠시 멈춰 선다】

<sup>김</sup>부장 (K1) : (웃으며) 어~ 최이사 덕분에 지난 번 라운딩 아주 좋았어.  
그러엄. 그래. 또 부탁해. (힐끔 보고) 그래. 연락하자고. (전  
화 끊으면)

<sup>상</sup>식 (S1) : (서류 내밀면)

<sup>김</sup>부장 (K2) : (대충 훑으며) 잘 돼 가지? 새 아이템 진행.

<sup>상</sup>식 (S1) : 네. 별 문제 없습니다.

<sup>김</sup>부장 (K3) : 이번 주 일요일엔 뭐하나.

<sup>상</sup>식 (S3) : 별 거 없습니다만.

<sup>김</sup>부장 (K4) : 산에나 가지. 전무님도 오실 건데.

【場面設定：報告書類を持って部長室に入るサンシク、キム部長が電話している  
ことを見て待っていた】

김부장 : (笑いながら) あ~崔理事のおかげでこないだのラウンディング  
本当に良かったな。うん、じゃあ、よろしく。(サンシクをチラッ  
とみて) また、連絡しよう。(電話を切って)

サンシク： （書類を見せる）

キム部長： （適当に見ておいて）うまく進んでいる？新しいアイテム進行。

サンシク： はい、問題ありません。

キム部長： 今週の日曜日、予定ある？

サンシク： 特にありませんが……

キム部長： 登山行こう。専務様もいらっしゃるから。

例（139）の台本から見た韓国語の敬語使用は、絶対敬語法が用いられ、上下関係が明確になっている会社内での場面である。そこで、今回は日本語から生まれたわきまえ理論を用いて韓国語の発話運用について解釈してみたい。

例（139）で登場する人物はキム部長、その部下サンシク、キム部長が電話で名前を挙げた崔理事、そしてキム部長の上司である「専務様」である。

まず、キム部長（K1）が電話しながら話し全体を通して、敬語抜きで「崔理事」（社外の人）のことを上から目線で発話していることが分かる。その理由としては自分の勤めている商社との取引先の人（「崔理事」）であるが、自分の勤めている商社が上の立場を占めていることを暗黙的に表し、社会的地位は部長であっても「崔理事」よりキム部長自身が上を占めているからである。この時キム部長は場面のわきまえを気にする必要がないと判断し、敬語を用いていない。もしキム部長がこの場で、周りを気にした言葉使いを用いると仮定すれば、以下のようなになるだろう。

김부장(K1) (웃으며) 네~ 최이사님 덕분에 지난 번 라운딩 아주 좋았습니  
다. 그럼요. 그래요. 또 부탁드립니다. (힐끔 보고) 그래요. 또

연락하시죠. (전화 끊으면)

キム部長： (笑いながら) はい～崔理事様のおかげさまでこないだのラウンディング本当に良かったです。はいはい、それでは、よろしく願いします。(サンシクをチラッとみて)。又、ご連絡致します。  
(電話を切って)

そして、キム部長とサンシクの間(社内同僚)には上下関係がはっきりと存在しているのです。サンシクがキム部長に対して場面のわきまえをとって、談話全体を通して敬語使用を行っている。

最後に、キム部長(K4)が日曜の専務との登山にサンシクを誘う発話ではその場にはいない専務に対し「いらっしゃる・来られる」など尊敬語プラス呼称「専務」の後ろに「様」をつけて話すことが分かる。その理由としてはキム部長とサンシクの間には共通認識として「専務」が二人の上司であることからキム部長が場のわきまえを取っている。

例(139)で興味深い発話は、「キム部長」が韓国語の(K1)と(K4)でそれぞれ取った言語行動である。通常韓国語は絶対敬語法で話すという原則からずれていて、日本語の「わきまえの語用論」で説明をするほうが分かりやすいだろう。

#### 4.5.3 日韓両言語におけるわきまえ理論の扱い

井出(2006)は日米の思考習慣について述べ、西欧人はポライトとフレンドリーが同じカテゴリーにあるため、フレンドリーにすることがポライトであるはずだと述べている。言い換えれば、アメリカ人はポライトであることとフレンドリーであることが一緒に考えられていて、それが良い行動の表現方法となっている。しかし、

日本ではフレンドリーであることをたとえば目上の人、あまり知らない人に示すのは「馴れ馴れしい」ということになってしまうので良いことだと思わない。

しかし、「丁寧な」と「親しげな」は異なる概念ではあるが、同時に起こることは可能である。つまり共存するのが普通のことである。敬語は、話し手が聞き手に対して距離をとるために使うものと言われるが、それと同時に終助詞が使えるのである。終助詞は、話し手と聞き手の距離を短くする機能を持っている。距離を大きくする敬語と少なくする終助詞が同じ発話で共存する。

(140) 先生、明日テストですよね。

(141) 先生、これをお忘れですよ。

例(140)では、「です」とまず丁寧語を使って距離のある表現で言い、その後で「よね」という距離を縮める終助詞を使って丁寧語で大きくとった距離を縮めることができる。

また、例(141)のように「お忘れです」と敬語を使った後に終助詞「よ」を使って距離を縮めることも同時にできる。これは「丁寧な」と「親しげな」が異なる次元だが、反対の次元ではないからこそ共存できるのである。これらは、敬語と終助詞という言語装置のお陰で可能となる言語表現である。

井出(2006)は、西欧から生まれたBrown&Levinsonの「ポライトネス理論」が日本語の敬語に当てはまらないという考えを持っている。日本語はソトの人間に対してウチの人間とは違った行動をとったりして相手と場面に応じて相対的に言語使用を行うため、「わきまえ」という用語のほうがふさわしいと井出は主張している。

日本語と韓国語のように敬語体系を持っている言語では、単にネガティブ・ポラ

イトネスの一つとして敬語を扱っていることについては深い敬語の世界を説明する  
のに難しい部分があると考えられる。

## 第5章 敬語使用における相対敬語・絶対敬語

### 5.1 二人称の主体敬語

この節では、話し手と聞き手という二人の間で行われる場面設定をしており、実例の具体的な観察を通して、日本語母語話者と韓国語母語話者における異なる言語行動を見ていく。

まず、自然発話と類似したドラマの台本から「話し手―聞き手」の実例を踏まえた上で、日本語と韓国語における特徴を述べる。

#### 5.1.1 日韓両言語の実例

(142) 大(息子) : やったよ。お父さん。もう大丈夫だよ。

父親 : ありがとうな、ありがとうな、大。

(『あいのうた』第9話)

(143) 娘 : おとうさんがおそくなるなんて珍しいでしょ。

お父さん : なに喜んでんの。

娘 : だって、おとうさん真面目すぎじゃないの。毎日きちんきちんと

会社に行って、きちんきちんと帰ってきて、家まで買っちゃって。

お父さん : ひと事みたい。

(映画『Shall We ダンス』)

日本語の場合、普段家庭内で家族構成員が対話をする場面では敬語使用がなかなか見当たらない。もし敬語が用いられる場合は、「お帰りなさい」、「いってらっ

しゃい」などの決まった挨拶表現や「でしょう」など文末を一部変える程度である。

(144) 奈央子： もしもし、お母さん、話って何？

母： 電話で済む話じゃないわ。奈央子、自分でも心当たりがあるでしょう。

奈央子： わかった。

母： じゃあ、やっぱりこの手紙に書いてあることは全部本当なのね。

奈央子： お母さん、今あの、わたし会社だから、あとで。

(『アネゴ』第9話)

韓国語の場合は、家庭内で子どもが両親に対して敬語を用いることが一般的であるし、儒教の影響で特に父親と祖父母に対しての敬語使用頻度が高い。具体的に言えば、家庭内で自分より目上の人に対しては親しいか否かは別にして用言を敬語にし、さらに話者の判断で文末まで敬語法を用いることが普通である。父親には「ご飯召し上がりましたか」と伺うとすれば、母親には心的距離が近いことから「ご飯召し上がった」と用言のみを敬語にすることも可能である。

(145) 윤정： 아빠 오셨어요?

(お父さん、お帰りになったんですか。)

아버지： 어 그래. 아아 근데, 윤희 이 시간에 어딜 가는거야?

(うん。ところで、ユンフはこんな時間にどこに行くんだ。)

(『열아홉 순정』第69話)

日本語の場合、学校内で先生と生徒の間で行われる発話をデータから見れば、かなり自由にお互いに言葉遣いを行うことがわかる。先生は学生に対して丁寧体を使うものの一般的には非丁寧体で済ませる。一方、学生は基本的に先生に対して、丁寧体で話すが、親しい関係だと非丁寧体で話すこともある。

(146) 杉田 (高校生) : なんで教師になったの？

秀雄 (教師) : 僕ですか。

杉田 : うん、子供の頃の夢だったとか？

秀雄 : いや、そんなわけじゃ…。

(『僕の生きる道』第1話)

(147) 栞 (高校生) : 先生、進路のことで相談があるんですけど…。

久保 (教師) : …あの、な、僕たちにいくら相談したって自分が勉強しなきゃ行きたい大学には行けないんだぞ。

栞 : もういいです。

(『僕の生きる道』第2話)

しかし、生徒が学生に対して非丁寧体を用い、親しみを表すことは見られるが、例 (148) のように先輩に対しては丁寧体を用いて話す傾向が強い。

(148) 川本 (先輩) : いい試合だったな。きっとレギュラー間違いないんだ。

池内 (後輩) : そんなに甘くはないと思いますけど。

(『1リットルの涙』第2話)



韓国語の場合、学校内での敬語使用は家庭内と同様で生徒が先生に対しての敬語使用率が高いと見られる。基本的に先生は学生に向かって非丁寧体を用いて話しており、学生は先生に対して、丁寧体を用いて話すことが一般的である。

(149) 선생님: 자, 오늘 우리 반에 전학생이 한 명 생겼다. 들어와. 서울 과학고, 과학고에서 왔단다. 이름이?

じゃあ、今日からうちのクラスに転入生が一人入ったぞ。入って。…ソウル科学高等、科学高等から来たそうだ。名前は？

준상: 강준상입니다.

カン・ジュンサンです。

선생님: 그래. 준상이. 애들아 사이 좋게 지내야 한다. 그런 의미로 우리 다 같이 환영의 박수.

そうか、ジュンサン、お前たち仲良く過ごすように。そういう意味でみんな一緒に歓迎の拍手。

(『겨울연가』第1話)

また例 (146) のように、韓国語では学生が先生とどれほどの親しさを保っていて、その内容が私的な場合であっても敬語抜きが発話は容認できない。

(150) 남학생 (男子学生): 남자학 강의하는 거예요. 선생님 경험 없으시잖아요. 선 보는 남자.

男子学の講義のことですけど。先生経験ないんじゃないですか。お見合いする男。

다현 (女子先生) : 아유, 이것들이 못하는 소리가 없어.

言いたい放題なんだから。

남학생 (男子学生) : 걱정이 돼서 그렇지요. 우리가. 선생님이 위

낙 순진 하시니까.

心配になって言ってるんですよ。僕らが。先

生なにしろ純真でいらっしゃるから。

(『1%의 어떤 것』 第1話)

日本語の場合、会社内で行われる言語行動は基本目下の人が上司に対して丁寧体を用いることが原則である。そして、例文では挙げていないが男性の上司は目下の部下に対して、敬語抜き言語行動を取ることが見られる。

(151) 宮沢 (社員) : あ、社長、取締役会は終わったんですか？あの、明日のパーティーの進行なんですけど、ちょっと変更がありました。

島男 (社長) : もう必要なくなりました。

(『恋に落ちたら』 第9話)

(152) 神谷 (重役) : 社長。

島男 (社長) : 为什么呢。

神谷 : これでロイド側の取締役が3分の2を超えました。

島男 : 神谷さん、心配要りませんよ。彼らは敵ではありませんし、利害も一致しています。

神谷 : そうですが。

(『恋に落ちたら』第9話)

韓国語の場合も会社内で行われる一対一の場面では、基本目下の人が目上の人に丁寧体を用いて発話し、この点では日本語と一致する。しかし、韓国語は文末体を待遇するだけではなく、用言も同時に尊敬語（「召し上がる」、「お帰りになる」など）を用いることが特徴である。その例が下の(153)に当たる。

(153) 춘애 (部下) : 팀장님 점심하셔야죠?

(チーフ、お昼召し上がりませんか)

나라 : 생각없어요.

(食べたくないんですよ)

(『불꽃놀이』第15話)

### 5.1.2 その分析

「話し手—聞き手」という二者関係の場面で、まず日本語は家庭内の敬語使用があまり見られていない。挨拶や前置きなど決まり文句、そして強調したい部分に敢えて敬語を用いることに限られる。

従って、韓国の家庭における敬語使用は、基本的に礼儀の問題であるため、上下関係に従って上の世代に対して敬語を使うのである。ただし、例外として母親などの甘えられる対象は除く。日本語においては家族同士の言葉遣いにはほとんど敬語が使われないが、韓国語では親子関係以外にも世代の差が重んじられ、礼儀に基づいた敬語の使い方が行われる。例えば、結婚して新たな人間関係が形成されると「嫁—姑」の関係などで差が見られる。

最後に日韓両言語における学校内と会社内での敬語使用は、聞き手が話し手より目上である場合は基本敬語を用いて話を続けることが普通である。

## 5.2 三人称の主体敬語

### 5.2.1 日韓両言語の実例

この節では、様々な場面で話題の人物を話し手と聞き手がどのような扱いをしているかを見たいと思う。

(154) 姉： お父ちゃん、何時に帰ってくる？

妹： 今日遅くなるみたい。

(155) 娘： 父ちゃんがね、バレエでも、ピアノでもいって言うんだけど、スイミングスクールでいって言ったの。都営だから、安いし。

友達： 偉いね！気を使ってるのね。

娘： 違う違う。家計は私が握ってるから、無駄遣いは意味ないもん。

(『薔薇のない花屋』第2話)

(156) 英治（父親）： 同情……そんなんじゃないんだ

彼女さ、花のように笑うと思わない？

<sup>しずく</sup>雫（娘）： お花？母ちゃんもそうだった？

英治： うん、雫のお母さんもそうだったね

<sup>しずく</sup>雫： やっぱり

英治： 俺さ、花のように笑う人が好きなんだ

花が咲くように笑う…

(『薔薇のない花屋』第2話)

上記は日本語の例であり、話し手が話題の人物（話し手より目上である家族関係）について聞き手と話すとき、敬語抜きで話していることがわかる。

(157) 애야, 아버지 진지 잡수시라고 해. (母親→子ども)

(お父さんにご飯召し上がりなさいと言って。)

(158) 영수야 너희 아버지 회사에 나가셨니? (友達同士)

(ヨンス、君のお父さん会社に出かけられたの?)

韓 (2015)

韓国語の場合、自分の家族に対しても他の家族に対しても両方話題の人物を高める言語行動を取っている。例 (157) でお父さんに対して「召し上がる」を用いて尊敬の気持ちを表し、例 (158) では、友達のお父さんに対して「出かけられる」という尊敬語を用いて敬意を示している。

(159) でも高野部長は結婚されて、奥様と二人暮らしなさっているんですよね? 都内の高級マンションで優雅な暮らしをなさっているってききますけど。

(『ホタルノヒカリ』第1話)

例 (159) では、会社の同僚の間で高野部長（話題の人物）について語っている日本語の例である。「結婚される」、「なさる」などを用いて目上である高野部長を待遇している。

(160) 동식 : … (끊고 올리는 전화 얼른 받고) 감사합니다. 원인터.. 아!  
차장님! 어제 잘 들어 가셨습니까?! 아휴~ 전 끄떡 없죠. .  
오과장님이요? 내일 들어오세요.

(電話に出て) ありがとうございます、ワンウインターの、  
あ！次長様！昨日無事にお帰りになりましたか。まあ、僕は  
平気です。

オ課長様ですか？ 明日お戻りになります。

(『미생』第1話)

例(160)は韓国語の例であり、話し手が自分より職位の高い次長に対して、尊敬語(들어 가지다 お帰りになる)を用いて対話をしており、対話の中に出ているオ課長(들어 오시다 話題の人物)に対しても尊敬語が用いられている。言い換えれば、会社内で話し手より職位が上であると、「話題の人物—聞き手」の関係では、相対性を考慮せず敬語使用を選択すればよいと言える。

### 5.2.2 その分析

日本語と韓国語の両方、話題の人物が目上である場合は基本敬語を用いることが原則である。ちなみに、日本語の場合、家族内で行われる会話場面では特に敬語抜きで話す傾向が強い。それに対して韓国語の場合は家族内で行われる会話場面で話題の人物が目上だとそのまま敬語が用いられることが大きな特徴である。

### 5.3 二人称と三人称の両方を配慮する場合

#### 5.3.1 日韓両言語の実例

日本語には二人称と三人称の両方を配慮する方法として、例えば先行研究で論じた間接尊重語を用いることが考えられる。結婚式で司会を務める場面を設定し、皆の前に立って「私は、新郎と大学時代ずっと一緒に勉強させていただいた者です」と自己紹介をとする。

その日の主人公である新郎新婦を最大に立てる、個人的に新郎との時間や思い出に感謝の気持ちを込めている発話である。そして、結婚式場に招待された人々に対しても同時に気配りをするのであろう。

(161) 할아버지 이거 아버지한테 갖다 줄까요?

(おじいさん、これをお父さんにやりましょうか)

韓国語の場合、非敬語の与格助詞「-한테 (～に)」と同じく非敬語の動詞「주다 (やる)」を用いた表現を家庭内で行う。しかし、文末は対者敬語法を用いて話すことが普通である。

このような現象は「압존법 (圧尊法)」という韓国語の相対敬語的な面であるが、それが用いられる範囲はかなり限られている。<sup>16</sup>

(162) 할아버지, 아버지한테 아직 안 왔습니다. (○)

---

<sup>16</sup> 압존법 (壓尊法) : 높여야 할 대상이지만 듣는 이가 더 높을 때 그 공대를 줄이는 어법.  
高める対象 (=話題の人物) ではあるが、聞き手のほうがより高い位置に置かれている祭はその対象を高めない語法 (筆者訳)。日本語の漢字で直すと「圧尊法」となる。

(おじいさん、お父さんがまだ来ていません)

할아버지, 아버지께서 아직 안 오셨습니다. (×)

(おじいさん、お父さんにおかれましてまだ来られていません)

韓 (1989:197-98) によれば、家庭や職場という枠の外では聞き手とは一応無関係に話し手と話題の人物との関係によって、敬語の使用が決まるという特徴がある。しかし、家庭及び職場という枠の内では敬語の使用が話し手と聞き手と話題の人物との三者を共に考慮した上で決まるという相対敬語的な面も存在する。

最近の現象として先生の前で大学生が年齢の差の少ない先輩のことを敬語を使って話したり、若い女性が先生に対して自分の夫のことを敬語を使って話すということもしばしばある。韓 (1989) は「おそらく韓国語の相対敬語的な面はしだいに薄れて絶対敬語の色彩が強まっていくだろう」と述べている。

次に韓国の会社内で 3 人以上の場面を見てみると、以下の (163) の通りである。

(163) 백호 (ペッコ) : 자, 자, 커피 배달 왔습니다. 한잔씩 꼭 들고 하세요.

이건 우리 부장님 꺼.

さあ、コーヒーのデリバリーですよ。皆さん、一杯さっと飲んで仕事をしてください。

こちら部長の(です)。



신 부장 (신부장) : 강백호씨 센스 있네. 딱 줄릴 만한 타이밍인데……

칸·펙코君センスいいね。ちょうど、眠くなりそうなタイミングで……。

백호 (펙코) : 자, 이걸 우리 팀장님 꺼.

じゃあ、これはチーフの。

단풍 (단풍) : 아뇨, 전 됐어요.

いいえ、私は結構です。

백호 (펙코) : 아 참, 뽑아온 사람 성의를 생각해서라도, 한잔 주욱 드세요, 팀장님. 자, 이걸 우리 운 대리님 꺼. 이걸 우리 고 대리님 꺼. 그리고 이걸 우리 서주경 선배님 꺼. 어-!!

ええ、そんなー。持ってきてくれた人のことを思って……一杯どうぞ、チーフ。じゃ、これはヨン代理。これはコ代理。そして、これはソ・チュギョン先輩の。あっ!(コーヒーをこぼす)

주경 (주경) : 아유, 진짜 못 살아.

ああ、もういやだ。

(『미우나 고우나』第22話)

まず韓国の職場では、基本的に職位の後ろに「- 님 (-nim)」という日本語の「- 様」に相当する尊敬の接尾辞をつけて呼ぶことが普通である。たとえば、「부장님 (部長様)」や「과장님 (課長様)」などがその一部である。

また、話し手の「백호 (ペッコ)」が目上の上司たちに対して、「왓습니다 (上称hapnita体)」と「하세요 (略待丁寧形hejo体)」など対者敬語法を用いて話すことによって平等な丁寧さを表現している。

最後に語用論的な観点からみると、上司 (チーフ) の단풍 (タンブン) がコーヒーを断ったにもかかわらずペッコが積極的にもう一度誘っている場面も興味深いところである。部下のペッコが積極的な姿勢で自分の意見を主張していることはポライトネス理論から言うとポジティブ・ポライトネスの一つの戦略であり、実際最近の韓国の会社は積極的な社内ムードを求めている傾向が強い。

### 5.3.2 その分析

韓国語には聞き手と話題の人物の両方を配慮する方法として、文末敬語 (対者敬語法) が用いられることが多い。例 (163) で「백호 (ペッコ)」は、全員が自分より目上の上司なので誰を高めて、誰を低めるかを悩まずに対者敬語法 (「왓습니다 (上称hapnita体)」と「하세요 (略待丁寧形hejo体)」) を用いることで二人称と三人称の両方を配慮する効果を得ることが出来る。

## 5.4 そのまとめ

日本語と韓国語における敬語使用の実例を考察してみると、最も目立った特徴は家庭内での敬語使用である。日本語の場合、基本的に家族間では敬語を用いないものの、人によって文末を丁寧体にすることもある。しかし、韓国語の場合は敬語使用が礼儀に関わる問題でもあって、家庭内特に父親と祖父母に対する丁寧体にさらに尊敬語などを用いて聞き手や話題の人物を高める傾向が強いといえる。

次に、会社での敬語使用を見ると、韓国語の場合は基本的に年齢や職位などが敬

語使用の際に最も重要な要因であるため、高めるべき人を高めればいいルールがそのまま適用される。

しかし、日本語の場合は「ウチとソト」の概念が働き、会社外の人に会社内（話し手より目上の上司であっても）の人を下げて話すことが常識である。その代表的な例としては「ただ今社長が席を外しております」などが言えるだろう。

(164) 김비서 (キム秘書) : 부회장님, 어머…안색이 안 좋으신데 어디 편찮으세요?

副会長、顔色が悪そうですが、どこか具合悪いでしょうか。

부회장 (副会長) : 잠을 못 잤어. 김비서는 좋아보이는군.

あまり寝られなかった。キム秘書は元気そうだね。

김비서 (キム秘書) : 아, 저는 덕분에 오랜만에 폭 잤더니…。 어머, 이마에 뽀루지 난 거예요? 피부과 윤 박사님 불러드릴까요?

あ…私はお陰様でぐっすり寝ていまして…あれ、おでこにできものができていますよね？皮膚科のユン博士様を呼びましょうか。

부회장 (副会長) : 됐어.

いい。

김비서 (キム秘書) : 아니면 정박사님께 수면유도제라도 처방 받아드릴게요.

それとも、ジョン博士様に睡眠導入剤を処方し

てもらいましょうか。

例（164）で「キム秘書」は自分の上司である「副会長」に絶対敬語法を用いて発話をしており、会社外の人々（ユン博士様・ジョン博士様）に対しても丁寧に話し、日本語を基とした「ウチとソト」が韓国語には見えないだろう。<sup>17</sup>

また、「副会長」に対して秘書のキムさんが「顔色が悪い」と聞き、上司である副会長の私的領域に侵害していることが分かる。しかし、これが韓国の社会では失礼にならないため日本語の敬語使用とは異なる点である。

韓国語には、相手の私的領域に立ち入りながらも礼儀を保つことができ、その役割を果たしているのがあり、それが「対者敬語法」である。

---

<sup>17</sup> 韓国では、著名な医者と呼称として「- 박사님（博士様）」がよく使われる。

## 第6章 韓国語の対者敬語法

### 6.1 韓国語における「対者敬語法」の定義

李その他（2004）によると、韓国語では何より年齢が敬語法を決定する最も重要な作用をするものと考えられる。韓国で年齢は言語に対してだけではなく、生活全体において極めて大きな影響力を発揮する。年長者の前でタバコを吸ってはいけな  
いとか、ドアを開けて入るときも年長者が先に入ることなどから、食事をするとき  
も年長者が箸をとって初めて若い者も食べてよいということに至るまで、「長幼  
の序」の秩序が徹底して守られていると書いてある。

そういった韓国語における敬語には主体敬語法、客体敬語法、そして対者敬語法がある。前の二つの敬語法はある行為の主体に対して尊重するか否かを表現したり、目的語に置かれる話題の人物に対して尊重するか否かを決めたりする敬語体系である。しかし、対者敬語法はまず場面が登場しており、その中で誰を尊重するかが段階別に細分化されていることが大きな特徴である。<sup>18</sup>

まず、韓国語の原文から「対者敬語法」の定義をいくつか述べることにする。

- (165) a. 말하는 이가 어떤 대상이나 상대에 대하여 그의 높고 낮은 정도에 따라 언어적으로 구별하여 표현하는 방식이나 체계를 높임법이라고 한다. 높임법은 높임의 대상에 따라 상대 높임법, 주체 높임법, 객체 높임법으로 나뉜다.

---

<sup>18</sup> 韓国語では敬語法という用語以外にも 높임（ノッピム法）法、尊待法、待遇法、恭遜法など様々な用語があるが、本論文では敬語法という用語に統一する。

- b. ‘상대 높임법’은 말하는 이가 듣는 이에 대하여 높이거나 낮추어 말하는 방법이다. 상대 높임법은 종결 표현으로 실현되는데, 크게 격식체와 비 격식체로 나뉜다.
- c. 격식체는 높임의 순서에 따라 하십시오체, 하오체, 하계체, 해라체로 나뉘고, 비 격식체는 해요체와 해체로 나뉜다. 격식체는 의례적 용법으로 심리적인 거리감을 나타내는 데 반하여, 비 격식체는 정감 있고 격식을 덜 차리는 표현이다.

(서울대학교 국어교육연구소2002:173-177)

- a.話し手が、ある対象や相手を高めたり低めたりすることによって言語的に対象と相手を区別する表現方式や体系を敬語法（ノッピム法）と呼ぶ。敬語法（ノッピム法）は敬意を表す対象によって相対敬語法、主体敬語法、客体敬語法に分ける。
- b. 相対敬語法は話し手が、聞き手を高めたり低めたりして話す方法である。相対敬語法は終結表現で実現するものであり、大きく格式形と非格式形に分けられる。
- c. 格式形は高める順番によって「hasiosio体」、「hao体」、「hage体」、「hera体」に分け、非格式形は「hejo体」、「he体」に分ける。格式形は儀礼的な用法であり、心理的な距離感を表すのに対し、非格式形は格式張らず親しさが込められた表現である。

(筆者訳)

(166) 상대 높임법은 청자를 높이거나 낮추어 표현하는 높임법으로, 종결 어미에 의해 청자에 대한 높임이나 낮춤의 정도가 표현된다. 상대 높임법은 상황에 따라 격식체와 비격식체로 나뉜다. 격식체는 의례적인 상황에서 쓰는 표현으로 청자와의 심리적 거리가 먼 것을 나타낸다. 이에 속하는 것으로는 해라체, 하게체, 하오체, 하십시오체가 있다. 비격식체는 일상적인 상황에서 쓰는 표현으로 청자와의 심리적 거리가 가까운 것을 나타낸다. 이에 속하는 것으로는 해체, 해요체가 있다.

(박영목 외2014a:106-108)

相對敬語法は聞き手を高めたり低めたりして表現する敬語法であり、終結語尾によって聞き手に対する敬意の程度を表す表現である。相對敬語法は状況によって格式形と非格式形で分けられる。格式形は儀礼的な状況で用いられる表現として聞き手との心理的距離が遠いことを表す。ここに「hera体」、「hage体」、「hao体」、「hasipsio体」が属する。非格式形は日常生活で用いられる表現として、聞き手との心理的距離が近いことを表す。ここに「he体」、「hejo体」が属する。

(筆者訳)

(167) 상대 높임은 화자가 청자를 높이거나 낮추는 것을 가리키는데, 주로 문장의 종결 표현을 통해서 이루어진다.

상대 높임법은 격식체와 비 격식체로 나뉜다. 격식체는 대개 공식적이고 사무적인 경우에 쓰이며 ‘하십시오체, 하오체, 하게체, 해라

체’가 있고, 비 격식 체는 비공식적이고 사적인 경우에 주로 사용하며 ‘해요체, 해체’가 있다.

(이관규 외2014:116-117)

相對敬語法は話し手が聞き手を高めたり低めたりすることを示すものであり、主に文章の終結表現を通して構成される。

相對敬語法は格式形と非格式形に分けられる。格式形は、おおむね公式的で事務的な場面に用いられ、「hasiosio体」、「hao体」、「hage体」、「hera体」がある。非格式形は非公式的で私的な場合に主に用いられ、「hejo体」、「he体」がある。

(筆者訳)

- (168) 상대 높임법은 대화 상대인 청자를 높이거나 낮추어 표현하는 방법이다. 국어에서 상대 높임법은 종결 어미에 의해서 표현되며, 화자와 청자의 관계에 따라 크게 격식체와 비 격식체로 나뉜다. 격식체는 높임의 순서에 따라 하십시오체, 하오체, 하게체, 해라체로 나뉘며, 비 격식체는 해요체와 해체로 나뉜다. 격식체는 의례적 용법으로 심리적인 거리감을 나타내며, 비 격식체는 격식을 덜 차리는 표현으로, 친숙함을 드러낸다.

(한철우 외2014:136-137)

相對敬語法は対話の相手である聞き手を高めたり低めたりする方法である。韓国語で相對敬語法は終結語尾によって表現され、話し手と聞き



手の関係に従って大きく格式形と非格式形に分けられる。格式形は高める順番によって「hasiosio 体」、「hao 体」、「hage 体」、「hera 体」に分けられ、非格式形は「hejo 体」、「he 体」に分けられる。格式形は儀礼的な用法であって心理的な距離感を表し、非格式形は格式張らない表現で親しさを表す。<sup>19</sup>

## 6.2 「対者敬語法」から見たポライトネス理論の限界

韓国語における対者敬語法の先行研究では、心理的な距離感が格式形と非格式形を使い分ける要因であると述べている。図1を用いながら、対者敬語法の構成を説明すると、



図1 現代韓国標準語の対者待遇法 (滝浦 2008:39)

<sup>19</sup> 韓国語で書かれた先行研究では「相対敬語法」という用語で書いてあるが、筆者は李その他 (2004) と滝浦 (2008、2013) によって書かれた「対者敬語法」という用語で本論文を統一させる。

滝浦（2013）は、対者敬語法には「～体」と名称がついているが、どれも「する」という意味の動詞の名待遇形なので、直訳すれば、「hapnita 体」は「いたします体」、「hejo 体」は「します体」、「hanta 体」は「する体」、「he 体」は日本語でよく訳されるとき「～して」と訳される。現代の日常会話でよく用いられるのはこの4つと言われるが、日本語から見て興味深いのは、韓国語の話者が、「hapnita 体」対「hanta 体」、「hejo 体」対「he 体」という縦の対立を意識するだけでなく、「hapnita 体」対「hejo 体」、「hanta 体」と「he 体」といういわば横の対立も意識しながらそれらの形式を使い分けている事実であると指摘している。

「格式形」は伝統的な待遇形式で、年齢や上下のような位階秩序に忠実に選択されるものであり、「非格式形」は歴史も新しく、堅苦しい位階秩序にあまり囚われない社会的距離感の中での丁寧さの有無を表すという。

ここで滝浦（2013）の説明を参考にし、以下の韓国語の例文を見てみたい。

(63) 와아! 교수님 예쁘세요!

(先生、おきれいですね)

(64) 교수님 오늘 피곤해 보이세요. 얼굴색이 안 좋아요.

(先生、疲れて見えます。顔色が悪いですよ)

(井出 1999:48)

例（64）と（65）の下線を引いた部分は「hejo 体」で終わっていることを表す。社会的な雰囲気の中で関係性からの丁寧さを表している。そして、例（65）では積極的に相手への自分の意見を伝える場面であり、日本語からすると失礼に感じる人も居るだろう。

既に第4章で考察してきたように、日本語では敬語を用いて個人のアイデンティティーに深く関わる私的領域に触れることは不自然であり、その発話内容がポライトネス理論でいうポジティブ性を持っていても違和感を覚えるだろう。

しかし、韓国語では例(64)と(65)のような発話が自然に行われ、日本語との異なる点を示している。

また、非格式形の最も丁寧な「略待丁寧形 (hejo 体)」と格式形の最も丁寧な「上称 (hapnita 体)」が文中に同時に現れると韓国語学習者はその使い分けから混乱するわけである。例えば、例(87)をもう一度挙げてみると、

(87) 【昼食時に食堂でたまたま会った先生に男子学生が声をかける】

선생님 많이 드세요. 먼저 실례하겠습니다.

(先生、たくさん召し上がってください。お先に失礼します。)

滝浦(2013)は下線の部分は非格式形のへヨ体であるのに対し、波線の部分は格式形の上称体になっており、前者は「たくさん召し上がってください」と社会的距離感の中で相手を気遣うあいさつであるのに対し、後者は学生対先生の位階的秩序を反映したあいさつとして格式形が選ばれていると述べている。しかし、ここで筆者は第章で論じた日本から生まれた「なわ張り・私的領域」の概念を加えたほうがより理解しやすいと考えている。

韓国語における待遇形式と言及内容の関係をポライトネス理論の距離だけで説明すると、例(87)のよう、文中に違った対者敬語法が出るときの説明が不十分であろう。

<上下>的な距離を重視する韓国語の敬語では、目上の先生に対して生徒が声を

かける場面で格式形の「hapnita体」を用いることはふさわしくない。元々、格式形の「hapnita体」は格式形の中で上称であっても、一方的にそれを命令形の「-sio」にして先生に向けて使うと強圧的なニュアンスを与える可能性が高い。したがって、敬語を保ったまま相互作用が必要な場面では非格式形「hejo体」が使われることが適切である。また、その反対の例としては相互的な発話が求められず、中立性が求められるニュースでは格式形の「hapnita体」を用いて情報を伝達する。

次の例(89)のニュースの台本を見てみると、中立的な意見や気持ちを込めていない場合に用いられる格式形のhapnita体の色彩が帯びてくる。

(89) 문재인 대통령이 어젯밤 10시부터 한 시간 동안 트럼프 미국 대통령과 전화 통화를 하고 북한의 미사일 도발 대응 방안을 논의했습니다.

그제 미사일 발사 후 5시간 만에 통화를 한데 이어 한미 정상은 이틀 연속 통화한 것으로 현 정부 들어 처음입니다.

문 대통령은 북한의 대륙간탄도미사일 '화성 15형'이 가장 진전된 것임은 분명하지만, 대기권 재진입과 종말단계 유도 분야 기술이 입증되지 않았고, 핵탄두 소형화 여부도 불분명하다고 말했습니다.

그러면서 우리의 당면 과제는 핵 미사일 기술 진전 저지와 궁극적 폐기라고 강조했습니다.

韓国の文(ムン)大統領が昨晚10時から1時間に及んでアメリカのトランプ大統領と電話会談を行い、北朝鮮のミサイル挑発に対する対応方案を論議しました.

一昨日のミサイル発射後に5時間ぶりに通話をしたことに続き、韓米首脳が連日電話会談をしたのは、現政府に入って初めてのことであります。

文大統領は、北朝鮮が昨日発射されたミサイルがこれまでのミサイルの中で最も進んでいるものであることは明らかですが、大気圏への再突入や終末段階誘導分野における技術はまだ証明されておらず、核弾頭小型化技術確保の可否も不明だと述べました。

そう言いながら、文大統領は、私たちの当面課題は核ミサイル技術の進展阻止と完全な廃棄だと強調しました。<sup>20</sup>

(KBS放送局『12時ニュース』2017-12-01)

例(89)を見てみると、不特定多数に向けて語るニュースでは中立性が強調されるため全て格式形（上称）の「hapnita体」が用いられている。

韓国語では、目上の相手の私的領域に踏み込む発話の際に対者敬語法の非格式形の略待丁寧形が用いられ、非格式形の略待丁寧形を用いることによって相手に丁寧さを保ちながら親しさまで表せる効果がある。

(88) 【値引き交渉をするような衣料品店で店員が客に、客が店員に】

예쁘게 입으세요. 많이 파세요.

(きれいに着てください。たくさん売ってください。)

滝浦（2008）によると、次の（88）は相互的な目線で気遣いが表現されるときには、「hapnita体」ではなく「hejo体」が相応しかったり「hejo体」でないと表現

---

<sup>20</sup> 韓国のニュースに対して筆者がその台本を訳したものである。

できなかつたりする。他方、上向きの目線で「hapnita体」の挨拶をするとき、話し手は同じ待遇法の挨拶が返ってくることを期待するわけではない。その意味では、「hapnita体」の発話は一方向的であり、「hejo体」の発話は相互性ゆえに共感的であると書いてある。

しかし、対者敬語法は先行研究においては話し手の心的距離による判断に任せて使うものというポライトネス理論的な解釈が主になるものの、例(88)のよう、同じ文章で格式形の上称である「hapnita体」と非格式形の略待丁寧形である「hejo体」が同時に現れると、どういった判断で「hapnita体」と「hejo体」を使い分けて話すのかが明確に説明されていない。

### 6.3 「対者敬語法」における「非格式形」の特徴

対者敬語法の最も大きな特徴は、韓国語では対者敬語法を用いることで相手の指摘領域に立ち入りやすくなるのである。

アンケート調査を用いて説明をすると、聞き手の私的領域に深く関わることを韓国語では文末敬語（対者敬語法）を用いて、丁寧さと親しさを同時に表しながら聞けることが可能であるという結果が得られた。

- 사장님 커피 드시겠어요?
- 기쁜 일 있으세요?
- 무슨 일 있으세요?
- 여름 휴가 때 뭐 하실 생각이세요?
- 테니스 치실 줄 아세요?

## 6.4 日本語との対照

第4章でのアンケート調査の結果を用いて日本語と韓国語の文末体敬語法をまとめて対照してみると、日本語では敬語を用いたまま相手の私的領域に踏み込むことが容認できなかった。そのアンケート調査の質問をもう一度挙げてみると、文レベルでは正しいものの場面と相手が登場すると、いずれも日本語では非文であった。

- a. 聞き手の欲求・願望にかんするもの
  - ・ 社長、コーヒー召し上がりたいですか
- b. 聞き手の感情・心理状態・感覚に関するもの
  - ・ うれしいですか
  - ・ 何かありましたか
- c. 聞き手の意志決定に関するもの
  - ・ 夏休みは何をしようと思っていますか
- d. 聞き手の能力・行為の実現可能に関するもの
  - ・ テニスおできになりますか

しかし、韓国語の場合は、

- ・ 사장님 커피 드시겠어요?
- ・ 기쁜 일 있으세요?
- ・ 무슨 일 있으세요?
- ・ 여름 휴가 때 뭐 하실 생각이세요?
- ・ 테니스 치실 줄 아세요?

下線部のところを対者敬語法にすれば、相手の私的領域に関わる質問でも失礼にならなかった。

韓国人はより丁寧に話すとき的手段として、伝統的な格式形の上称 (hapnita 体) と新式な非格式形の略待丁寧形 (hejo 体) を上手く使い分けて使用している。

韓国語の場合は言及領域に関して聞き手の領域に立ち入ることの許容度が一般的に高い言語であるため、敬語を用いてなお相手の領域まで配慮する日本語とは異なっている。韓国語は、ある程度目上の人であっても敬語を用いたまま、その人の領域を侵害することが許容される。

しかし、まったく相手の領域を配慮していないわけではない。

例 (87) をもう一度見てみよう。

(87) 【昼食時に食堂でたまたま会った先生に学生が声をかける】

선생님, 많이 드세요. 먼저 실례하겠습니다.

(先生、たくさん召し上がってください。お先に失礼いたします。)

上の例文をみると、韓国語は自分の意見を積極的に述べながらも「召し上がる」に相当する「드시다tusida」に非格式「hejo体」を合わせた「드세요tusejo」形が用いられ、つまり相手が目上であることと相手との親しさを同時に表している。

滝浦 (2008) に書かれているヨコとタテの距離的な概念だけでは、日本語と韓国語を説明するのに限界があるかもしれない。日本語においては、上下関係よりは「話し手—(話題の人物)—聞き手」との関係を大事にする言語として私的領域を避けることが特徴である。しかし、それを説明するにはやはり<領域>のことを言及しないと説明しにくい部分がある。



韓国語においても、〈図 1〉を説明するとき、距離だけを論じるとかなり説得力が落ちると考えられる。また、韓国語は敬語形式を維持したまま、日本語より積極的に自分の意志や気持ちを表に表す傾向があるため、形態レベルでは見られなかった積極さが、例(63)と(64)のような談話レベルでは現れてくる。その点で韓国語のほうが日本語より相手の〈領域〉を立ち入りやすい言語であると言えるだろう。

ポライトネスにおける〈距離〉の観点と並行して〈領域〉の観点を用いたほうが韓国語の対者敬語法に相応しいと考えられる。

## 第7章 結論と展望

### 7.1 本論文のまとめ

本論文では、「ポライトネス理論」、「なわ張り・私的領域の理論」、「わきまえ理論」から日本語と韓国語における待遇表現に関して分析を進め、従来の研究ではあまり論じられていないわきまえ理論からの韓国語の待遇表現の考察、そして韓国語における対者敬語法を領域の観点とポライトネスの観点の両方を入れた解釈を行うことにした。そのため、文レベルおよび談話レベルにおける言語行動の分析には、作例やドラマの台本などのデータとアンケート調査を用いた。

以下では、第3章から第6章において考察してきたことやそれによって明確になった内容を詳細にまとめて示す。

第1章では、本研究を行う目的、研究方法を明確にした上で、本論文の進みを理解しやすくするため、全体の構成を述べることにした。

第2章では、日本語と韓国語における敬語体系に関する先行研究を概観した。日本語の先行研究としては菊地（1997）と蒲谷（2009）を中心にし、尊敬語・謙讓語・丁寧語を整理した。それに続き、韓国語の先行研究としては李その他（2004）に基づいて主体敬語法・客体敬語法・対者敬語法について整理した。

併せて、日本語と韓国語の敬語体系における類似点をまとめると、大きい特徴としては、聞き手や話題の人物が話し手より目上の場合、日本語では尊敬語が、韓国語では主体敬語法が用いられ、聞き手や話題の人物に対して尊敬の気持ちを表すことである。

- (2) ABC ネットワークの佐藤ですが、田中部長はいらっしゃいますか。

- (3) a. A先生がこの本をくださいました。  
b. この本は、A先生がくださったものです。
- (13) a. 아버지가 오시다/웃으신다.  
(お父さんがおいでになる/お笑いになる。)
- (20) b. 우리 선생님은 말씀을 참 재미있게 하신다.  
(私たちの先生はお話を実に面白くなさる。)

続いて、両言語の敬語体系における相違点は、日本語の敬語は謙讓語が非常に発達しているのに対して、韓国語の敬語は次第に絶対敬語の色彩が濃くなり、日本語の謙讓語に相当する客体敬語法より日本語の尊敬語に相当する主体敬語法のほうが発達していることである。

日本語と韓国語の敬語を以下の通り、一つの表にまとめたが、その違いがはっきりと分かるだろう。

5分類 (敬語の指針)		日本語	例文	韓国語	例文
尊敬語 (相手側又は、第3者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるもの)	直接尊重語 (動作の主体を高くする)	おっしゃる ・ お書きになる	(仕事のミーティングで)Bさんがおっしゃったやり方で、一回やってみたらどうでしょうか。	드시다/잡수시다 (召し上がる) ・ 게시다 (いらっしゃる)	아버지께서 진지를 잡수시고 계신다. (お父さんがご飯を召し上がっていらっしゃいます)
	恩恵直接尊重語 (動作の主体を高くする+恩恵)	くださる	せっかく誘ってくださったのに、申し訳ありません。	(目上の人が私に)くださる	사장님께서 나에게 펜을 주셨습니다. (社長が私にペンをくださいました)
謙讓語Ⅰ (自分側から相手側又は、第3者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるもの)	間接尊重語 (動作に関係する人物を高くする+動作の主体を高くしない)	伺う ・ お会いにする	改めてうかがいます。	뵙다(お目にかか る)	다시 찾아 뵙겠습니다. 다. (改めてうかがいます)
	恩恵間接尊重語 (動作に関係する人物を高くする+動作の主体を高くしない+恩恵)	いただく ・ お書きいただく	私はA先生に推薦状を書いていた。	드리다(私が目上の人に対して)差 上げる	나는 선생님께 와인을 드렸습니다. (私は先生にワインを差し上げました)
謙讓語Ⅱ (丁重語) (自分側も行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁重に述べるもの)	丁重語 (動作の主体を高くしない+改まり)	いたす ・ まいる	今後ともよろしくお願いたします。		
謙讓語Ⅰ + 謙讓語Ⅱ (丁重語)	尊重丁重語 (動作に関係する人物を高くする+動作の主体を高くしない+改まり)	ご説明いたす ・ 拝見いたす			
丁寧語	丁寧文体語 (文章・談話文体を丁寧にする)	です・ます	(デパートの店員が客に商品を勧める時に)こちらはいかがですか。	입니다(です) ・ 습니다(ます)	제가 하겠습니다. (私が致します)
	丁重文体語 (文章・談話文体を丁重にする)	でございます ・ であります	こちらでございます。		

表1 <日韓における敬語の比較>

第3章では、普遍性を主張するポライトネス理論の観点から敬語体系を有する日本語と韓国語を考察した。まず、ポライトネス理論においてネガティブ・ポライトネスのストラテジーとポジティブ・ポライトネスのストラテジーを論じ、それぞれ日本語と韓国語にどのような働きを持ち得るかを検討した。

そのうち日本語と韓国語におけるポライトネス理論の限界が見られると考え、特に両言語の文末体における敬語と改まった場面での言語行動に焦点を当てた。

(87) 「昼食時に食堂でたまたま会った先生に学生が声をかける」

선생님, 많이 드세요. 먼저 실례하겠습니다.

先生、たくさん召し上がってください。お先に失礼いたします。

(135) それでは僭越ですが……

(136) 恐れ入りますが

韓国語話者からすると、例(87)のような文末体で同時に現れる2つの対者敬語法はポライトネス理論を用いる解釈だけでは説明しきれないと考えた。また、日本語においても改まった場面での決まり文句(例(135)と(136))は周囲の状況を配慮して、自分の置かれた位置を認識しており、それに従った言語行動を取っていると考えた。

第4章では、ポライトネス理論で説明が不十分だと考えられた部分を実際のアンケート調査とドラマの台本で検討を行うことにした。

アンケート調査の結果をまとめると、日本人母語話者は敬語を用いて相手の私的領域を侵害することはなかなか容認できないようである。たとえば、「社長、コーヒーを召し上がりますか」、「夏休みは何をしようと思っていますか」など聞き手

と緊密にかかわる欲求・意志・能力・感情・感覚に関することについては如何に敬語を用いて丁寧に尋ねても失礼な言葉遣いになった。

それに対して、韓国語母話者は敬語を用いて相手に私的領域にかかわることを尋ねると聞き手の感情・心的態度に関するもの、たとえば「嬉しいですか」以外の質問は可能であるという結果を得た。つまり、韓国語は敬語を維持したまま、相手の私的領域（欲求・願望・意志・能力に関するもの）に日本語より侵害しやすいということである。

他方、わきまえについては井出（2006）に基づいて検討し、日本語ほど韓国語には前置き、改まった場面での決まり文句などの表現は見当たらなかった。しかし、韓国ドラマの台本から韓国語における言語行動にも話し手が置かれた場をわきまえ、それに相応しい言葉遣いをしていることがわかった。

最後に、本章で検討したような領域のことがBrown&Levinsonのポライトネス理論では問題にされていないため、日本語と韓国語では私的領域を大事に扱う必要があると考えられる。

第5章では、日本語母話話者と韓国語母話話者において具体的な観察を見ていくため、まず聞き手に関わる敬語使用とその次、話題の人物に向けての敬語使用を日本と韓国のドラマの台本で検討した。最後に聞き手と話題の人物両方を配慮する敬語使用を台本から検討しながら、日本語の「ウチとソト」の特徴と韓国語の「対者敬語法」の特徴を明らかにした。

(33) 사장님은 지금 자리에 안 계십니다.

(社長様は今席にいらっしゃいません。)

(87) 선생님, 많이 드세요. 먼저 실례하겠습니다.

(先生、たくさん召し上がってください。お先に失礼いたします。)

第6章では、日本語の丁寧体に相当する「です・ます」に相当する韓国語の対者敬語法は複雑なバリエーションを持ち合わせており、話題の人物を配慮しながら聞き手のことまで考慮していることを検討した。

韓国語における対者敬語法を検討する際、日本語と違った言語行動も見られた。それは、韓国語の対者敬語法を用いて発話することによって聞き手に積極的な意思表示が出来たり、敬語を用いながらも親しさを表す効果があったりして、相手に関わる領域に侵害しやすくなることがわかった。

(87) 선생님, 많이 드세요.

先生、たくさん召し上がってください。

(164) 부회장님, 어머...안색이 안 좋으신데 어디 편찮으세요?

副会長、顔色が悪そうですが、どこか具合悪いでしょうか。

そして、対者敬語法は先行研究においては話し手の心的距離による判断に任せて使うものというポライトネス理論的な解釈が主になるものの、日本語研究から生まれた「私的領域の理論」を加えた説明のほうが韓国語話者以外の学習者に説得力があると考えられる。

もう一度例文を取り上げてみると、

(63) 와아! 교수님 예쁘세요!

(先生、おきれいですね)

(64) 교수님 오늘 피곤해 보이세요. 얼굴색이 안 좋아요.

(先生、疲れて見えます。顔色が悪いですよ)

(87) 선생님, 많이 드세요.

(先生、たくさん召し上がってください。)

(88) 예쁘게 입으세요. 많이 파세요.

(きれいに着てください。たくさん売ってください。)

(164) 부회장님, 어머…안색이 안 좋으신데 어디 편찮으세요?

(副会長、顔色が悪そうですが、どこか具合悪いでしょうか。)

上記の例を通して共通しているのは文末に対者敬語法「非格式形」の中で「略待丁寧形 (hejo 体)」が用いられたことである。박영목 외 (2014) 他における先行研究では、「非格式形は格式張らず親しさが込められた表現である」、「非格式形は日常生活で用いられる表現として、聞き手との心理的距離が近いことを表す」、「非格式形は非公式的で私的な場合に主に用いられ、hejo 体、he 体がある」など主に心理的距離やカジュアルな場面で用いると述べている。しかし、滝浦 (2013) が述べたように、対者敬語法では「する」という意味の動詞の名待遇形なので、直訳すれば、hapnita 体は「いたします体」、hejo 体は「します体」、hanta 体は「する体」、he 体は日本語でよく訳されるとき「～して」と訳される。そして、日本語から見て興味深いのは、韓国語の話者が、hapnita 体対 hanta 体、hejo 体対 he 体という縦の対立を意識するだけでなく、hapnita 体対 hejo 体、hanta 体と he 体といういわば横の対立も意識しながらそれらの形式を使い分けている事実であると指摘している。しかし、韓国語学習者はその心理的距離や場面が分からず、どの場面で



「格式形の上称 (hapnita 体)」と「非格式形の略待丁寧形 (hejo 体)」を使い分けるのか混乱してしまう。

そこで、日本語研究から生まれた「私的領域の理論」を加えて、上記の例 (63) から (164) を説明すると、相手の領域に侵害するにも関わらず、自分の意思表示を丁寧に行おうとする場面では共通して、「格式形の上称 (hapnita 体)」ではなく、「非格式形の略待丁寧形 (hejo 体)」が用いられていることが確認できた。

すなわち、韓国語学習者に「格式形の上称 (hapnita 体)」と「非格式形の略待丁寧形 (hejo 体)」の使い分けを説明する際、心理的距離 (ポライトネス理論) だけではなく、相手の私的領域に入る場面かどうか (鈴木 (1997) の私的領域の理論) を共にして教えるとより理解しやすくなる。

以上が、本論文の主な研究意義と成果である。まとめると、社会言語学に基づき、日韓両言語に関する待遇表現の分析を通して、日本語と韓国語の相違点を明らかにした。また本研究では、アンケート調査を通して、同じ場面での敬語使用が日韓両言語のあいだでどれ程の違いが出てくるのかを実際に確認することが出来た。同じ敬語体系を有しても異なる待遇表現が現れる原因を普遍性の高い Brown&Levinson (1987) の「ポライトネス理論」から日本語研究から生まれた神尾、鈴木、井出が提唱した理論を用いて各章で照らし、日本語と韓国語における待遇表現の特徴を明らかにした。さらに、韓国語における対者敬語法の先行研究の定義から指摘し、その問題点を日本語研究から生まれた「私的領域の理論」で「格式形の上称 (hapnita 体)」と「非格式形の略待丁寧形 (hejo 体)」の使い分けを明確にすることが出来、少なくとも社会言語学的な視点に基づく日韓対照言語学の研究に貢献できれば幸いである。

## 7.2 残された課題

本研究は日韓両言語を整理し、そこから各理論に照らして言語運用の相違点を対照することに着目し、類似した待遇表現を有する日本語と韓国語を比較対照することによって、一つの言語に限定した研究では見えなかったことがより明確に見えてくることを示すことができた。

しかし、新たに見つかった問題点や残された課題も多い。まず、第5章で論じた「압존법(圧尊法)」に関して、韓美卿(1989:198)は「おそらく韓国語の相対敬語的な面はしだいに薄れて絶対敬語の色彩が強まっていくだろう」と「압존법(圧尊法)」という語法が薄れていくと主張し、それに対し白(1993:200)は「筆者の予測はそうではない」と反対の意見を主張した。「압존법(圧尊法)」は韓国語から見られる相対敬語の性質を持っている唯一の要素だと言って過言ではないため、今後その変化にも注目したい。

また本論文では敬語体系を有する日韓両言語のあいだでも同じ場面で違う言語行動が行われることを見てきた。第3章で論じた「ポライトネス理論」を含め、第4章のアンケート調査を人数に余裕を持って出来なかったことで今後は社会言語学の観点からも社会的な人間関係が大事である様々な人間関係での個人差・地域差・性差などにも目を向け、より具体的なカテゴリーを分けて言語調査を行うことにより本研究で明らかになった知見をさらに深めていきたい。

最後に、その知見を言語教育に運用することにより、非母語話者の韓国語学習にも効果的な役割を果たすことが期待される。

## 参考文献

### 【日本語】

- 銅直信子（2001）「日本語におけるポライトネスの現れ方 - 談話参加者の情報量を中心に」『敬愛大学国際研究』8, 53-80, 敬愛大学国際学会.
- 羽井佐昭彦（2002）「断りに見られるポライトネスの意識とコミュニケーション能力」『千葉工業大学研究報告 人文篇』39, 1-115, 千葉工業大学.
- 韓恵盛（2014）「日韓のポライトネスについて」『日本語学論説資料』第51号第5分冊増刊、106-118、論説資料保存会.
- 韓恵盛（2015）「日本語・韓国語・英語における待遇表現について」、修士論文、関西外国語大学大学院.
- 韓恵盛（2019）「親しさの表し方—日本語と韓国語をポジティブ・ポライトネスに照らして—」、『関西外国語大学大学院論集 FONS LINGVAE 42』、13-21、関西外国語大学大学院.
- 韓美卿(おお g)「韓国語の敬語の用法」『講座日本語学 12』明治書院.
- 韓美卿・梅田博之（2009）『韓国語の敬語入門—テレビドラマで学ぶ日韓の敬語比較』大修館書店.
- 韓美卿（1989）「韓国語の敬語の用法」, 宮地裕他編『講座日本語学 12: 外国語との対照Ⅲ』, 明治書院.
- 洪珉杓（1994）「日本語音声の丁寧さの社会言語学的研究」筑波大学大学院博士論文.
- 洪珉杓（1992）「日本人と韓国人の丁寧意識の比較」『計量国語学』18（7）, 324-335, 計量国語学会.
- 福田一雄（2013）『対人関係の言語学:ポライトネスからの眺め』開拓社.

- 井出祥子（1990）「待遇表現」『講座日本語と日本語教育 言語学要説（下）』12  
（pp. 148-173），明治書院.
- 井出祥子（1993）「対人関係修辞とポライトネス—社会語用論の立場から—（語用論  
の新展開〈特集〉）『英語青年』139（5），231-234，研究社.
- 井出祥子（2001）「国際化社会の中の敬語表現 - その国際性と文化独自性」『日本  
語学』20（4），4-13，明治書院.
- 井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子（1986）『日本人とアメリカ人の敬語行  
動—大学生の場合—』南雲堂.
- 井出祥子・櫻井千佳（1997）「視点とモダリティの言語行動」田窪行則編『視点と  
言語行動』（pp. 119-153），くろしお出版.
- 井出祥子・彭国躍（1994）「敬語表現のタイポロジー」『言語』23（9），43-50，  
大修館書店.
- 井出里咲子（1999）「親しき仲にも礼儀あり—日韓敬語の微妙な違い」『言語』28  
（11），48-51，大修館書店.
- 生田少子（1992）「対話ディスコースにおける politeness strategy（その1）」  
『明治学院論叢』495，59-74，明治学院大学文経学会.
- 曹英南（2002）「韓日映画における言いさし表現の対照語用論的研究—対人関係の  
観点から—」『日語日文学研究』41，83-98，韓國日語日文學會.
- 鄭惠卿（1991）「現代日本語の敬語における丁寧さの研究」筑波大学文学博士学位  
論文.
- 蒲谷宏（2013）『待遇コミュニケーション論』大修館書店.
- 蒲谷宏・金東奎・高木美嘉（2009）『敬語表現ハンドブック』大修館書店.
- 梶原しげる（2010）『敬語力の基本』日本実業出版社.

- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論—言語の機能的分析』大修館書店.
- 神尾昭雄 (2002) 『続・情報のなわ張り理論』大修館書店.
- 北尾謙治・北尾 S・キャスリーン (1988) 「ポライトネス—人間関係を維持するコミュニケーション手段—」『日本語学』7 (3) , 52-63, 明治書院.
- 菊地康人 (1994) 『敬語』角川書店.
- 菊地康人 (1996) 『敬語再入門』丸善ライブラリー205、丸善株式会社.
- 菊地康人 (2003) 「敬語とその主な研究テーマの概観」『朝倉日本語講座8—敬語—』朝倉書店.
- 北原保雄 (1978) 「敬語」『論集日本語研究』9, 有精堂.
- 北原安雄 (2004) 『問題な日本語』大修館書店.
- 北尾謙治・北尾 S・キャスリーン (1988) 「ポライトネス - 人間関係を維持するコミュニケーション手段」『日本語学』7(3), 52-63, 明治書院.
- 金田一京助 (1942) 「女性語と敬語」『国語研究』八雲書林.
- 金田一京助 (1959) 『日本の敬語』角川書店.
- 久野暲 (1973) 『日本文法研究』大修館書店.
- 久野暲 (1978) 『談話の文法』大修館書店.
- 李翊燮／李相億／蔡琬 (2004) 『韓国語概説』大修館書店.
- 栗原優 (1997) 「「丁寧さ」に関する英語と日本語の社会言語学的—考察 (1)」『大東文化大学紀要』35, 365-381, 大東文化大学.
- 栗原優 (1998) 「「丁寧さ」に関する英語と日本語の社会言語学的—考察 (2)」『大東文化大学紀要』36, 381-397, 大東文化大学.
- 小泉保 (1990) 『言外の言語学—日本語語用論—』三省堂.
- 小泉保 (2001) 『入門語用論研究—理論と応用—』研究社.

- 国立国語研究所（1960）『話しことばの文型（1）—対話資料による研究—』秀英出版.
- 国立国語研究所（1983）『国立国語研究所報告書77敬語と敬語意識』三省堂.
- ザトラウスキー、ポリー（1993）『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版.
- 宮島達夫・仁田義雄編（1995）『日本語類義表現の文法(上)単文編』（pp. 111-120）くろしお出版.
- 島弘子（1990）「文末の省略とポライトネス」名古屋大学大学院国際言語文化研究科修士論.
- 高橋太郎（1993）「省略によってできた述語形式」『日本語学』12（9）, 18-26, 明治書院.
- ター. 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店.
- 滝浦真人（2005）『日本語の敬語論』大修館書店.
- 滝浦真人（2008a）『ポライトネス入門』研究社.
- 滝浦真人（2008b）「〈距離〉と〈領域〉の語用論—日韓対照ポライトネス論のために—」森雄一（編）『ことばのダイナミズム』31-49, くろしお出版.
- 滝浦真人（2013）「〈距離〉と〈領域〉の語用論—日韓対照ポライトネス論のために—」韓美卿編『日本語学と日本語教育 4 敬語』27-113, ソウル:J&C.
- 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味第1巻』くろしお出版.
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味第2巻』くろしお出版.
- 辻村敏樹（1977）「日本語の敬語の構造と特色」大野晋, 柴田武編『岩波講座日本語4敬語（pp. 45-94）岩波書店.
- 時枝誠記（1941）『国語学原論』岩波書店.

- 外山映次 (1977) 「敬語の変遷 (2) —古代敬語から近代敬語へ—」 『日本語4—敬語—』 岩波書店.
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法』 くろしお出版.
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版.
- 益岡隆志 (1997) 「表現の主観性」 『視点と言語行動』 くろしお出版.
- 益岡隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』 くろしお出版.
- 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探究』 くろしお出版.
- 益岡隆志 (2009) 「日本語の尊敬構文と内・外の視点」 『「内」と「外」の言語学』 (pp. 3-22) 開拓社.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法 改訂版』 くろしお出版.
- 松村端子 (1999) 「日本語会話におけるポライトネス Brown and Levinson (1987) の妥当性を中心に」 『言語科学』 34, 51-60, 九州大学言語文化部言語研究会.
- 水谷信子 (1991) 「待遇表現指導の方法」 『日本語教育』 69, 24-35, 日本語教育学会.
- 南不二男 (1978) 「現代敬語の意味構造」 北原保雄編 『論集日本語研究9敬語』 (p. 17-36) 有精堂.
- 南不二男 (1987) 『敬語』 岩波書店.
- 三宅知宏 (1999) 「モダリティとポライトネス」 『言語』 28 (6), 64-69, 大修館書店.
- ネウストプニー, J.V (1983) 「敬語回避のストラテジーについて - 主として外国人場面の場合」 『日本語学』 2 (1), 62-67, 明治書院.
- 野間秀樹 (2012) 「待遇表現と待遇法を考えるために」 野間秀樹 (編) 『韓国語教

- 育論講座』第2巻, 521-570, 東京: くろしお出版.
- 野呂香代子 (1996) 「円滑な関係をめぐる言語活動の会話分析—Politeness再考—」  
『追手門経営論集』2 (2) , 119-138, 追手門学院大学経営学会.
- 荻野綱男 (1989) 「聞き手に対する敬語行動の理論」『国語学』158, 27-35, 国語  
学会.
- 生越直樹 (1996) 「朝鮮語との対照(日本語学の世界)」『日本語学』15-8:161-167,  
明治書院.
- 大石初太郎 (1974) 「敬語の仕組み」『ことばシリーズ1—敬語—』文化庁.
- 大石初太郎 (1986) 『敬語』筑摩書店.
- 白同善 (1993) 「絶対敬語と相対敬語—日韓敬語法の比較—」『世界の日本語教育』  
3:195-207, 国際交流基金日本語教育センター.
- 笹川洋子 (2016) 『日本語のポライトネス再考』春風社.
- 鈴木睦 (1997) 「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」『視点と言語行動』  
45-76, くろしお出版.
- 梅田博之 (1969) 「朝鮮語の敬語」『敬語講座』8, 明治書院.
- 梅田博之 (1976) 『韓国語 I・II』東京三中堂.
- 梅田博之 (1977) 「朝鮮語における敬語」『日本語4—敬語—』岩波書店.
- 梅田博之 (1987) 「韓国の敬語」『月刊言語』7月号、大修館書店.
- 梅田博之 (1991) 『スタンダードハンゲル講座』2、大修館書店.
- 宇佐美まゆみ (1993) 「談話レベルから見た “politeness” — “Politeness theor  
y” の普遍理論確立のために—」『ことば』14 (12) , 20-29, 現代日本語研究  
会.
- 宇佐美まゆみ (1995) 「談話レベルから見た敬語使用—スピーチレベルシフト生起



- の条件と機能一」『学苑』662, 27-42, 昭和女子大学近代文化研究所.
- 宇佐美まゆみ (1998) 「ポライトネス理論の展開：ディスコース・ポライトネスと  
いう捉え方」『日本研究・教育年報1997年度版』147-161, 東京外国語大学日本  
課程.
- 宇佐美まゆみ (2001a) 「談話のポライトネス—ポライトネスの談話理論構想—」  
国立国語研究所編『談話のポライトネス』(pp. 9-58), 凡人社.
- 宇佐美まゆみ (2001b) 「対人コミュニケーションの社会心理学—ディスコース・ポ  
ライトネスという観点から—」『言語』30 (7), 78-85, 大修館書店.
- 宇佐美まゆみ (2002) 「ポライトネス理論の展開(1)-(12)」(連載)『言語』31  
(1-12), 大修館書店.
- 宇佐美まゆみ (2003) 「異文化接触とポライトネス - ディスコース・ポライトネ  
ス理論の観点から—」『国語学』54 (3), 117-132, 国語学会.
- 厳廷美 (1997) 「日本と韓国の大学生の依頼の場面でのHedge表現使用における男  
女差の比較—主に丁寧さ (Politeness) の観点から—」『ことば』18, 27-40,  
現代日本語研究会.
- 山梨正明 (1986) 『発話行為』大修館書店.
- 山梨正明 (1989) 「語用論」崎山理編『講座日本語と日本語教育言語学要説 (上)』  
(pp. 214-248) 明治書院.
- 渡辺吉鎔・鈴木孝夫 (1981) 『朝鮮語のすすめ』講談社.
- 渡辺実 (1978) 「敬語体系」北原保雄編『論集日本語研究9敬語』(pp. 109-121) 有  
精堂.

## 【韓國語】

- 안병희 (1965) “15세기 공손법의 한 연구”, 국어국문학 28.
- 백용학 (1990) 「간접화행과 언표내적 힘에 관한 연구」 『언어와 언어교육』 5 (1), 39-63, 동아대학교 어학연구소.
- 한길 (1986) 「현대국어 반말에 대한 연구-반말 종결접미사를 중심으로」 연세대학교 대학원 박사논문.
- 한길 (2002) 현대 우리말의 높임법 연구, 역락출판사.
- 한미경 (2010) 일본어 경어의 청자배려에 대한 사적고찰-『捷解新語』의 문말형식을 중심으로-. 일본언어문화, 17, 291-313.
- 허종희 (1996) 「Politeness에 대한 연구」 『영어영문학』 15 (1), 161-175, 한국강원영어영문학회.
- 洪秉浩 (1992) 「영어와 한국어에 있어서의 문체와 ‘Politeness’ 에 관한 연구」 건국대학교 대학원 박사논문.
- 강길호 (1992) 「요청 상황에서 공손 전략과 공손 지각의 관계 : Brown과 Levinson의 공손 전략은 공손 지각의 정도에서 서열적인가?」 『韓國言論學報』 28, 5-31, 韓國言論學會.
- 김근수 (1947) 중학국어문법책, 문교당 출판부.
- 김미경 (1999) 「정보 구조화 관점에서 본 생략의 의미와 조건」 『담화와 인지』 6 (2), 61-88, 담화 인지 언어학회.
- 金成煥 (2002) 「현대국어의 경어법 고찰(Ⅱ)-청자 존대소 요를 중심으로-」 『대구교육대학교 논문집』 37, 1-22, 大邱教育大學校.
- 金漣淑 (1996) 「依頼發話行為strategyの韓・日対照研究」 중앙대학교 대학원 석사논문.

- 김영실 (1996) 「언어적 공손 현상의 화용론적 연구」 인하대학교 대학원 박사학위논문.
- 김옥 (1998) 「국어 접속문의 생략에 대한 고찰」 전남대학교 교육대학원 석사논문.
- 김용경 (1999) 「상대높임법에서 [+높임]의 분화 과정에 대한 연구」 『建國語文學』 23· 24, 317-339, 建國大學校國語國文學硏究會.
- 金鎰炳 (1984) 「尊待形態 ‘-요’ 에 대하여」 『국어교육』 49· 50, 293-315, 한국국어교육학회.
- 김정대 (1983) 「{요} 청자 존대법 (聽者尊待法) 에 대하여」 『加羅文化』 2, 129-167, 慶南大學校加羅文化硏究所.
- 김종록 (2002) 「종결어미 통합형 접속어미의 사전표제어 분석」 『語文學』 75, 1-19, 한국어문학회.
- 김태엽 (1997) 「국어의 문장 종결소」 『대구어문논총』, 15, 61-82, 대구어문학회.
- 김혜숙 (1986) 「현대국어의 대우법체계 연구」 동국대학교 대학원 박사논문.
- 김희숙 (1990) 「現代國語의 共遜表現 硏究」 숙명여자대학교 대학원 박사논문.
- 김석득 (1977) 더 낮춤법과 더 높임법, 언어와 언어학, 5.
- 김재민 (1994) 존대법 사용에 있어서 남녀 성 차이의 상관관계, 영어영문, 17.
- 김재민 (1998) 경어법 사용의 세대간 차이에 관한 사회언어학적 연구, 언어학, 6(2), 337-358.
- 김중진 (1976) 전북 고창 지역어의 경어법 연구, 국어문학, 18.
- 김혜숙 (1995) 현대 국어 생활에 나타난 높낮이 말씨 선택의 변화 양상, 사회언어학, 3(1), 17-34.

- 高永根 (1974) 「現代國語의 終結語尾에 對한 構造的硏究」 『語學硏究』 10(1), (pp. 118-157), 서울大學校 語學硏究所.
- 高永根(1984) 「現代國語의 尊卑法에 對한 硏究」 김중원編 『國語敬語法硏究』 (pp. 451-482) 集文堂.
- 고인수 (1991) 「담화에서의 완화현상에 관하여」 『인문논총』 1 (1), 1-26, 울산대학교 인문과학연구소.
- 고인수 (1996) 「언어학적 공손이론의 재평가: 영어와 한국어를 중심으로」 『인문논총』 10, 1-19, 울산대학교 인문과학연구소.
- 국립국어원 (2012) 『외국인을 위한 한국어 문법 1-체계편』 커뮤니케이션북스.
- 李圭昌 (1992) 『國語尊待法論』 集文堂.
- 이기갑 (1997) 「대우법 개념체계에 대한 연구」 『사회언어학』 5 (2), 645-669, 한국사회언어학회.
- 이관규 (2002) 학교문법론, 월인.
- 이익섭 (1974) “국어 경어법에 체계화 문제”, 국어학 2.
- 이익섭 (1994) 사회언어학, 민음사.
- 이익섭·임홍빈 (1983) 국어문법론, 학연사.
- 이익섭·채완 (1999) 국어 문법론 강의, 학연사.
- 이정복 (1994a) “계급집단의 경어법 사용에 대한 분석”, 사회언어학 2.
- 이정복 (1994b) 제3자 경어법 사용에 나타난 참여자 효과 연구, 국어학 24.
- 이정복 (1997) “방송언어의 가리킴 말에 나타난 ‘힘’ 과 ‘거리’”, 사회언어학 5-2.
- 이정복 (1998) “국어 경어법 사용의 전략적 특성”, 서울대 박사학위 논문.
- 이정복 (1999) 「국어 경어법의 전략적 용법에 대하여」 『語學硏究』 35 (1), 91-

- 121, 서울대학교 어학연구소.
- 이정복 (2002) 국어 경어법과 사회언어학, 월인.
- 이주행 (1994) “청자 대우법의 화계구분에 관한 고찰”, 어문논집 23, 중앙대학교 국어국문학과.
- 이주행 (1994) “현대국어 청자대우법의 화계 구분”, 선청어문 22, 서울대 국어교육과.
- 이주행 (2006) “한국어 청자 경어법의 교육 방안에 관한 고찰”, 한국어교육학회지 제119호, 한국어교육학회.
- 이혜영 (2005) “한국어 교육에서의 대우 표현 연구”, 국어학 제47집, 국어학회.
- 이희성 (2008) “한국어 높임법에 대한 외국인들의 인식 조사 및 역할극을 활용한 교수-학습 전략 연구”, 계명대학교 석사논문.
- 이은경 (1995) 「국어의 연결 어미 연구」 서울대학교 대학원 박사논문.
- 이승녕 (1954) “겸양법 연구”, 아세아연구 5-2.
- 이승녕 (1964) “경어법 연구”, 진단학보 25·26·27, 진단학회.
- 이승욱 (1973) 국어 경어법의 체계와 변천, 일조각.
- 임동훈 (2000) 한국어 어미 ‘-시-’의 문법, 태학사.
- 임동훈 (2006) “현대국어 경어법의 체계”, 국어학 47.
- 임지룡 (2015) 학교문법 상대 높임법의 새로운 이해. 한민족어문학, 69(0), 359-398.
- 조준학 (1980) 「화용론과 공손의 규칙」 『語学研究』 16 (1), 1-11, 서울대학교 어학연구소.
- 문병우 (2002) 『한국어 화용표지 연구 ‘-요’를 중심으로』 국학자료원.

- 박재연 (1998) 「현대국어 반말체 종결어미」 서울대학교 대학원 박사논문.
- 박상수 (1994) “한국어 존대법의 형태점검”, 현대문법연구 4.
- 박양규 (1975) “존칭 체언의 통사적 특징”, 진단학보 40.
- 박양규 (1993) 존대와 겸양, 문학과 지성사.
- 박영순 (1976) “국어 경어법의 사회언어학적 연구”, 국어국문학 72-73, 국어  
국문 학회.
- 서상준 (1996) 『현대국어의 상대높임법』 전남대학교 출판부.
- 서정수 (1984a) 「현대국어의 대우법—표식화 문제를 중심으로—」 김종원編 『国  
語敬語法研究』 (pp. 483-503) 集文堂.
- 서정수 (1984b) 존대법의 연구. 서울: 한신문화사.
- 成耆徹 (1984) 「国語 待遇法 研究」 김종원編 『国語敬語法研究』 (pp. 405-449)  
集文堂.
- 성기철 (1985) 현대국어 대우법 연구. 서울: 개문사.
- 신혜경 (1993) 한국과 일본 직장 남성들의 대우표현 비교 연구, 사회언어학, 1.
- 신혜경 (1996) 한국과 일본 대학생의 대우표현 비교 연구, 사회언어학, 4(1),  
83-97.

## 【英語】

- Brown, P. & Levinson, S. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge University, Cambridge. 田中典子 (監訳) (2011) 『ポライトネス: 言語使用における、ある普遍現象』 開拓社.
- Geoffrey Leech (2011) *Meaning and the English Verb* (Third edition) ひつじ書房.
- Goffman, E. (1956) *The presentation of self in every day life*, University of Edinburgh Press.
- Goffman, E. (1967) *Interaction Ritual: Essays on Face-to-Face Behavior*. New York: Gardner Press, Inc. (広瀬英彦・安江孝司訳(1986) 『儀礼としての相互行為』 法政 大学出版局) .
- Grice, H. P. (1975) Logic and Conversation. In P. Cole., & J. Morgan (Eds.) (1975). *Syntax and Semantics 3. Speech Acts* (pp. 41-58). New York: Academic Press.
- Gumperz, J. (1964) *Linguistic and Social Interaction in Two Communities*, *American Anthropologist* 66(6) part2.
- Heinemann & Viehweger (1991) , 백설자 역, 텍스트언어학 입문, 역락.
- Hymes, D. (1972) , *Models of the Interaction of Language and Social Life*, in Gumperz J. & D. Hymes, eds.
- Holtgraves, T., & Yang, J. (1990) Politeness as universal: Cross-cultural perception of request strategies and inferences based on their use. *Journal of Personality and Social Psychology* , 59(4) , 719-729.
- Holtgraves, T., & Yang, J. (1992). Interpersonal Underpinnings of Request Strategies: General Principles and Differences Due to Culture and

- Gender. *Journal of Personality and Social Psychology* , 6 2 (2), 246-256.
- Hwang, Juck-Ryoon. (1982). Deference versus politeness in Korean speech. In Harald Haarmann ., & Hwang Juck-Ryoon. (Eds.), *International Journal of the Sociology of Language* ( pp. 41-55 ). New York: Mouton De Gruyter.
- Jeong, Sooyeong (1999) Universality and cultural diversity in linguistic politeness strategies between American English and Korean. 『언어학』 7 (3), 361-378.
- Kasper, Gabriele. (1990) Linguistic politeness: current research issues. *Journal of Pragmatics* , 14 , 193-218.
- Kim, Kyu-Hyun., & Suh, Kyung-hee. (1994). The Discourse Connective *nikka* in Korean Conversation. In Noriko Akatsuka. (Ed.), *Japanese / Korean Linguistics4* (pp. 113-129). Stanford Linguistics association by CSLI publications.
- Labov, W. (1972) , *The transformation of experience in narrative syntax*, University of Pennsylvania Press.
- Lakoff, Robin. (1973) The Logic of Politeness; or, Minding Your P' s and q' s. In paper from *the ninth regional meeting of the Chicago Linguistic Society* (pp. 292-305). Chicago: Chicago Linguistic Society.
- Lee, Seen You., & Kang, Hyeon-Sook. (2001) Comparative Study of Refusal Response of Korean and English. 『人文科学』 8(1), 1-19.
- Leech, G. N. (1983) *Principles of Pragmatics*. London: Longman. (池上嘉彦・河上誓作訳 (1987) 『語用論』 紀伊国屋書店) .



- Levinson, S. C. (1990) *Pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.  
 (安井 稔・奥田夏子訳 (1990) 『英語語用論』 研究社).
- Lim, Tae-Seop. (1988) A new model of politeness in discourse. Michigan State University Ph. D.
- Lukoff, F. (1954) *A Grammar of Korean*. 펜실바니아대학교 박사학위 논문. 역대 한국문법 대계 2-78.
- Lukoff, F. (1978) On Honorific Reference, 과학사.
- Martin, S. E. (1964) *Speech Levels in Japanese and Korean*. in Hymes. *Language in Culture and Society: A Reader in Linguistics and Anthropology*. N. Y. Harper/Row.
- Matsumoto, Yoshiko (1988) REEXAMINATION OF THE UNIVERSALITY OF FACE : Politeness Phenomena in Japanese. *Journal of Pragmatics*, 12 , 403-426.
- Matsumoto, Yoshiko (1989) Politeness and conversational universals observations from Japanese. *Multilingua*, 8, 207-221.
- Meier, Ardith J. (1997) Teaching the universals of politeness. *EL T Journal*, 51(1), 21-28.
- Mey, J. L. (1993) *Pragmatics: An Introduction*. Oxford: Blackwell. (澤田治美・高司正夫 訳(1996) 『ことばは世界とどうかかわるか』 ひつじ書房) .
- Osgood, Ch. E. , Suci, G. J. , & Tannenbaum, P. H. (1957) *THE MEASUREMENT OF MEANING*. Urbana: University of Illinois Press.
- Park, Yong-Yae. (1999) *The Korean connective nuntye in conversational discourse*. *Journal of Pragmatics*, 31, 191-218.
- Reardon, K. (1987) *Interpersonal communication: where minds meet*. Wadsworth

Publishing Company.

Sankoff, G. (1974) *A Quantitative Paradigm for the Study of Communicative Competence*, in Bauman, R. & J. Sherzer eds.

Thomas, Jenny. (1995) *Meaning in Interaction*. London: Longman. (田中典子・津留崎毅・鶴田庸子・成瀬真理訳 (1998) 『語用論入門—話し手と聞き手の相互交渉 が生み出す意味—』 研究社) .

## 参考資料

국립국어원 표준국어대사전 (国立国語院標準国語大辞典)

<http://stdweb2.korean.go.kr/search/View.jsp?idx=226942>

日本語におけるコーパス : 『中納言』

[https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fj\\_spring\\_cas\\_security\\_check%3Bjsessionid%3DD4C12BB66036B1E0D44A622E81DC1273](https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fj_spring_cas_security_check%3Bjsessionid%3DD4C12BB66036B1E0D44A622E81DC1273)

韓国語におけるコーパス : 『국립국어원 언어정보나눔터』

<https://ithub.korean.go.kr/user/main.do#>

付録 I 調査票

調査協力をお願い

このアンケートは日本と韓国の言語行動を調査する目的で作成されました。

他の目的で使用されることはありませんので、気軽にお答えください。

ご自身について以下の点をお教えてください。

1. 年齢：（    ） 歳
2. 性別：  男性    女性

ご協力のほど、よろしく願いいたします。

質問1. 下の場面設定で「私」の部分における答えを日常生活で言えそうですか？

【場面設定：服屋でお洋服を買ってお店を出ようとしている】

店員： ありがとうございます。またお越してください。

私： たくさん売ってください。

- ① 全く言わない
- ② 自分は言わないものの普通に言えそう
- ③ 普通に言う

質問2. 「質問1」で設定した場面を想像しながら、自分の場合だとどう言い返しますか。自由に書いてください。（えしゃく、ジェスチャー、なども含む）

質問3. 以下の発話に対してどう思いますか。

- ・ 社長、コーヒー召し上がりたいですか。
- ・ うれしいですか。
- ・ 夏休みは何をしようと思っていますか。
- ・ テニスおできになりますか。

付録Ⅱ 調査票

조사에 협력해 주시면 감사하겠습니다

이 설문지는 일본과 한국의 대학생, 대학원생들의 언어행동에 관한 연구를 하기 위한 목적으로 작성되었습니다. 연구이외의 목적으로 사용하지 않으므로 부담없

이 설문에 답해주시면 감사하겠습니다.

아무쪼록 잘 부탁드립니다.

1. 연령 : 만( )세
2. 성별 : 남성 여성

질문1. 다음의 밑줄 친 부분의 발화를 일상생활에서 자주 쓰나요?

【장면설정】 옷가게에서 옷을 사고 나오는 장면

점원: 감사합니다. 또 오세요.

나: 많이 파세요.

- ① 말하지 않는다
- ② 본인은 잘 쓰지 않으나 어색하다고 느끼지 않는다.
- ③ 자주 쓴다

질문2. ‘질문1’의 장면을 상상하면서 본인의 경우 어떤 식으로 응답하나요?

자유롭게 기입해 주세요.

질문3. 다음 발화 내용에 대해 어떻게 생각하시나요?

- 사장님 커피 드시겠습니까?
- 기쁜 일 있으세요?
- 여름 휴가 때 뭐 하실 생각이세요?
- 테니스 치실 줄 아세요?

질문4. 다음의 대화에서 네모안의 부분만 교수님과 학생이 서로 반말로 대화를 하는 장면이 나옵니다. 한국어에서 이는 용인될까요? 자유롭게 의견을 써주세요.

【장면설정】 대학에서 교수님T과 대학생S이 초면에 그림카드를 나열하는 놀이를 하면서 나누는 대화 내용입니다.

先生(T1) : 자, 이것도, 어딘가에 넣어볼까요?

学生(S1) : 네

先生(T2) : 생긴 게 조금 다릅니다만...

学生(S2) : 아...

先生(T3) : 음... 걸어가서, 어떻게 할까요...

学生(S3) : 저기

先生(T4) : 응

学生(S4) : 팬찮은 생각이 떠올랐는데요

先生(T5) : 응

学生(S5) : 맨 처음 봉을 발견하고

先生(T6) : 응

学生(S6) : 뭔가 이거 못 쓰겠다고 생각했는데

先生(T7) : 응응

学生(S7) : 이런 벼랑에 다다라서

先生(T8) : 응

学生(S8) : 아, 이 봉을 쓸 수 있겠구나 라는 생각이 들었는데

先生(T9) : 아~그렇네요

学生(S9) : 그렇게 해보면 어떨까요.



図目次

図 1	現代韓国標準語の対者待遇法	25, 59, 117p
図 2	絶対敬語と相対敬語	31p
図 3	ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー	38p
図 4	ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー	39p

表目次

表 1	日韓両言語の敬語体系における比較	32, 128p
表 2	なわ張り理論の構成	69p
表 3	「많이 파세요」とたくさん売ってください	82p
表 4	韓国人の回答	83p
表 5	日本人の回答	83p